SUZUKI

Outboard motor

DF200AP

- ご使用になる前によくお読みください。
- 使用時にはこの取扱説明書を必ず携帯してください。

船外機取扱説明書

はじめに

スズキ船外機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
船外機は取扱いを誤ると重大な事故や故障の原因になります。
使用時にはこの取扱説明書を必ず携帯し、いつまでも快適なマリンライフをお楽しみください。

- **この取扱説明書には、船外機の正しい取扱い方法と簡単な保守・点検・整備などについて説明してあります。**
- **この取扱説明書には、使用に際して特に重要な留意事項を強調するために「⚠警 告・⚠注 意・注 記・アドバイス：」のシンボルマークを用いて表示してあります。**
  これらのシンボルマークにより強調して表現された内容は、以下のような意味を持ちますので特にしっかりお読みください。

⚠ 警　告	取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。
⚠ 注　意	取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。
注　記	取扱いを誤ると、船外機、ボートまたは他の物的損害につながるおそれのある内容です。
アドバイス	操作や保守点検を容易にしたり、重要な指示をさらに明確にするための特別な情報です。

- **ご使用時は、この取扱説明書を必ず携帯していつでも見ることができるようにしてください。**
- **この取扱説明書は、紛失や破損しないような場所に大切に保管してください。**

- この取扱説明書は製品の一部です。この船外機を転売や譲渡等される場合は、次に所有される方のために、この取扱説明書を船外機と一緒にお譲りください。
- 船外機の仕様などの変更により、この説明書の内容や図と、お買い求めいただいた船外機が一致しない場合があります。
  あらかじめご了承ください。
- ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのスズキ販売店またはスズキ特約店にご相談し、又はお申しつけください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面の販売店名、捺印を確認の上、大切に保存してください。

目　次

	ページ
詳細目次	2
1 安全に係わる情報【必ずお読みください】	4
2 型式と製造番号	8
3 燃料とオイル	9
4 各部の名称	12
5 各部の取扱い	15
6 モニターシステム	63
7 船外機の取付け	87
8 バッテリー	89
9 燃料給油	94
10 日常点検	95
11 ならし運転	97
12 運転・操作	99
13 調　整	118
14 取外しと運搬	130
15 定期点検	133
16 簡単な点検・整備	135
17 冷却水経路の洗浄	159
18 長期格納	163
19 トラブルと対処	166
20 仕様諸元	180
21 配線図	181
製品についてのご相談、ご要望は	184
点検・整備記録表	186

詳細目次

ページ

1 安全に係わる情報【必ずお読みください】..... 4
・オーナー・船長に守っていただきたいこと 4
・安全にご使用いただくために.. 4
・セーフティラベル貼付位置.. 6

2 型式と製造番号..... 8

3 燃料とオイル..... 9
燃　料..... 9
エンジンオイル..... 10
ギヤオイル..... 11

4 各部の名称..... 12

5 各部の取扱い..... 15
リモートコントロールボックス 15
・リモコンレバー 15
・PTT スイッチ..... 16
・レバー操作力調整スクリュー. 17
キーレススタートシステム... 18
・植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ..... 18
・イモビライザーシステム. 19
・携帯リモコン、緊急キー. 19
・携帯リモコンの通信モード切替. 21
・携帯リモコンの電池交換. 22
・暗証番号の登録 24
・暗証番号の確認 30
メインスイッチ（キーレススタートシステム装着の場合）.... 32
エンジンスイッチ（キーレススタートシステム非装着の場合).... 33
エマージェンシーストップスイッチ. 34
PTT スイッチ 36
スイッチパネル..... 38
・START & STOP スイッチ... 38
・SELECT スイッチ..... 39
・THROTTLE ONLY スイッチ.. 41
・SYNC スイッチ..... 42
・CENTER CTRL スイッチ.... 43
・UP・DN スイッチ..... 44

ページ

チルトアップロックレバー ... 45
マニュアルレリーズバルブ ... 45
チルトリミット調整レバー ... 46
エンジンカバーフックレバー. 46
燃料タンク 47
燃料ホース 47
マルチファンクションゲージ. 48
サブバッテリーケーブル 62

6 モニターシステム..... 63
モニターシステム 63
・ブザーチェック 64
オーバーレブ警告 65
オイルプレッシャー警告 66
オーバーヒート警告 68
バッテリー電圧警告 70
ウォーターインフューエル警報.. 72
DBW コントロールユニットフェイル警告 73
セカンドステーションエラー警告.. 74
電子スロットルフェイル警告. 75
電子シフトフェイル警告 76
マルチファンクションゲージ通信異常警告 77
キーレススタートシステム認証エラー警告（キーレススタートシステム装着の場合）..... 78
携帯リモコンバッテリー電圧低下警告（キーレススタートシステム装着の場合）..... 80
キーレスユニットバッテリー電圧低下警告（キーレススタートシステム装着の場合）..... 81
ダイアグノーシス 82
オイルチェンジリマインダーシステム 83
・表示機能の作動..... 83
・表示のキャンセル..... 84
エンジンストールお知らせ機能. 86

7 船外機の取付け..... 87
船外機の取付け 87
ロワーユニット回転の選択 ... 88

8 バッテリー..... 89
推奨バッテリー 89

ページ
バッテリーの取付け 89
バッテリーケーブルの接続 ... 90
バッテリーケーブルの取外し . 92
アクセサリー用バッテリー ... 92

9 燃料給油 94

10 日常点検 95

11 ならし運転 97

12 運転・操作 99
エンジン始動 99
・エンジン始動要領..... 99
・検　水..... 105
シフト操作・スピードコントロール . 106
・前　進..... 107
・後　進..... 107
・スピードコントロール... 107
エンジン停止 108
操船席の切替え 111
浅瀬航走 113
チルトアップ／ダウン 114
・チルトアップ..... 114
・チルトダウン..... 117
係　留 117
寒冷地での使用 117

13 調　整 118
プロペラ 118
・ロワーユニット回転の識別とプロペラタイプの選択... 118
・プロペラの選択..... 120
トローリングスピード 121
トリムタブ 122
トリム角の調整 123
トロールモードの操作 125

14 取外しと運搬 130
取外し 130
運　搬 130
トレーラーリング 132

15 定期点検 133

16 簡単な点検・整備 135
スパークプラグ 135
・取外し..... 135
・点　検..... 136

ページ
・取付け 136
エンジンオイル..... 138
・オイル量、汚れの点検 .. 138
・エンジンオイルの補給 .. 139
・エンジンオイル交換 140
エンジンオイルフィルター.. 144
バランサーチェーン..... 144
燃料系統／ブリーザーホース . 145
・燃料系統 145
・低圧燃料フィルター 146
・低圧燃料フィルターの清掃. 146
・ブリーザーホース 149
ギヤオイル..... 150
・オイル交換 150
・ギヤオイルレベルの点検.. 152
アノード..... 152
バッテリー..... 153
・バッテリー液量の点検 .. 154
・バッテリー液の補給 154
ボルト&ナット..... 154
給油／給脂..... 155
プロペラ..... 156
・点　検 156
・プロペラの取外し 156
・プロペラの取付け 157
エンジンカバー..... 158

17 冷却水経路の洗浄 159

18 長期格納 163
格納前の整備..... 163
格納後（使用前）の整備.... 165

19 トラブルと対処 166
トラブルシューティング.... 166
ヒューズが切れたとき..... 170
水没船外機の処置..... 172
緊急時の始動要領（キーレススタートシステム装着の場合 . 173

20 仕様諸元 180

21 配線図 181

製品についてのご相談、ご要望は .. 184

点検・整備記録表 186

1 安全に係わる情報

⚠ 警 告

この「安全に係わる情報」の章 に記載された事項を怠ると、重大な人身事故を招いたり、船外機、ボートが損傷する原因になります。
必ずこの章に記述した事項を厳守してください。

オーナー・船長に守っていただきたいこと

- ご使用前に、この取扱説明書をよく読んで理解してください。
- 取扱説明書に従って適切なメンテナンスと定期点検を実施してください。

安全にご使用いただくために

- ご使用前に艇体・船外機の取扱説明書と艇体・船外機に貼り付けられている全ての注意書きやラベルをよく読み内容を十分に理解してください。
- ボートのオーバーパワーは、操縦が不安定になり転覆等のおそれがあります。
  ボートの指定最大出力を超えるエンジンを搭載しないでください。
- 船外機の機能に影響する改造は、絶対におこなわないでください。
- ご使用の都度、ご使用前に必ず日常点検を行ってください。
  必要な点検項目は、この取扱説明書の「10 日常点検」の章に記載してあります。
- 出航前には日常点検に併せ、各部の作動点検をしてください。
  スロットル／シフトコントロール、全てのスイッチ類、ステアリング装置が適正に機能するかを点検してください。
- 排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をひきおこすおそれがあります。
  ボートハウスなど閉め切った所では、エンジンを始動しないでください。
- 気化したガソリンは引火爆発のおそれがあります。
  ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。
- 最初は安全な場所でボート・船外機の全ての装置の操作方法、操船（発進・停止・後進・旋回）の感覚を習得し、その後航走の練習をしてください。

各種装置の操作方法、ボート・船外機の特性の全てを完全に理解するまでは全速で航走しないでください。

・操船者自身の技術レベル、海面の状況に合った安全なスピードで操船することを常に心がけてください。

・海の気象は変わり易いものです。常に天気予報を確認し、天気が悪くなりそうなときは出航しないことや寄港することを守ってください。

・航行計画をマリーナ、身内又は友人に知らせておいてください。

・出航時には必ず安全備品を携行しましょう。
いつでも使用できるよう、整理・整頓をして積み込んでください。

ライフジャケット・救命浮環・アンカー・ロープ・バケツ・工具・パドル・消火器・呼子・発煙灯・予備燃料・救急箱 等。

・乗船者は全員、日本小型船舶検査機構認定のライフジャケットを正しく着用してください。

・酒気を帯びたり、正常な判断及び運転技術を妨げるおそれのある薬物を服用した状態で操船をしないでください。

・船外機を乗船や下船のときの足場や取っ手として利用しないでください。

・乗船者に緊急事態の心得について指導してください。
操船要領、緊急事態・トラブルが起きたとき、どのように対処すればよいかという基本的な事項を説明してください。

・海の交通法規、それぞれの使用地域で規定された法規や条例を守ってください。

・操船中はエマージェンシーストップスイッチのエンジンストップスイッチコードを体の一部（手・足・衣服・ライフジャケット等の丈夫な場所）に必ず付けてください。

・常に守りの姿勢で操船してください。
操船中は他の船舶、ボート、スキーヤー、ダイバー、遊泳者がいないか、水中に障害物がないか、常に全方向に細心の注意を払い、安全なスピードで運転してください。

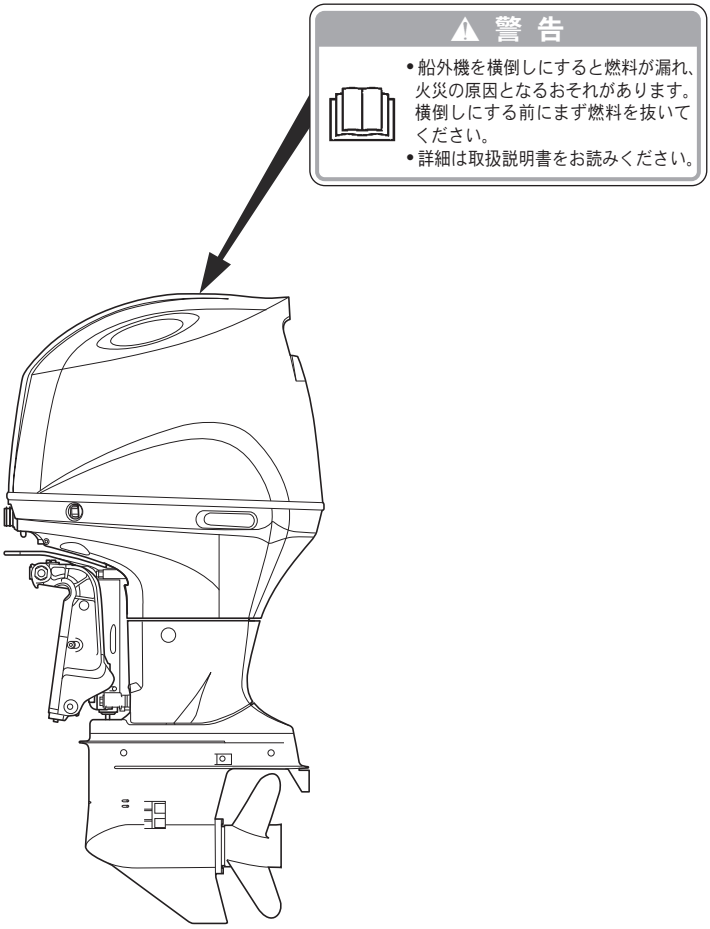
・遊泳者には近づかないようにしてください。

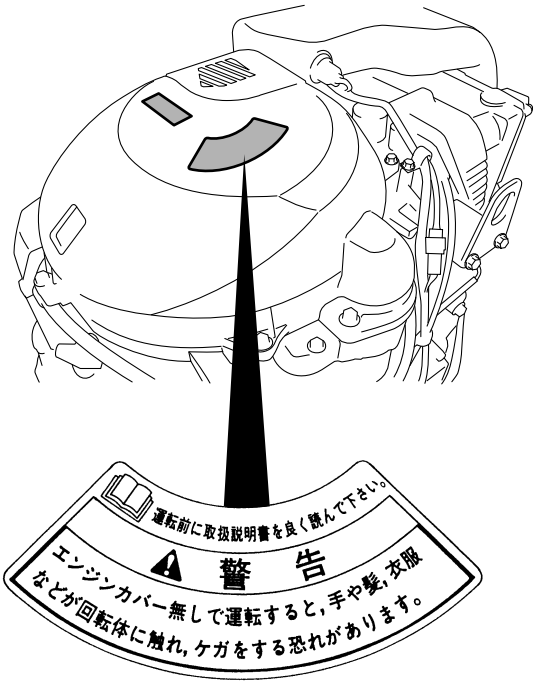
・遊泳時にはエンジンを停止してください。

・船外機の部品交換、並びに用品の選択と組付けを行うときは、特に注意をしてください。
不適切な、又は粗悪な部品を使用すると、船外機の作動が不安定になり悪影響をあたえます。
スズキ純正部品・用品及びスズキが推奨する部品を使用してください。

セーフティラベル貼付位置

・警告／注意 のラベルをよく読んで内容を理解してください。
・警告／注意 のラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

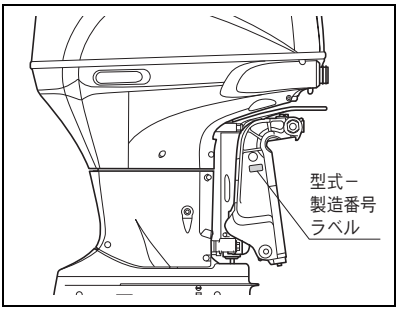



運転前に取扱説明書を良く読んでください。
警　告
エンジンカバー無しで運転すると，手や髪，衣服
などが回転体に触れ，ケガをする恐れがあります。

2 型式と製造番号

船外機の型式と製造番号がクランプブラケットに貼りつけてあるラベルに印字してあります。

型式・製造番号は、スズキ特約店またはスズキ販売店が迅速で的確なサービスを行うために必要となります。



アドバイス

スズキ特約店またはスズキ販売店へ本製品のこと、アフターサービスや部品についてのご相談時には型式と製造番号を確認の上、正確にご連絡してください。

今後のご相談時のために、お買い求めいただきました船外機の型式と製造番号を控えておくと便利です。

型　式	製造番号

3 燃料とオイル

燃　料

⚠ 警　告

気化したガソリンは、引火爆発のおそれがあります。
ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。

⚠ 警　告

ガソリンは、引火しやすく火災のおそれがあります。
燃料タンクへの給油時や取扱い時には、次のことを守ってください。
・火気厳禁です。タバコをすったり、火気を近づけないでください。
　また燃え易いものを近づけないでください。
・給油は、エンジンを停止してから行ってください。
・給油は、風通しの良い所で行ってください。
・ポータブル燃料タンクへの給油は、タンクを船外におろして行ってください。
・燃料をこぼさないでください。
　こぼれたガソリンは、布などでただちに拭き取り、その布は火災及び環境に留意して処分してください。
・燃料タンクへは、規定容量以上給油しないでください。
・燃料タンクキャップは、ゆっくりとあけ、給油後は、所定の位置に確実に締めてください。

アドバイス

無鉛レギュラーガソリンをお使いください。

注　記

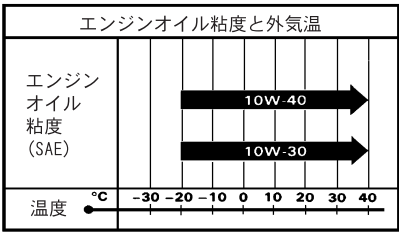
・常に水やゴミ等の混入がない新しいガソリンを使用してください。
・ガソリンは、長期間燃料タンクに入れておくと変質します。
　変質したガソリンを使用するとエンジン不調の原因になります。

エンジンオイル

注　記

エンジンオイルは、エンジン性能と寿命に重大な影響を与えます。
オイルは良質で、適正なものを選択してください。

・4サイクルエンジンオイルの良質なもので、API 分類の SG、SH、SJ、SL 級以上を使用してください。
・エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものをご使用ください。
SAE10W － 40 は、年間を通して使用できます。



アドバイス

低温時（－5℃以下）では、エンジンの良好な始動性と運転性能を得るために、SAE 5 W － 30 の使用を推奨します。

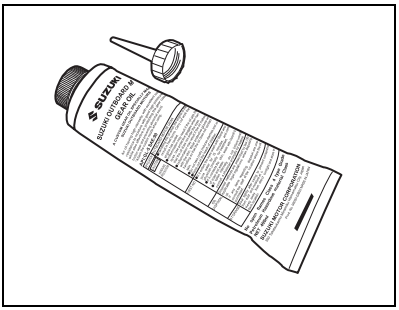
推奨エンジンオイル：
スズキ純正「エクスターオイル」
・API 分類： SG、SH、SJ、SL
・SAE 規格： 10W-40、10W-30

アドバイス

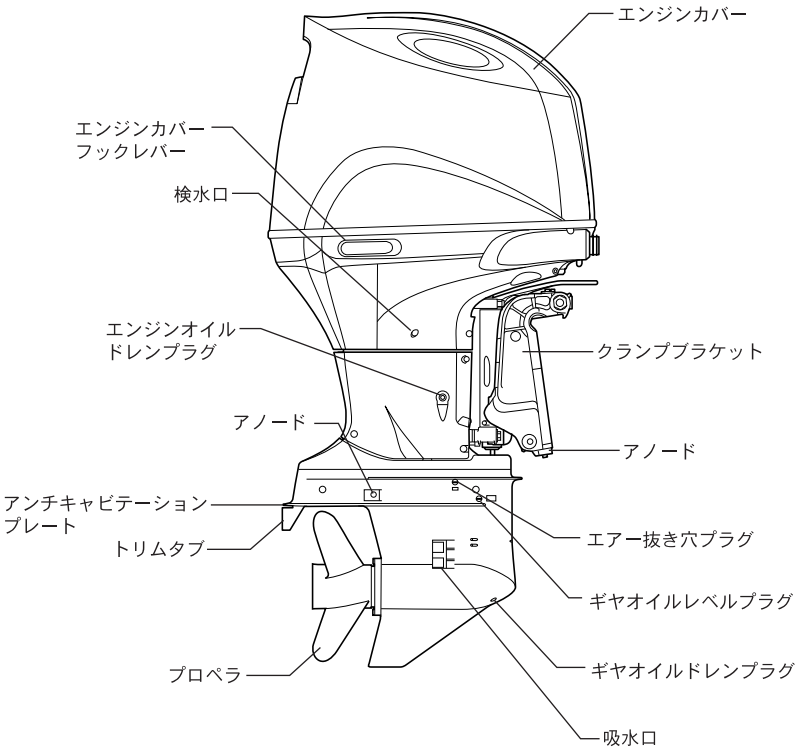
お買い求めいただきました船外機は、工場からはエンジンオイルが無い状態で出荷されます。
船外機を使用する前に、必ずエンジンオイルを給油してください。
エンジンオイルの給油：
「16 簡単な点検・整備」の章、エンジンオイルの項（139 ～ 140 ページ）を参照してください。

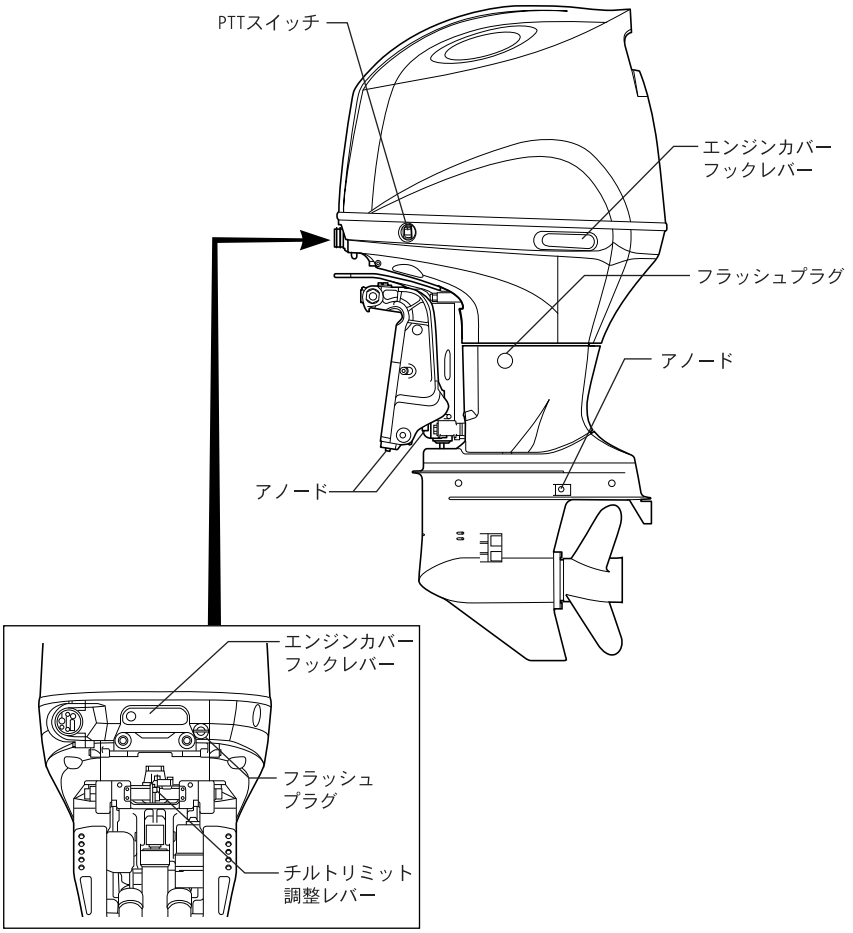
ギヤオイル

スズキ純正
「スズキアウトボードモーターギヤオイル」
または
ハイポイドギヤオイル SAE90、
API 分類 GL-5 相当品
をお使いください。

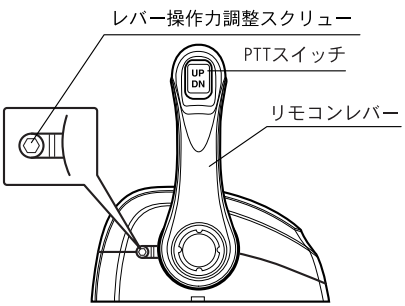


4 各部の名称

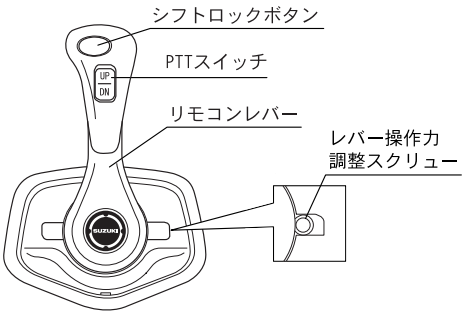

エンジンカバー
エンジンカバー
フックレバー
検水口
エンジンオイル
ドレンプラグ
クランプブラケット
アノード
アノード
アンチキャビテーション
プレート
トリムタブ
エアー抜き穴プラグ
ギヤオイルレベルプラグ
ギヤオイルドレンプラグ
プロペラ
吸水口


PTTスイッチ
エンジンカバー
フックレバー
フラッシュプラグ
アノード
アノード
エンジンカバー
フックレバー
フラッシュ
プラグ
チルトリミット
調整レバー

リモートコントロールボックス

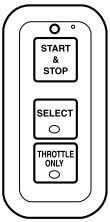


トップマウントタイプ

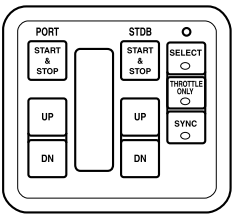


フラッシュマウントタイプ(別売品)

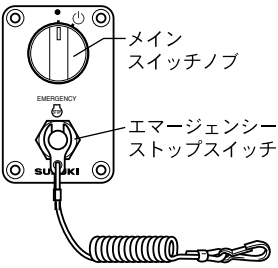
スイッチパネル



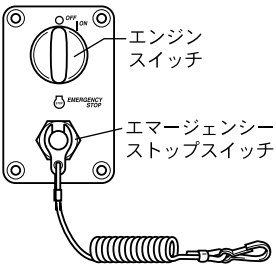
シングル
エンジン用



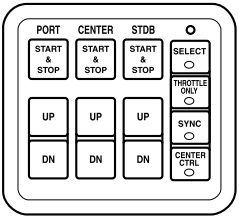
ツインエンジン用
4機掛けエンジン用(別売品)



キーレススタートシステム
装着の場合

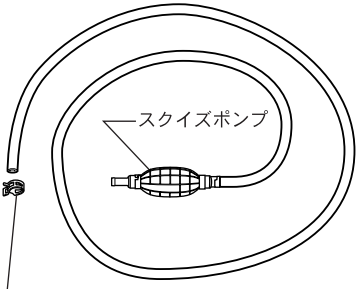


キーレススタートシステム
非装着の場合(別売品)



トリプルエンジン用(別売品)

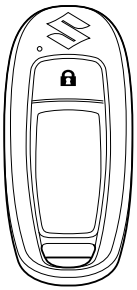
燃料ホース



メーター

マルチファンクションゲージ

携帯リモコン



キーレススタートシステム装着の場合

5 各部の取扱い

リモートコントロールボックス

運転席から船外機のシフト、スロットル、電気系統の装置の作動・停止等を遠隔操作するための装置です。

■リモコンレバー

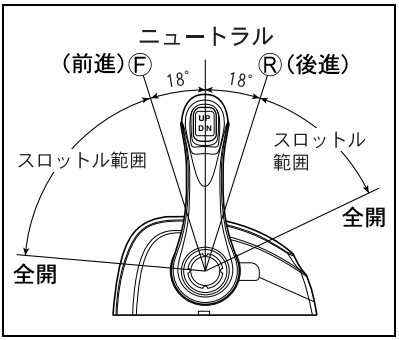
前進、ニュートラル（中立)、後進の切り替えとエンジンのスピード調整をするレバーです。

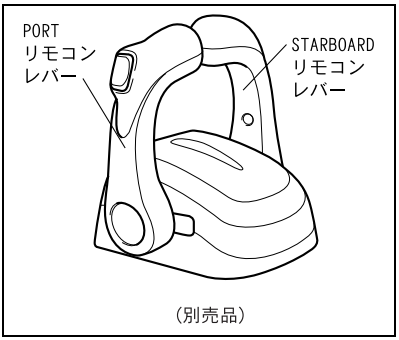
レバーをニュートラル(中立・N)位置から;

・前側（F 位置）に約 18 度倒すとクラッチがつながり、最低速度で前進します。

・後側（R 位置）に約 18 度倒すとクラッチがつながり、最低速度で後進します。

レバーを前進側・後進側にクラッチがつながった位置から、さらに倒すとスロットルが開きエンジンスピードが上がります。
レバーの倒しかげんによりエンジンスピードの調整をします。





アドバイス

3 機掛けと 4 機掛けの場合、リモートコントロールボックスのレバーは、次のエンジンのシフトチェンジ、エンジンスピードを制御します。
3 機掛けの場合：
PORT(左舷側）リモコンレバーは PORT エンジンとセンター（中央）エンジン、STARBOARD(右舷側）リモコンレバーは STARBOARD エンジンを制御します。
4 機掛けの場合：
PORT(左舷側）リモコンレバーは PORT 側 2 機のエンジン、STARBOARD(右舷側）リモコンレバーは STARBOARD 側 2 機のエンジンを制御します。

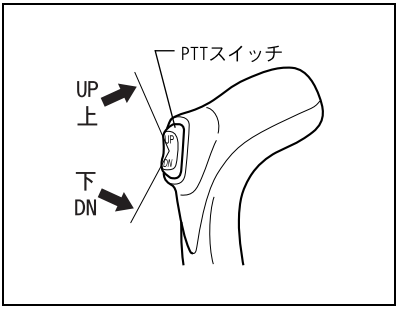
アドバイス

・エンジンが回転していないと、リモコンレバーを操作してもクラッチは前進・後進に切替えることができません。
・エンジンが止まるとリモコンレバーの位置に関係なくクラッチはニュートラルに戻ります。

■ PTT スイッチ

⚠ 警　告

ドライブユニットとクランプブラケットの間に挟まれるとけがをします。
PTT スイッチを操作し、トリム／チルトを上げたり下げたりする時は、船外機の付近に人がいないことを確認した後に行ってください。



PTT スイッチは、船外機のチルトの上げ下げとトリム角を調整する時に操作をします。

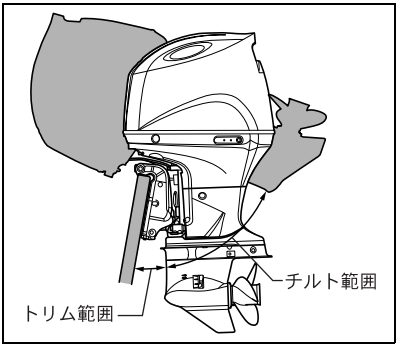
アドバイス

・【キーレススタートシステム装着の場合】
キーレススタートシステムがON状態でないとスイッチを押してもトリム／チルトの上げ下げができません。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンスイッチのキーが“ON”の位置でないとスイッチを押してもトリム／チルトの上げ下げができません。
・ツインレバーリモコンの場合、リモコンレバーについている PTT スイッチは、全てのエンジンを同時に制御します。

・スイッチの“UP”側を押している間だけトリム／チルトの角度が増加するように油圧装置が作動します。

・スイッチの“DN”側を押している間だけトリム／チルトの角度が減少するように油圧装置が作動します。

・スイッチから手を離すと油圧装置が作動を停止し、船外機は、そのときのトリム／チルト角を保持して止まります。



■レバー操作力調整スクリュー

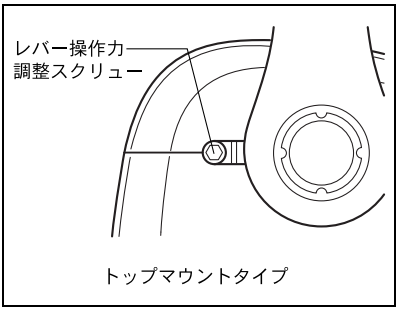
リモコンレバーを操作するときの重さを、操船者の好みに合わせ、調整するためのスクリューです。

アドバイス

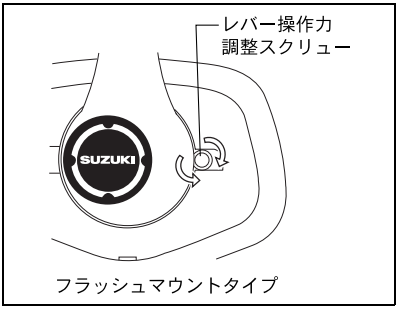
リモコンレバーを操作する時の重さは
・スクリューを締め込むと重くなり、
・スクリューを緩めると軽くなります。

⚠ 警 告

エンジン運転中の調整は、思いがけない事故につながるおそれがあります。リモコンレバーの操作重さの調整は、エンジン停止中に行ってください。

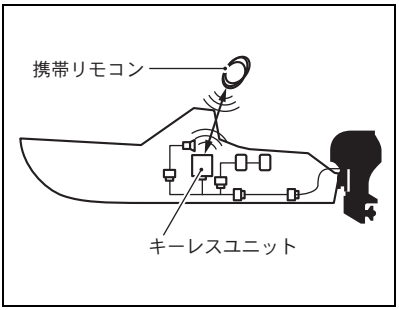


トップマウントタイプ



フラッシュマウントタイプ

キーレススタートシステム



このシステムは、メカニカルキーを使用せず、携帯リモコンを携帯することで、携帯リモコンとキーレスユニット間で通信が行われ、エンジン始動ができるシステムです。携帯リモコンと、キーレスユニットが通信可能範囲（80cm 以内）にある時、エンジンを始動することができます。
さらに、このシステムには、イモビライザー（盗難抑止装置）機能を搭載しています。

アドバイス

キーレススタートシステムの取付けはスズキ取扱店またはスズキ販売店にご相談してください。

アドバイス

キーレススタートシステムの取扱いの詳細は、製品に添付されている「キーレススタートシステム取扱説明書」をご覧ください。

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

⚠ 警 告

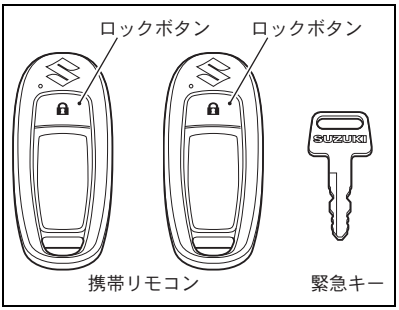
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、キーレスユニットから約 22cm 以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。**
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレススタートシステムの電波が医療用電気機器の作動に影響を与える場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。**
- **影響が懸念される場合は本製品を使用しないでください。**

イモビライザーシステム

このシステムは、盗難防止のため、携帯リモコンが電波でキーレスユニットと通信することによって、あらかじめ登録された携帯リモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

携帯リモコン、緊急キー

キーレススタートシステムのキットの付属品には、2 個の携帯リモコンがあります。緊急キーはメインスイッチパネルに 1 個付属されています。



⚠ 警　告

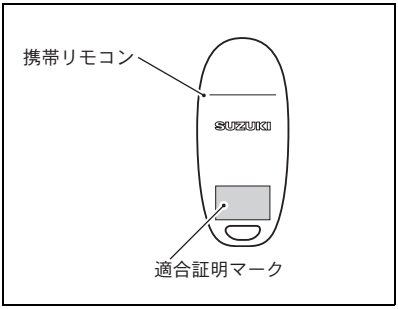
航空機内で携帯リモコンのロックボタンを押すと、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたす恐れがあります。
携帯リモコンを航空機内へ持ち込む場合は、機内でロックボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単にロックボタンが押されないように収納してください。
※携帯リモコンは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

注　記

携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話や他のリモコンなどの無線通信機器に影響を与えることがあります。
必要以上に携帯リモコンのロックボタンの操作をしないでください。

⚠ 注　意

携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造を行うと、発火や感電、けがのおそれがあります。
携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。また、改造等を行うと法律により処罰されることがあります。



注　記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。携帯リモコンの故障を防ぐため、次のことをお守りください。
- **ボートのインパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

アドバイス

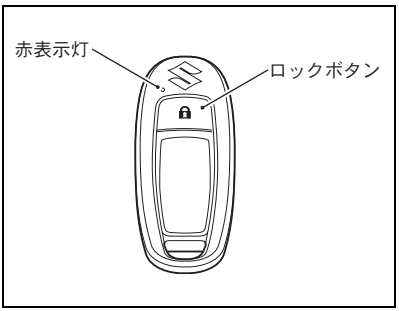
- **携帯リモコンの適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。**
- **1 台のキーレスユニットには、6 個の携帯リモコンまで登録できます。**
- **携帯リモコンの電池の寿命は使用状況により異なりますが約 2 年です。早めの電池交換をおすすめします。**
- **携帯リモコンは、キーレスユニットと通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。携帯リモコンをテレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置かないでください。**
- **携帯リモコンや緊急キーのご購入、電池交換、暗証番号の登録については、スズキ販売店またはスズキ特約店にご相談ください。**

アドバイス

- **携帯リモコンは必ず運転者が所持し、管理してください。緊急キーは、緊急時等いつでも使用できるように身近な場所に保管してください。**
- **盗難などを防ぐため、携帯リモコンや緊急キーを紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ特約店にご相談ください。**
- **携帯リモコンとキーレスユニットの通信には、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用します。そのため、次のような使用環境では、正常に通信しないことがあります。**
  - **・近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある**
  - **・携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している**
  - **・携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている**
  - **・近くで他船のキーレススタートシステムが使用されている**

携帯リモコンの通信モード切替

携帯リモコンの通信モードの切り替えは、ロックボタンを操作（長押し）して行います。



通信モード：
携帯リモコンを使用できます。通信モード中にロックボタンを短押しすると、携帯リモコンの赤表示灯が短く 1 回光ります。
通信モード中にロックボタンを長押しすると、赤表示灯が長く 1 回光り停止モードに切り替わります。

停止モード：
携帯リモコンを使用できません。停止モード中にロックボタンを短押しすると、携帯リモコンの赤表示灯が長く 1 回光ります。
停止モード中にロックボタンを長押しすると、赤表示灯が短く 1 回光り通信モードに切り替わります。

携帯リモコンの電池交換

⚠ 警 告

取り外した電池をお子さまが誤って飲み込まないよう電池の取り扱いに注意してください。

注 記

- **ボタン電池の ⊕ 極と ⊖ 極は正しく取り付けてください。**
- **携帯リモコンの内部回路に触れないでください。**
- **濡れた手で電池交換をしないでください。**
- **電池以外の端子や電子部品に触れないでください。**
- **端子を曲げないでください。**
- **油や異物を携帯リモコンの内部に付着させないでください。**

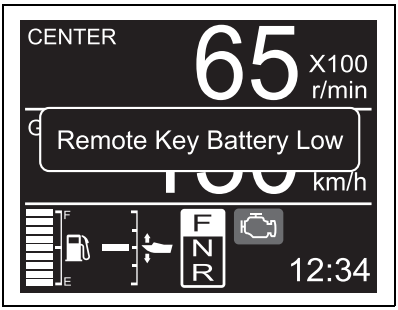
アドバイス

電池交換をする時、携帯リモコンを破損するおそれがあります。技術的に自信がない方はスズキ特約店またはスズキ販売店に依頼することをおすすめします。（有料）

携帯リモコンがキーレスユニットとの通信範囲内で機能しないときは、携帯リモコンの電池の消耗が考えられます。携帯リモコンの電池を交換してください。

アドバイス

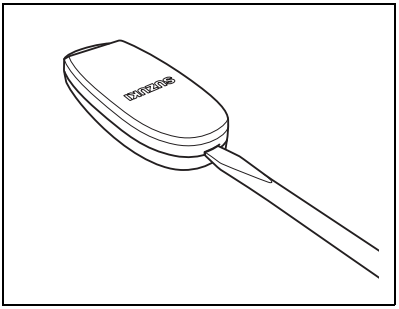
携帯リモコンの電池の蓄電量が少なくなると、マルチファンクションゲージの画面に「Remote Key Battery Low」と警告のアラームアイコンが表示されます。



携帯リモコンの電池交換は次の手順で行ってください。

使用電池	ボタン電池 ＣＲ2025

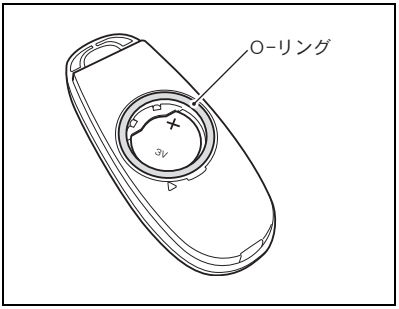
1. 携帯リモコンの上部にある溝に、マイナスドライバー（市販品）を差し込み、ケースを分割してください。



アドバイス

マイナスドライバーは先端幅が 6mm の物を使用してください。

2. O- リングを取り外してください。



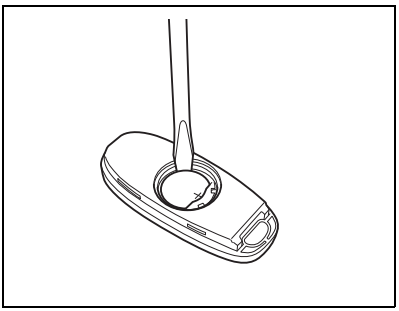
注　記

携帯リモコンの O- リングに損傷があると、防水性能が劣り、リモコンの故障を招きます。
電池交換は、O- リングに傷を付けないように行ってください

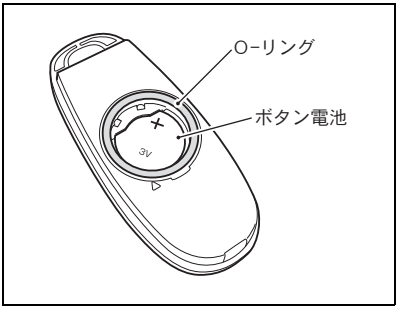
アドバイス

O- リングはカバーと共に取り外される場合があります。カバーから O- リングを取り外してください。

3. 本体側の△マーク位置にある溝にマイナスドライバー（市販品）を差し込み、ボタン電池を取り出してください。



4. 新しいボタン電池を ⊕ 極を上にして取り付けてください。
   O-リングを本体側の所定の位置に取付けてください。



5. カバーを組み付けます。本体との合わせ部分にすきまが無くなるまで確実にはめ込んでください。

暗証番号の登録

暗証番号は、携帯リモコンが使用できない時、緊急キーを用いてエンジン始動を行う場合に必要となります。
暗証番号は 4 桁数字で使用者が決めます。
暗証番号の登録は、次の手順で行います。
暗証番号の登録を行うと、すでに登録されている番号は消去され、新しい番号に更新されます。

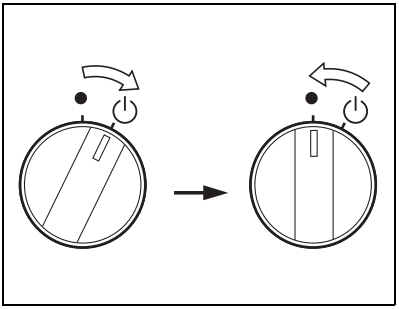
アドバイス

緊急キーの使用時に備えて、暗証番号を適切なプレート等に記録し、それを緊急キーとともに携帯してください。

1. エンジンが停止していることを確認してください。
2. 携帯リモコンを通信モードにし、キーレスユニットと通信範囲内にあることを確認してください。
3. エマージェンシーストップスイッチにロックプレートが取り付けられていることを確認してください。

4. 次の手順を行い暗証番号入力モードに移行させます。

(1)メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。
ブザーが；
・エンジンコントロールシステム側で長音1回
・キーレススタートシステム側で短音2回鳴ります。
メインスイッチノブの操作後、8秒以内に次の手順(2)以降の操作を開始してください。



アドバイス

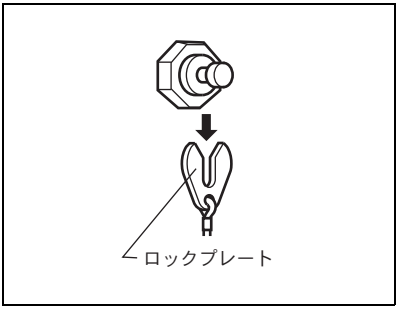
- **8秒以内に次の手順(2)以降の操作を開始しないと暗証番号入力モードに移行できません。**
- **暗証番号入力モードに失敗した時は；**
  - **ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチに取り付けます。**
  - **メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムをOFF（LOCK）状態にします。**
  - **最初の手順4-(1)に戻り、以降の手順を行います。**

アドバイス

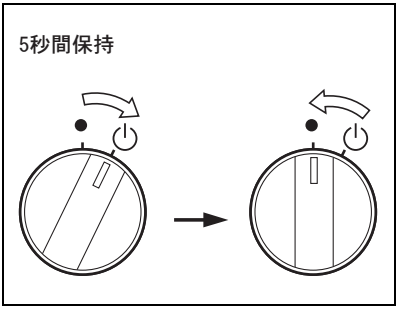
暗証番号入力作業をやり直す場合

(a)エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを取り付けます。
(b)メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムをOFF（LOCK）状態にします。
(c)最初の手順4.に戻り、以降の手順を行います。

(2)エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを取り外します。



(3)メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して約 5 秒間保持した後、“●”位置に戻します。
このメインスイッチノブの操作を3回繰り返します。
ブザーが長音で1回鳴り、暗証番号入力モードに移行したことを知らせます。



アドバイス

- **手順 (3) の操作を失敗した場合は、ブザーが短音で1回鳴り、キーレススタートシステムが OFF（LOCK）状態になります。**
- **キーレススタートシステムが OFF（LOCK）状態になった時は；**
  - **ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチに取り付けます。**
  - **最初の手順 4-(1) に戻り、以降の手順を行います。**

5. 暗証番号を入力するために、手順（3）の操作後、60 秒以内に次の操作を行います。

アドバイス

- **60秒以内に次の操作を開始しなかった場合は、ブザーが短音で3回鳴り、入力モードがキャンセルされます。**
- **入力モードがキャンセルされた時は；**
  - **ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチに取り付けます。**
  - **メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態にします。**
  - **最初の手順 4. に戻り、以降の手順を行います。**

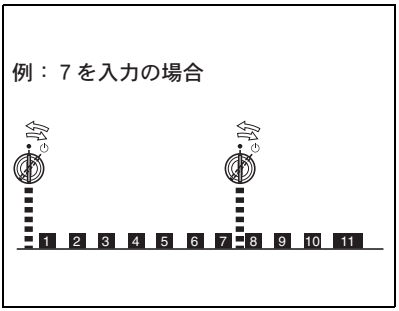
先頭から 1 桁目の番号入力；

(1) メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。

アドバイス

手順 (1) の操作後にブザーが短音で 10 回鳴り、11 回目に長音が鳴ってから鳴り止みます。このパターンを繰り返します。
ブザーの短音の鳴り方は、入力する桁数によって異なります。28 ページのアドバイスの“暗証番号入力時のブザー音の鳴り方”を参照してください。

(2) 手順 (1) の操作をすると、先頭から 1 桁目の番号入力のためのブザーが短音で鳴り始めます。
ブザーが 1 桁目の番号と同じ回数鳴った直後にメインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し入力します。
番号の“0”の入力は、10 回目のブザーが鳴った直後にメインスイッチノブの操作を行います。



アドバイス

- **入力操作を行わなかった場合は、再度登録しようとする番号の最初のステップに戻ります。**
- **暗証番号入力操作を 3 回繰り返しても、入力できない場合は、ブザーが連続で 5 秒間鳴り、入力モードがキャンセルされます。**
- **入力モードがキャンセルされた時は；**
  - **ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチに取り付けます。**
  - **メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF (LOCK) 状態にします。**
  - **最初の手順 4. に戻り、以降の手順を行います。**
- **各桁の暗証番号を入力するときに、入力操作を複数回行った場合は、最後に入力操作を行った番号が有効になります。**

(3)先頭から 1 桁目の番号入力後、11 回目のブザーが長音で鳴ってから鳴り止むと、2 桁目の番号入力の待機状態になります。

先頭から 2 桁目の番号入力；

(4)メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。

(5)手順 (4) の操作をすると、先頭から 2 桁目の番号入力のためのブザーが短音で鳴り始めます。
ブザーが 2 桁目の番号と同じ回数鳴った直後にメインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し入力します。
番号の″0″の入力は、10 回目のブザーが鳴った直後にメインスイッチノブの操作を行います。

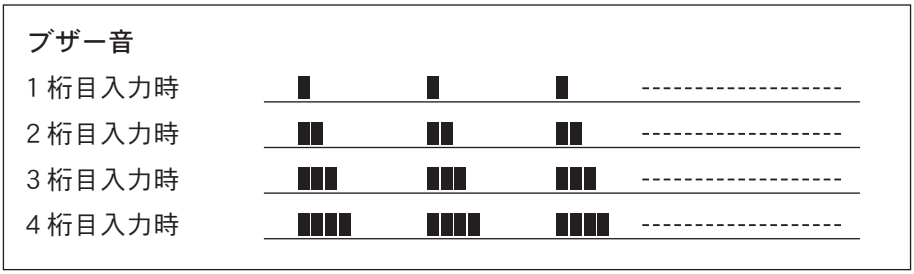
(6)先頭から 2 桁目の番号入力後、11 回目のブザーが長音で鳴ってから鳴り止むと、3 桁目の番号入力の待機状態になります。

先頭から３桁目、４桁目の番号入力；

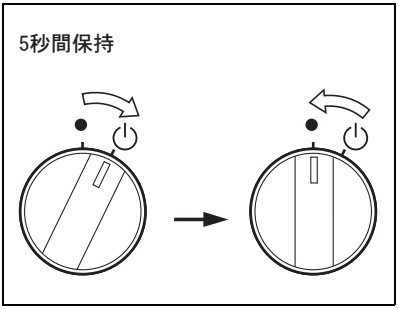
(7) １桁目、２桁目の番号入力と同じ手順で３桁目、４桁目の番号入力を行います。

アドバイス

【暗証番号入力時のブザー音の鳴り方】
暗証番号の桁数に応じて、ブザーの短音が変わります。
１桁目の短音は１回づつ、２桁目の短音は連続２回づつ、３桁目の短音は連続３回づつ、４桁目の短音は連続４回づつ鳴ります。



(8)先頭から4桁目の番号入力後、11 回目の長音が鳴った後、ブザーが連続音で鳴り始めます。
ブザーが鳴り始めてから 60 秒以内に次の手順 (9) を開始してください。

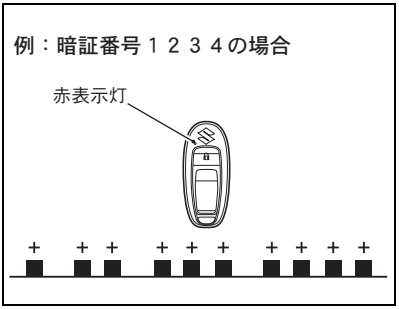


アドバイス

- **60秒以内に次の操作を開始しなかった場合は､60秒間ブザーが鳴った後に、短音が 3 回鳴り、入力モードがキャンセルされます。**
- **入力モードがキャンセルされた時は ;**
  - **ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチに取り付けます。**
  - **メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF (LOCK) 状態にします。**
  - **最初の手順 4. に戻り、以降の手順を行います。**

(9)メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、ブザーが鳴り止むまで約 5 秒間保持し、メインスイッチノブを“●”位置に戻します。

(10)ブザーが短音で 1 回鳴ります。
その後、携帯リモコンの赤表示灯の点滅回数で、入力した 1 桁目から 4 桁目までの暗証番号を表示します。
この点滅の回数により暗証番号を確認します。
4 桁目の暗証番号表示後､ブザーが短音で 1 回鳴り、再度 1 桁目から繰り返し表示されます。



(11)暗証番号を確認後、暗証番号表示を停止（終了）させるために、エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを取り付けます。

(12)メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。
ブザーが短音で 1 回鳴りキーレススタートシステムが OFF (LOCK) 状態になります。
システムOFF(LOCK)後､30秒間はスイッチ等の操作は行わないでください。
この間にキーレスユニットが暗証番号更新を行います。

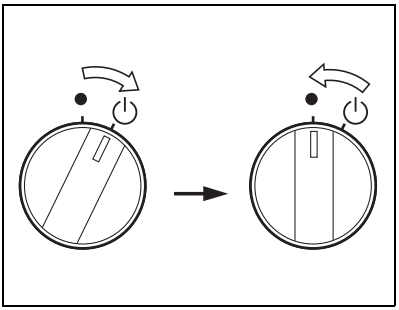
暗証番号の確認

携帯リモコンの赤表示灯の点滅回数で４桁の暗証番号が確認できます。

暗証番号の確認は、次の手順で行います。

1. エンジンが停止していることを確認してください。
2. 携帯リモコンを通信モードにし、キーレスユニットと通信範囲内にあることを確認してください。
3. エマージェンシーストップスイッチにロックプレートが取り付けられていることを確認してください。
4. 次の手順を行い暗証番号確認モードに移行させます。

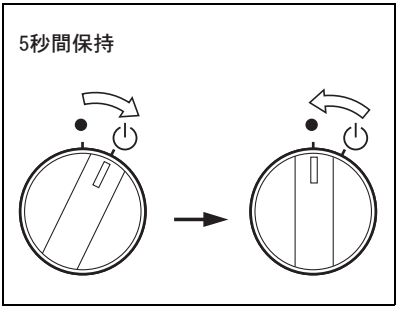
(1)メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。
ブザーが；
・エンジンコントロールシステム側で長音１回
・キーレススタートシステム側で短音2回鳴ります。
メインスイッチノブの操作後、８秒以内に次の操作を開始してください。



アドバイス

- **８秒以内に次の操作を開始しないと、暗証番号確認モードに移行できません。**
- **暗証番号確認モードに失敗した時は；**
  - **メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態にしてください。**
  - **最初の手順 4-(1) に戻り、以降の手順を行います。**

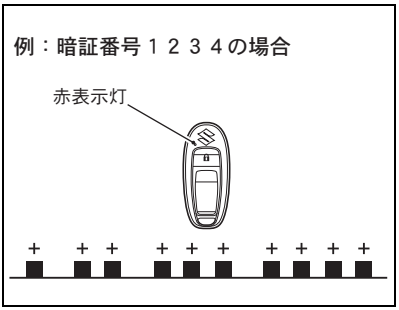
(2) メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して約5秒間保持した後、“●”位置に戻します。
このメインスイッチノブの操作を3回繰り返します。
操作を完了すると暗証番号確認モードに移行します。



アドバイス

・手順 (2) の操作を失敗した場合は、ブザーが短音で 1 回鳴り、キーレススタートシステムが OFF (LOCK) 状態になります。
・その時は、最初の手順 4-(1) に戻り、以降の手順を行います。

5. 手順 (2) の操作後、携帯リモコンの赤表示灯が点滅した後、ブザーが短音で1回鳴ります。
その後、携帯リモコンの赤表示灯の点滅回数で1桁目から4桁目までの暗証番号を表示します。
この点滅の回数により暗証番号を確認します。
4桁目の暗証番号表示後、ブザーが短音で1回鳴り、再度1桁目から繰り返し表示されます。

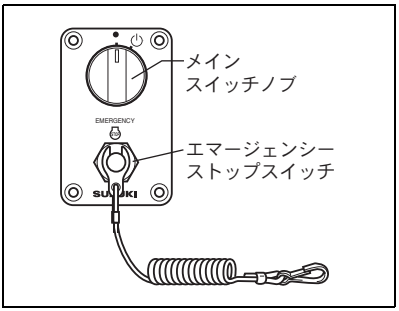


6. 暗証番号を確認後、暗証番号表示を停止（終了）させるために、メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置に回して、“●”位置に戻します。

メインスイッチ

（キーレススタートシステム装着の場合）

電気回路の ON-OFF をするスイッチです。
次の位置にメインスイッチノブを操作すると、以下のようになります。



「●」位置

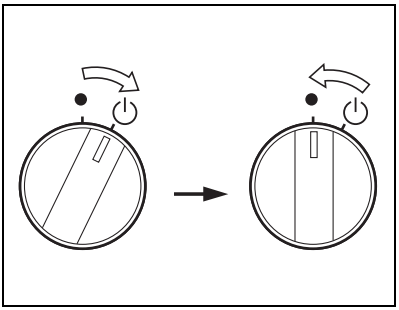
中立の位置です。メインスイッチノブを操作しない時は、この位置になります。

「⏻」位置

電気回路を ON 状態または、OFF（LOCK）状態に切替える時の位置です。
次の条件を満たしている時に状態を切替えることができます。

・携帯リモコンがキーレスユニットの通信範囲内にある。
・携帯リモコンが通信モードになっている。
・エマージェンシーストップスイッチにロックプレートが取り付けられている。

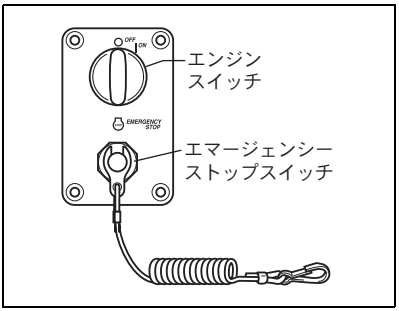
メインスイッチノブをこの位置まで回し、手を放すと自動的に「●」位置に戻ります。



エンジンスイッチ

(キーレススタートシステム非装着の場合)

エンジンの停止、電気回路の ON-OFF をするスイッチです。
次の位置にキーを操作すると、以下のようになります。

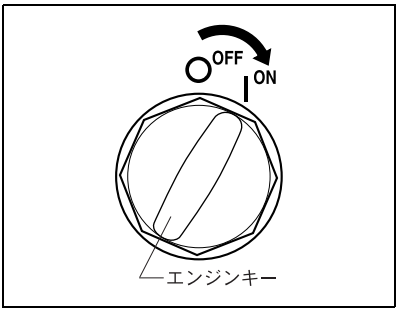


「OFF」位置

・エンジンが停止します。
・キーをスイッチ本体から抜き取ることができます。

「ON」位置

・エンジンを運転するときの位置です。
・電気回路が「ON」になり、電気系統の装置の使用ができます。
・キーをスイッチ本体から抜き取ることができません。

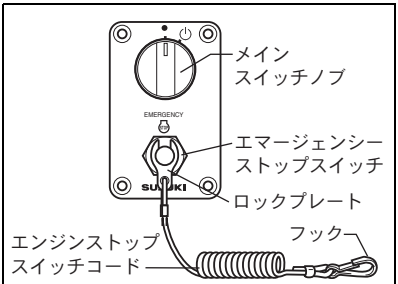


エマージェンシーストップスイッチ

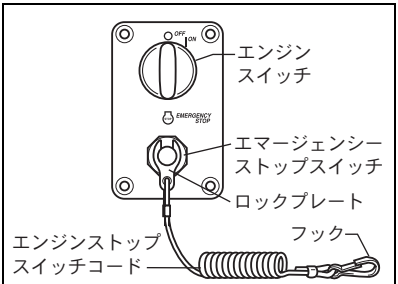
緊急時のエンジン停止スイッチです。
スイッチ本体の溝にプラスチックのロックプレートが差し込まれています。
操船者が通常の運転位置から外れたり、落水等をした場合、ロックプレートがスイッチの本体から抜けてエンジンを停止させます。
ロックプレートに取り付けられているエンジンストップスイッチコードを運転中には、操船者の衣服、手、足等の身体の一部に必ず取り付けてください。

⚠ 警　告

・エンジンストップスイッチコードを付けずに落水した場合、エンジンが停止せずボートが暴走するおそれがあります。
運転中は、エンジンストップスイッチコードを身体の一部に必ず付けてください。
・航走中にロックプレートが外れると操船が困難になったり、急減速により同乗者が転倒するおそれがあります。
エンジンストップスイッチコードが身体の一部や、運転席の周辺の装備品等に引っかかってロックプレートが不意に外れないようにしてください。



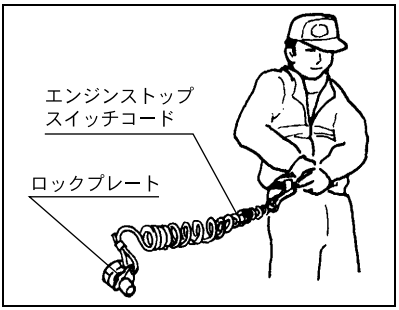
キーレススタートシステム装着の場合



キーレススタートシステム非装着の場合

アドバイス

- ロックプレートがスイッチ本体の溝に差し込まれていないと、エンジンを始動させることができません。
- 予備のロックプレートは、エンジンストップスイッチコードから取り外し、船内の身近な場所に保管し、正規のプレートに不備が生じた場合、一時的にのみ使用してください。
- ロックプレート、ストップスイッチコードに損傷や不備がある場合は直ちに正常なものに交換してください。



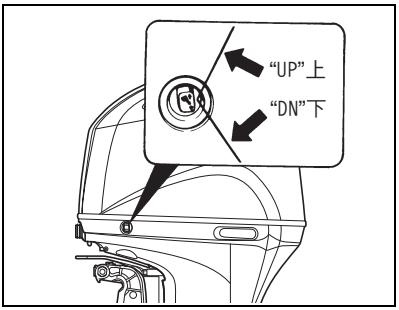
PTT スイッチ

⚠ 警　告

ドライブユニットとクランプブラケットの間に挟まれるとけがをします。
PTT スイッチを操作し、トリム／チルトを上げたり下げたりする時は、船外機の付近に人がいないことを確認した後に行ってください。

PTT スイッチは、エンジンロアーカバーに取り付けられています。

PTT スイッチは、船外機のトリム／チルトの上げ下げをする時に操作をします。



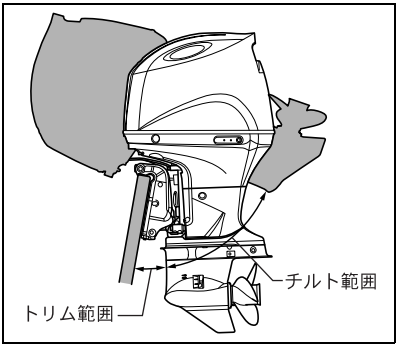
アドバイス

- **【キーレススタートシステム装着の場合】**
  キーレススタートシステムが ON 状態、OFF（LOCK）状態のどちらであっても PTT スイッチを押せばトリム／チルトの上げ下げができます。
  【キーレススタートシステム非装着の場合】
  エンジンキーが“OFF”、“ON”のどちらの位置にあっても PTT スイッチを押せばトリム／チルトの上げ下げができます。
- **このスイッチは停船時に使用してください。操船中の使用は落水等のおそれがあります。**

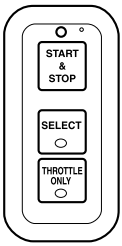
・スイッチの“UP”側を押している間だけトリム／チルトの角度が増加するように油圧装置が作動します。

・スイッチの“DN”側を押している間だけトリム／チルトの角度が減少するように油圧装置が作動します。

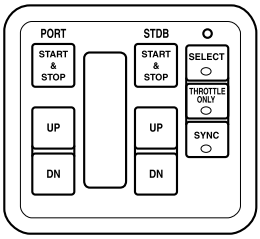
・スイッチから手を離すと油圧装置が作動を停止し、船外機は、そのときのトリム／チルト角を保持して止まります。



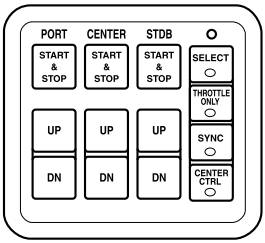
スイッチパネル



シングル
エンジン用



ツインエンジン用
4機掛けエンジン用
（別売品）



トリプルエンジン用
（別売品）

アドバイス

4 機掛けの場合は、ツインエンジン用のスイッチパネルを 2 個使用します。「SELECT」「THROTTLE ONLY」「SYNC」機能の選択／解除は、どちらかのスイッチパネルのスイッチ操作で 4 機を同時に制御します。

「START & STOP」スイッチ

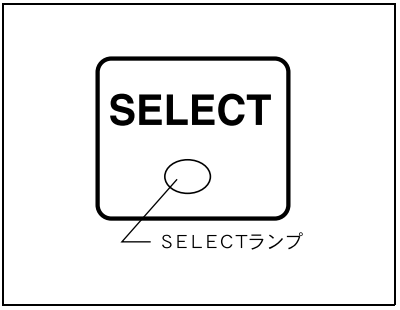
エンジン始動、停止の操作をするスイッチです。

・エンジンを始動する時はスイッチを押します。

アドバイス

- **スイッチを一回押すと、エンジンが始動するまで連続して 3 秒間スターターモーターが回ります。**
- **スイッチを押し続けた場合、5 秒間を超えるとスターターモーターは自動的に止まります。**

・エンジンを停止させる時は、スイッチを押します。



「SELECT」スイッチ

・２操船席システムの場合、第１、第２操船席の選択を行う時にスイッチを押し、選択した操船席のリモートコントロールレバー、スイッチでエンジンをコントロールします。

・操船席を切り替えるために、「SELECT」スイッチを押すと「SELECT」ランプが点灯し、操船席が決まります。

・第１操船席のみの場合、「SELECT」ランプは、

【キーレススタートシステム装着の場合】

キーレススタートシステムが ON 状態の間点灯し続けます。

【キーレススタートシステム非装着の場合】

エンジンキーが“ON”の間点灯し続けます。

・「SELECT」ランプが点灯している操船席のリモートコントロールレバー、スイッチでエンジンをコントロールします。

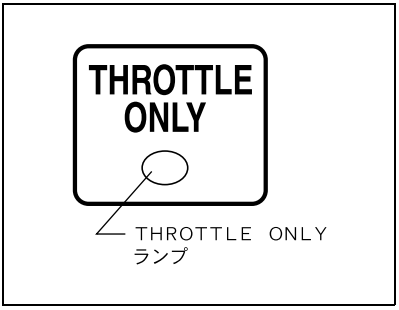
・「SELECT」ランプが消えている操船席は、非操船席になり、この席のコントロールレバー、スイッチの操作ではエンジンをコントロールすることができません。

アドバイス

・操船席切替え時は、「SELECT」スイッチをブザーが短く１回鳴るまで押し続けてください。
・エマージェンシーストップスイッチは、常にどちらの操船席で操作しても有効に機能します。
・操船席の切り替えは、両方の操船席のリモコンレバーがニュートラルの位置でないと行うことができません。
・リモコンレバーがニュートラル位置でない時に「SELECT」スイッチを操作すると「SELECT」ランプが点滅し、同時に警告ブザーが短く３回鳴ります。
・【キーレススタートシステム装着の場合】
メインスイッチノブを操作して、キーレススタートシステムを OFF (LOCK)状態から ON 状態にすると、自動的に第１操船席が選択されます。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンスイッチを“OFF”から“ON”にすると、自動的に第１操船席が選択されます。
・第２操船席から第１操船席に切り替えることができなくなった場合は、
【キーレススタートシステム装着の場合】
一旦メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF (LOCK) 状態にしてから約 20 秒後に再び、メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを ON 状態にしてください。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
一旦エンジンスイッチを「OFF」にしてから約20秒後にエンジンスイッチを「ON」にしてください。
・操船席の切り替えに問題が発生した場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。

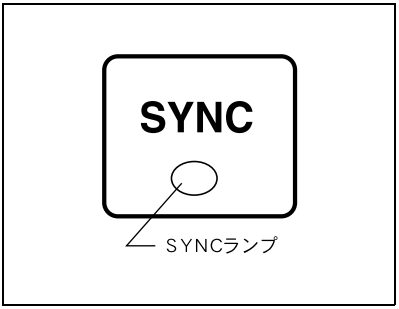
「THROTTLE ONLY」スイッチ

・「THROTTLE ONLY」スイッチでリモコンレバーの操作に関係なく、クラッチの位置をニュートラル（中立）に固定します。
・このスイッチは、クラッチをニュートラルにしたままでエンジン回転数を調整する場合に操作します。
・クラッチ位置の固定、固定解除は、リモコンレバーがニュートラル位置の場合のみ「THROTTLE ONLY」スイッチを押して行うことができます。
・「THROTTLE ONLY」スイッチを押してクラッチがニュートラルに固定されると「THROTTLE ONLY」ランプが点灯します。
・クラッチ位置固定の解除は、再度「THROTTLE ONLY」スイッチを押します。クラッチ位置の固定が解除されると「THROTTLE ONLY」ランプが消えます。



アドバイス

・「THROTTLE ONLY」のモードを切り替える時は、ブザーが短く１回鳴るまでスイッチを押し続けてください。
・リモコンレバーがニュートラル位置でない時に「THROTTLE ONLY」スイッチを操作すると「THROTTLE ONLY」ランプが点滅し、同時に警告ブザーが短く３回鳴ります。
・「THROTTLE ONLY」のモードが解除できなくなった場合は、
【キーレススタートシステム装着の場合】
一旦メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態にしてから約 20 秒後に再び、メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを ON 状態にしてください。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
一旦エンジンスイッチを「OFF」にしてから約20秒後にエンジンスイッチを「ON」にしてください。
・「THROTTLE ONLY」のモードの切り替えに問題が発生した場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。



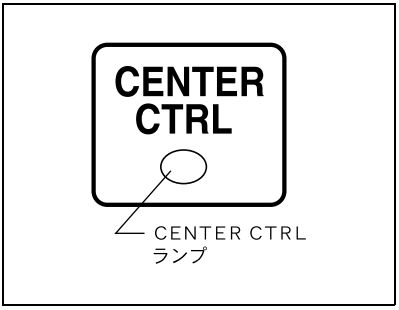
「SYNC」スイッチ

・2 機掛けまたは 3 機掛けの場合は、PORT（左舷）側のエンジン回転数に近づけるように PORT（左舷）エンジン以外のエンジン回転数を自動的に調整します。
4 機掛けの場合は、PORT（左舷）側 2 機と STARBORD（右舷）側 2 機の中で、それぞれの PORT（左舷）側のエンジン回転数に近づけるように STARBORD（右舷）側のエンジン回転数を自動的に調整します。(PORT 側 2 機と STARBOARD 側 2 機の間ではシンクロモードの制御は行われません。)
この状態がシンクロモード制御の実行中です。

・シンクロモード制御を選択するときは、「SYNC」スイッチを押します。シンクロモードの制御が有効の場合は、シンクロ「SYNC」ランプが点灯します。

アドバイス

・【キーレススタートシステム装着の場合】
メインスイッチノブを操作して、キーレススタートシステムを OFF(LOCK)状態から ON 状態にすると、自動的にシンクロモードになります。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンスイッチを“OFF”から“ON”にすると、自動的にシンクロモードになります。
・シンクロモード制御の実行は前進航走時のみ実行されます。
・アイドリング／トローリング時、加速時、全速走行時は、シンクロモード制御の実行が停止します。
・シンクロモード制御実行中にリモコンレバーを操作して運転条件を変えた場合はシンクロモード制御の実行は解除されます。
・PORT（左舷）リモコンレバーと STBD（右舷）リモコンレバーの位置が異なるとシンクロモード制御の実行は停止します。(4 機掛け時は除く)



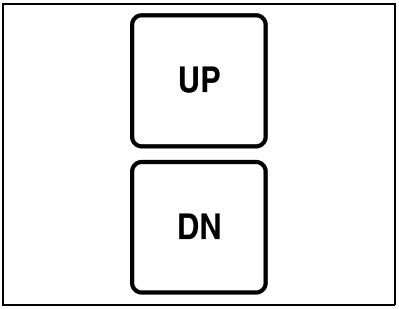
「CENTER CTRL」スイッチ

・３機掛けの場合、「CENTER CTRL」スイッチでセンターエンジンと PORT（左舷）エンジンとの連動、非連動の選択を行います。
・センターエンジンは PORT（左舷）エンジンと連動し PORT リモコンレバーで制御します。この状態がセンターコントロールモードです。
・センターエンジンは、センターエンジンコントロールモード時には PORT（左舷）エンジンに連動し、センターエンジンコントロールモード以外は、非連動となり、ニュートラルでアイドリング状態になります。
・リモコンレバーをニュートラル（中立）にして、「CENTER CTRL」スイッチを押すと連動時は非連動に、また非連動時には連動になります。
・センターエンジンコントロールモード時には、「CENTER CTRL」ランプが点灯します。

アドバイス

・【キーレススタートシステム装着の場合】
メインスイッチノブを操作して、キーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態から ON 状態にすると、自動的にセンターエンジンコントロールモードになります。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンスイッチを“OFF”から“ON”にすると、自動的にセンターエンジンコントロールモードになります。
・リモコンレバーがニュートラル位置でない時に「CENTER CTRL」スイッチを操作すると「CENTER CTRL」ランプが点滅し、同時に警告ブザーが短く鳴ります。

「UP」「DN」スイッチ
スイッチを押してパワートリム&チルトシステムの作動を制御します。
「UP」スイッチを押すと、船外機はトリム・チルトアップします。
「DN」スイッチを押すと、船外機はトリム・チルトダウンします。



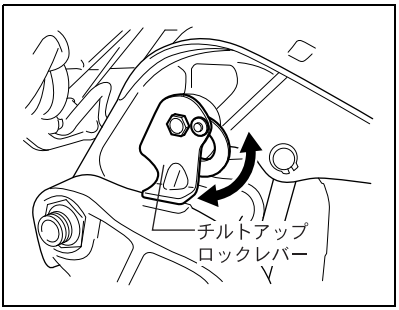
アドバイス

【キーレススタートシステム装着の場合】
キーレススタートシステムがON状態の時のみ、「UP」「DN」スイッチを押してチルトアップ / ダウンの操作を行うことができます。

【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンスイッチがONの時のみ、「UP」「DN」スイッチを押してチルトアップ / ダウンの操作を行うことができます。

チルトアップロックレバー

チルトアップロックレバーは船外機を最大にチルトアップしたとき、その位置を保持させる場合に用います。
船外機を最大チルト位置にし、レバーを引き下げることにより、その位置を保持させます。
チルトを下げるときは、レバーを押し上げてください。

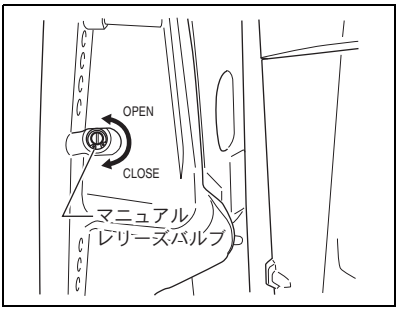


アドバイス

チルトリミット調整レバー（46 ページ参照）の調整位置により、チルトアップ角が小さい時は、チルトアップロックレバーが使用できない場合があります。

マニュアルレリーズバルブ

マニュアルレリーズバルブは手動でチルトを上げ下げするときに操作します。
パワートリム&チルト装置に不具合が生じた状況で、チルトの上げ下げが必要なときは、次の要領で操作をしてください。



■手動でのチルトの上げ下げ

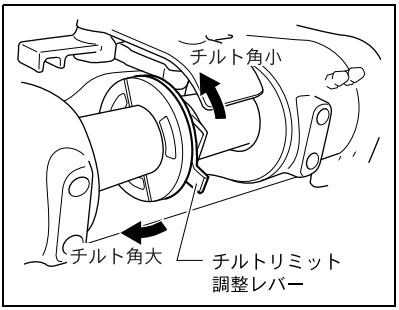
1. マニュアルレリーズバルブを左に２回転回してください。
2. エンジンカバーの後部を持って、手動でチルトを上下させてください。
3. 好みのトリム／チルト位置で、マニュアルレリーズバルブを右に回し、完全に締め付けてください。

アドバイス

トリム／チルト角は、マニュアルレリーズバルブが完全に締め付けられた時点の位置に固定されます。

チルトリミット調整レバー

船外機の最大チルトアップ角を約70°～43°の範囲で調整するためのレバーです。
最大チルトアップ角は
・レバーを上に回すと小さくなり
・レバーを下に回すと大きくなります。



アドバイス

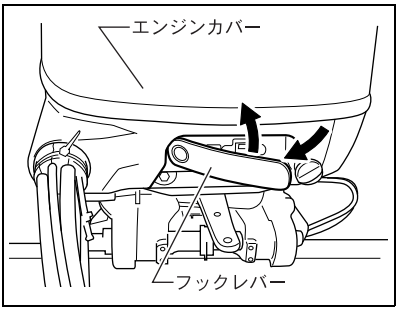
この調整レバーで、船外機を最大にチルトアップしたとき、エンジンカバーが船体、積み荷や艤装品に当たり損傷しないように、最大チルトアップ角を調整してください。

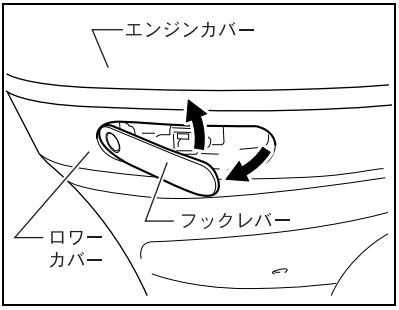
エンジンカバーフックレバー

・エンジンカバーを取り外す場合、このレバーを操作します。

・エンジンカバーを取り外す場合は、前側と左右のロワーカバーの横にあるフックレバーを、図に示す矢印の方向にそれぞれ引いてから回し、カバーのロックを解除した後、カバーを持ち上げてください。

・エンジンカバーの取付けは、取外しの逆の手順で行い、取付け後、カバーがフックレバーで確実に固定されていることを確認してください。





燃料タンク

燃料タンクはオプショナル扱いの部品です。

⚠ 警 告

一般用プラスチックタンクを燃料タンクとして使用すると、強度・材質の変化によりガソリンが漏れるおそれがあります。
燃料タンクは、日本小型船舶検査機構で認定されたもの、またはスズキ純正部品を使用してください。

燃料ホース

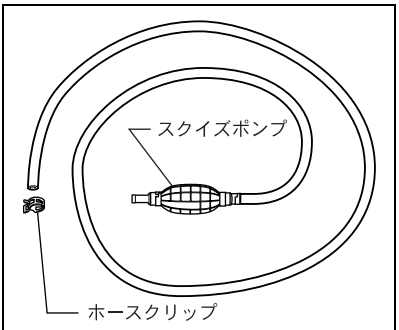
燃料ホースには、以下の部品が組み付けられています。

■スクイズポンプ

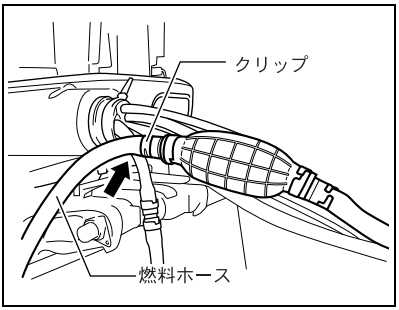
エンジンを始動するときにエンジン側の燃料系統の中に燃料を充満させるための手動ポンプです。

⚠ 警 告

ガソリンは、引火しやすく火災のおそれがあります。
燃料ホースを船外機と燃料タンクに接続したときは、その接続部をホースクリップで確実に締め付け、燃料漏れがないことを確認してください。



燃料ホース



マルチファンクションゲージ

マルチファンクションゲージは、エンジンとデジタル通信を行い、各種の情報を表示する多機能ゲージです。
表示情報は、エンジン回転速度、シフト位置、スピード、燃料残量／燃費情報などがあります。

アドバイス

機種及び装備品により表示できない情報があります。

アドバイス

マルチファンクションゲージの取付けはスズキ取扱店またはスズキ販売店にご相談してください。

アドバイス

マルチファンクションゲージの取扱いの詳細は、製品に添付されている「マルチファンクションゲージ取扱説明書」をご覧ください。

アドバイス

ゲージから得られた情報は、航海をする上での目安としてお使いください。正確な航海情報を得るためには、海図や専用の航海機器との併用をお勧めします。

ボタンの機能

マルチファンクションゲージには、[MENU]、[❯]、[❮]、[SET] のボタンがあります。それぞれのボタンの機能は次のようになります。

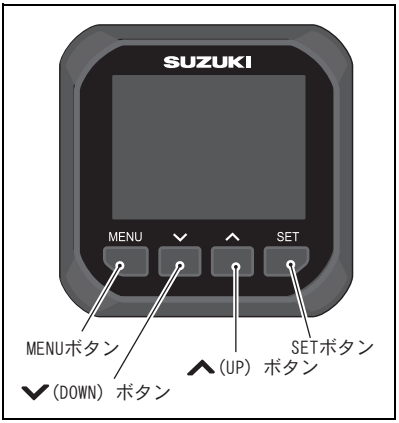
・[MENU]
[MENU] ボタンは、“Menu” 画面への切替えまたは、ゲージ画面への戻りに使用します。

・[❯]、[❮]
[❯](DOWN) ボタン、[❮](UP) ボタンは、選択カーソルの移動、サブインフォメーションの項目の選択または、情報入力調整に使用します。

アドバイス

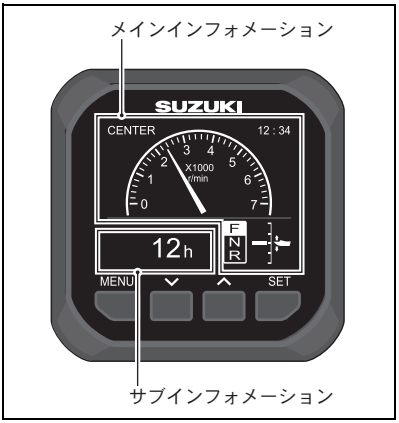
[❯] ボタンまたは [❮] ボタンのどちらかを長押しすることによって、サブインフォメーションのトリップ時間、トリップ距離、平均燃費、総燃料消費量をリセットすることができます。表示されている項目以外も同時にリセットされます。

・[SET]
[SET] ボタンは、ゲージ画面の切替え、選択項目の決定に使用します。



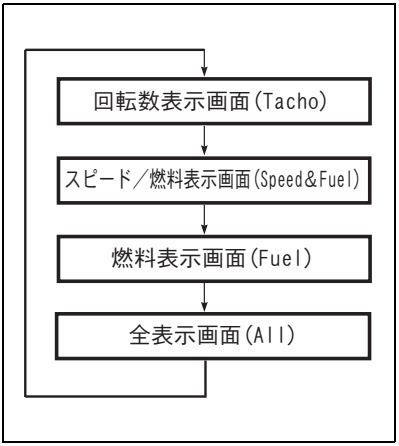
画面選択

マルチファンクションゲージの画面には、メインインフォメーションとサブインフォメーションが表示されます。
マルチファンクションゲージでは、ゲージ画面を次の 4 種類から選択することができます。
・回転数表示画面（Tacho）
・スピード／燃料表示画面（Speed & Fuel）
・燃料表示画面（Fuel）
・全表示画面（All）



表示選択

ゲージ画面は、[SET] ボタンを押す度に、図のように切替えることができます。

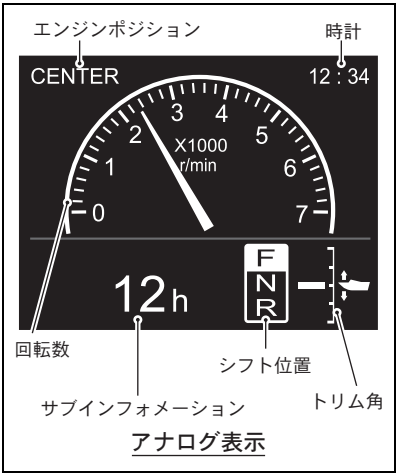


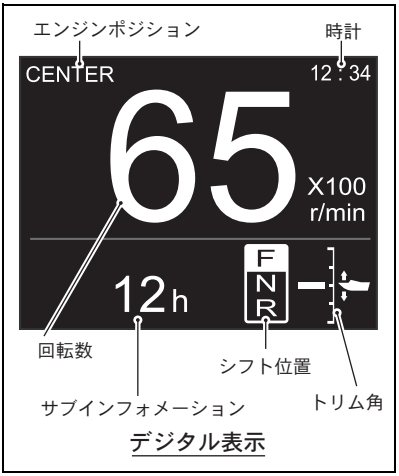
アドバイス

表示設定で画面表示を“OFF”（非表示）に設定した画面は表示されず、次の画面にスキップされます。（57 ページ参照）

1. 回転数表示画面（Tacho）

回転数、シフト位置、トリム角、エンジンポジション、時計、サブインフォメーションを限定して画面に表示します。
サブインフォメーションの表示は、[❯] ボタンまたは[❮]ボタンを短押しすることによって切替えることができます。
この表示画面は、アナログ表示、デジタル表示を選択することができます。
切替え方法は、この章の“Menu 画面の設定”、3. 表示設定（Display）の項目（57 ページ）を参照してください。



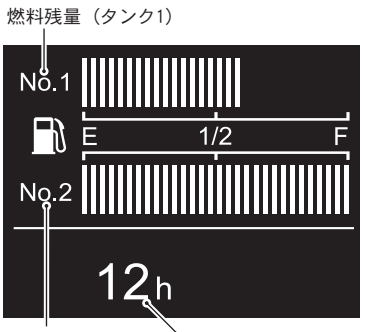


2. スピード／燃料表示画面(Speed&Fuel)

スピード（対地／対水速度）、燃料残量（積載されている燃料タンクのトータルの残量を表示）、時計、サブインフォメーションを限定して画面に表示します。
サブインフォメーションの表示は、[∨]ボタンまたは[∧]ボタンを短押しすることによって切替えることができます。
この表示画面は、アナログ表示、デジタル表示を選択することができます。
切替え方法は、この章の“Menu 画面の設定”、3. 表示設定（Display）の項目（57ページ）を参照してください。

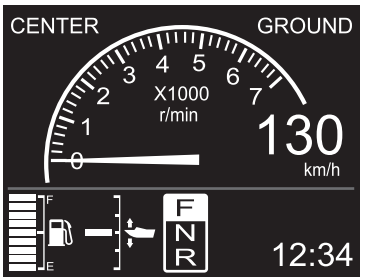
3. 燃料表示画面（Fuel）

燃料残量（タンク 1／タンク 2)、サブインフォメーションを限定して画面に表示します。
サブインフォメーションの表示は、[❯]ボタンまたは[❮]ボタンを短押しすることによって切替えることができます。
この表示画面は、デジタル表示のみです。

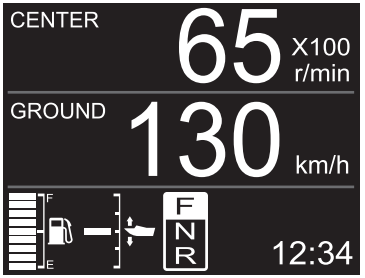


4. 全表示画面（All）

一般表示項目を全て表示します。
この表示画面は、アナログ表示、デジタル表示を選択することができます。
切替え方法は、この章の“Menu 画面の設定”、3. 表示設定（Display）の項目（57 ページ）を参照してください。



アナログ表示



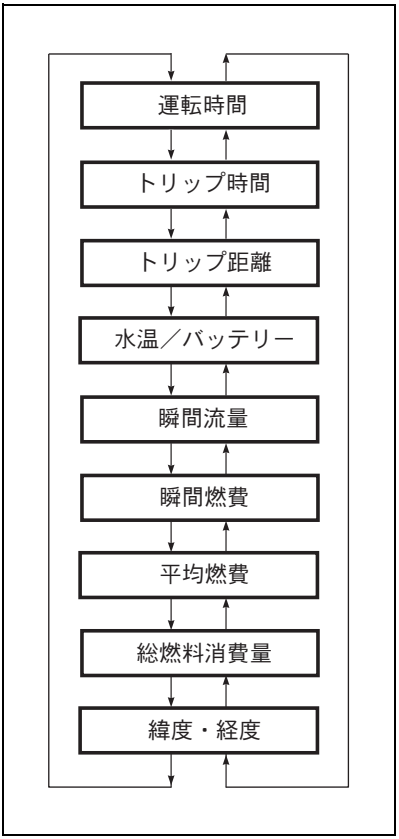
デジタル表示

サブインフォメーション

サブインフォメーションの表示は、回転数表示画面、スピード／燃料表示画面、燃料画面表示中に、[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンを短押しすることによって図のように切替えることができます。

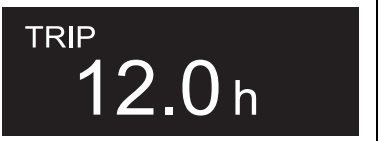
アドバイス

[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンを長押しすることによってトリップ時間、トリップ距離、平均燃費、総燃料消費量をリセットすることができます。（表示されている項目以外も同時にリセットされます。）



1. **運転時間**
   船外機の累計運転時間を表示します。

2. **トリップ時間**
   表示を初期値（0.0）にリセットしてからの運転時間を表示します。



3. **トリップ距離**
   表示を初期値（0.0）にリセットしてからのトリップ距離を表示します。
   表示単位は選択された距離単位になります。
   ※表示させるためには、GPS モジュールが別に必要になります。

4. **水温／バッテリー**
   水温、バッテリー電圧を表示します。

5. **瞬間流量**
   船外機個別の燃料瞬間流量を表示します。
   表示単位は選択された燃料容量、距離単位になります。

6. 瞬間燃費

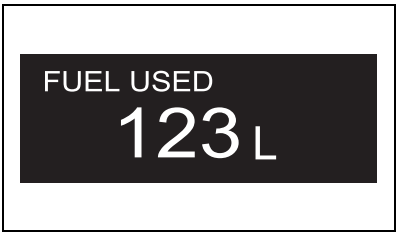
船外機の瞬間燃費を表示します。
多機掛けの場合は、それぞれのエンジンの燃費を合計した値が表示されます。
表示単位は選択された燃料容量、距離単位になります。

7. 平均燃費

表示を初期値（0.0）にリセットしてからの船外機の平均燃費を表示します。
多機掛けの場合は、それぞれのエンジンの燃費を合計し平均した値が表示されます。
表示単位は選択された燃料容量、距離単位になります。

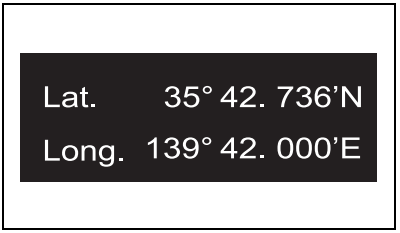
8. 総燃料消費量

表示を初期値（0）にリセットしてからの全ての燃料タンクの燃料消費量を表示します。
表示単位は選択された燃料容量単位になります。



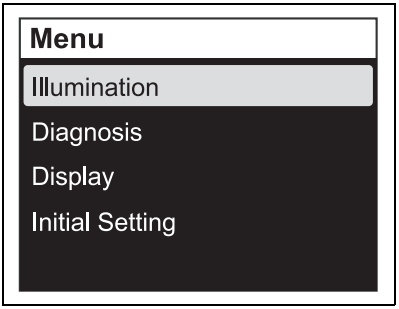
9. 緯度・経度

現在位置の緯度・経度を表示します。
※表示させるためには、GPS モジュールが別に必要になります。



Menu 画面の設定

ゲージ画面を表示中に[MENU]ボタンを押すと“Menu”画面が表示されます。また、“Menu”画面表示中に[MENU]ボタンを押すとゲージ画面に戻ります。
メニュー項目の選択は、[❯]ボタンまたは[❮]ボタンを押して行います。

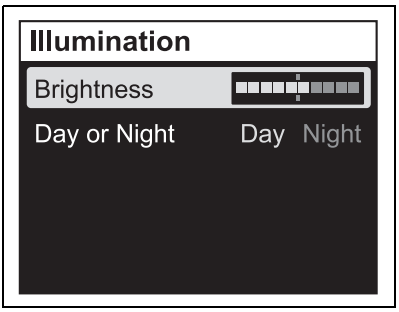


1. 照明設定（Illumination）

画面の視認性向上のために、照度を 10 段階で調整することができます。また、昼間用の表示と、夜間用の表示を選択することができます。
[❯] ボタンまたは [❮] ボタンで“Illumination”を選択し、[SET] ボタンを押して“Illumination”画面を表示させます。

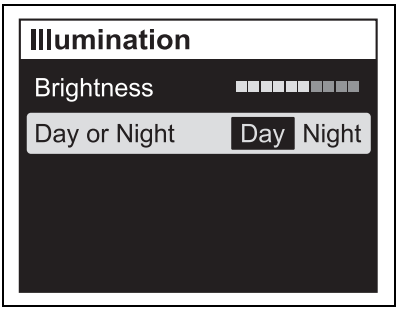
照度設定（Brightness）

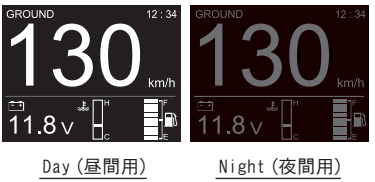
[❯] ボタンまたは [❮] ボタンで“Brightness”を選択し、[SET]ボタンを押します。
次に[❯]ボタンまたは[❮]ボタンで、照度を10段階で調整し[SET]ボタンを押します。



昼夜設定（Day or Night）

[❯]ボタンまたは[❮]ボタンで“Day or Night”を選択し、[SET]ボタンを押します。
次に[❯]ボタンまたは[❮]ボタンで、“Day”（昼間用）、“Night”（夜間用）のどちらかを選択し[SET]ボタンを押します。





Day（昼間用）　Night（夜間用）

2. ダイアグノーシス（Diagnosis）

[❯] ボタンまたは [❮] ボタンで“Diagnosis” を選択して[SET] ボタンを押すと、故障情報と発生中のアラームが表示されます。

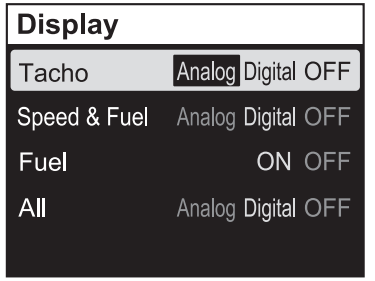
3. 表示設定（Display）

[❯] ボタンまたは [❮] ボタンで“Display”を選択して [SET] ボタンを押すと、アナログ表示、デジタル表示または、OFF （非表示）の選択メニューが表示されます。

[❯] ボタンまたは [❮] ボタンで各ゲージ画面（“Tacho”（回転数表示）、“Speed & Fuel”（スピード / 燃料表示)、“Fuel”（燃料表示)、“All”（全表示））を選択します。

次に、[SET] ボタンを押して“Analog”（アナログ表示）、“Digital”（デジタル表示）または“OFF”（非表示）を選択します。

“Fuel”（燃料表示）は、デジタル表示のみのため、デジタル表示の“ON”（表示）か“OFF”（非表示）の選択となります。



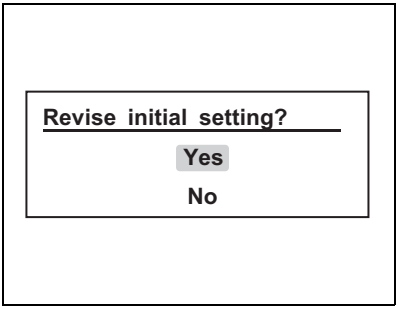
アドバイス

・表示設定を“OFF”（非表示）にすると、表示選択をした場合、その画面は表示されず、次の画面にスキップされます。（50 ページ参照）

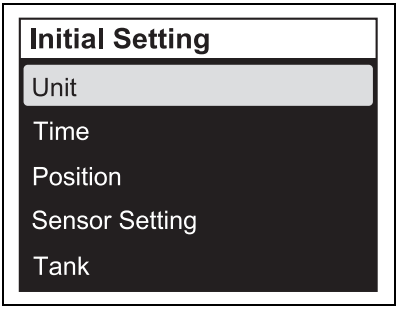
・すべてのゲージ画面の表示設定を“OFF”（非表示）にすることはできません。少なくとも 1 つの画面は表示するように設定してください。

4. 初期設定（Initial Setting）

初期設定（Initial Setting）の項目には、初期設定時の重要な項目があります。そのため、“Menu”画面の”Initial Setting”を選択し[SET]ボタンを押すと、確認画面“Revise initial setting?”が表示されます。
“Initial Setting” を変更する時は[❯]ボタンまたは[❮]ボタンで“Yes”を選択し、[SET] ボタンを押して、“Initial Setting”画面を表示します。(“NO”を選択すると “Menu”画面に戻ります。)



初期設定（Initial Setting）では、5つの項目に関する設定を行います。
[❯]ボタンまたは[❮]ボタンで“Initial Setting”を選択し、[SET]ボタンを押して、“Initial Setting”画面を表示させます。



単位設定（Unit）

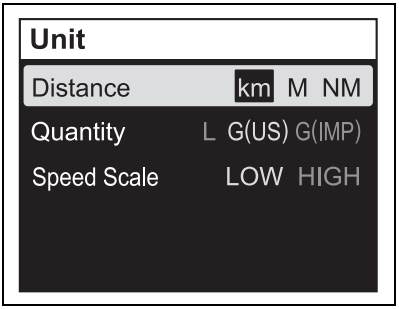
表示されている距離、燃料容量の単位を変更することができます。
表示できる単位は、距離がkm（キロメートル）、M（マイル）、NM（海里）の3種類。燃料容量がL（リットル）、G（US）（ガロン（US））、G（IMP）（ガロン（IMP））です。
スピードスケールを、船の最高速に合わせて低速タイプまたは、高速タイプから選択することができます。
表示スケールは、LOW（低速タイプ）が80km/h（キロメートル）、50mph（マイル）、50KNOTS（海里）。HIGH（高速タイプ）が130km/h（キロメートル）、80mph（マイル）、80KNOTS（海里）です。
スピードスケールの設定は、アナログ画面表示に対してのみ反映されます。

⚠ 警 告

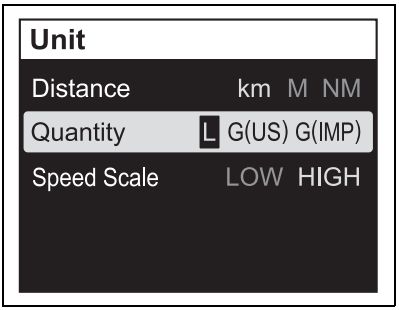
日常使用しない単位を設定すると、表示データを読みあやまるおそれがあります。
表示データを読みあやまると思いがけない事故につながるおそれがあります。
選択する単位は、お客様が日常的に使われるものを選択してください。

[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンで“Unit”を選択し、[SET] ボタンを押します。

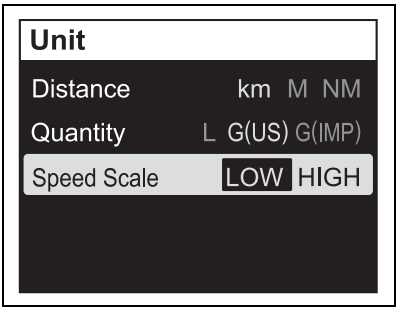
距離の単位設定；
[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンで“Distance”を選択し、[SET] ボタンを押して、“km”（キロメートル）、“M”（マイル）か “NM”（海里）のどれかを選択します。

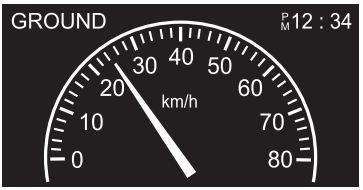


燃料容量の単位設定；
[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンで“Quantity”を選択し、[SET] ボタンを押して、“L”（リットル）、“G（US）”（ガロン（US））か“G（IMP）”（ガロン（IMP））のどれかを選択します。

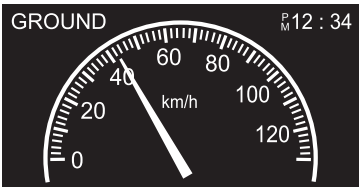


スピードスケールの設定；
[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンで“Speed Scale”を選択し、[SET] ボタンを押して、“LOW”（低速タイプ）、“HIGH”（高速タイプ）のどちらかを選択します。





LOW（低速タイプ）

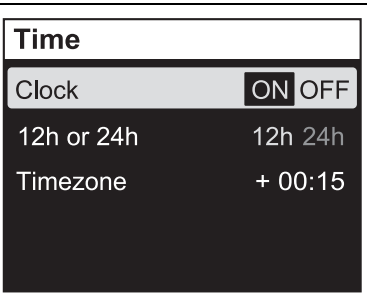


HIGH（高速タイプ）

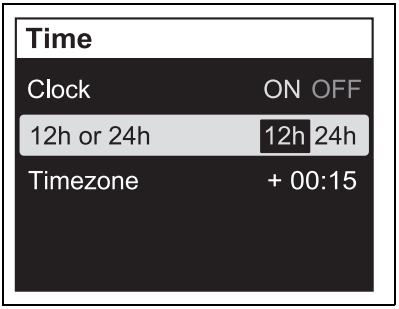
時計設定（Time）

協定世界時（UTC）との時差を入力して時計を設定することができます。
一度時差を入力すれば、入力し直す必要はありません。また、時計の表示と非表示、12 時間表示と 24 時間表示を選択することができます。
[❯] ボタンまたは [❮] ボタンで“Time”を選択し、[SET]　ボタンを押します。

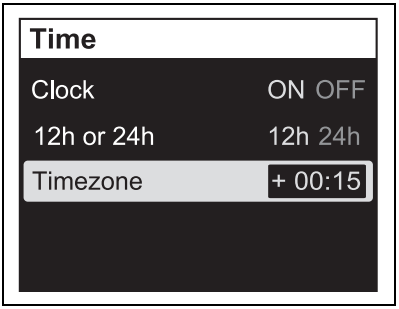
時計の表示、非表示設定；
[❯] ボタンまたは [❮] ボタンで“Clock”を選択し、[SET] ボタンを押して、“ON”（表示）、“OFF”（非表示）のどちらかを選択します。



12 時間表示、24 時間表示設定；
[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンで“12h or 24h”を選択し、[SET] ボタンを押して、“12h”、“24h”のどちらかを選択します。



タイムゾーン設定；
[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンで“Timezone”を選択し、[SET] ボタンを押します。
次に、[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンで時差を入力して（日本は＋ 09：00 としてください。）[SET] ボタンを押します。
[⌄] ボタンまたは [⌃] ボタンを短押しすると、15 分ずつ変更されます。また、長押しすると 15 分毎に連続して変更されます。
GPS モジュールを装着していない場合は、“--：--”と表示されます。



ゲージ、エンジンポジション設定（Position）
ゲージおよび、エンジンポジションの設定を行います。
設定を変更する場合は、スズキ取扱店またはスズキ販売店にご相談してください。

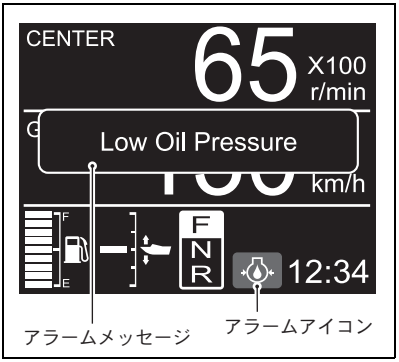
センサー設定（Sensor Setting）
各種センサーの設定を行います。
設定を変更する場合は、スズキ取扱店またはスズキ販売店にご相談してください。

タンク設定（Tank）
燃料タンクの設定を行います。
設定を変更する場合は、スズキ取扱店またはスズキ販売店にご相談してください。

■警告 / 警報表示

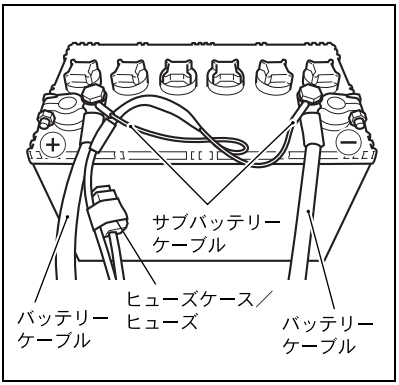
エンジンの運転状態に異常が発生した場合、その異常をゲージの画面に表示するとともにブザーを鳴らして操船者に知らせます。

異常を表す警告 / 警報項目のアラームメッセージは、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えます。
しかし、警告 / 警報の種類を示すアラームアイコンは、異常箇所が正常になるまで表示を継続します。
警報ブザーも同様に、異常箇所が正常になれば鳴り止みます。



サブバッテリーケーブル

・サブバッテリーケーブルは、エンジンの制御システムに電圧を供給します。
・ケーブルには、制御回路を保護する為に、30A のヒューズが取り付けてあります。



アドバイス

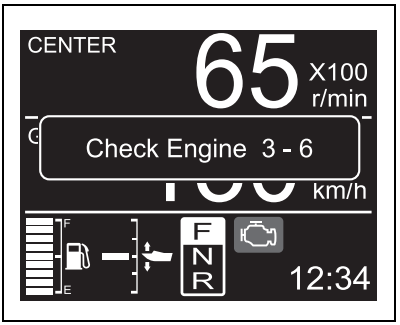
・サブバッテリーケーブルは、バッテリーのプラス（⊕）、マイナス（⊖）端子に確実に接続してください。
・サブバッテリーケーブルがバッテリーに正しく接続されていないと、エンジンの始動（運転）ができません。

アドバイス

バッテリー端子の偶発的なショートを防ぐために、プラスバッテリー端子に絶縁カバーを取付けてください。絶縁カバーが必要なときは、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。

6 モニターシステム

モニターシステム



モニターシステムは、エンジンの運転状態を監視して操船者に知らせます。
この船外機には、次の警告機能があります。
・エンジンオーバーレブ
・オイルプレッシャー
・エンジンオーバーヒート
・バッテリー電圧
・ウォーターインフューエル警報
・DBW コントロールユニットフェイル
・セカンドステーションエラー
・電子スロットルフェイル
・電子シフトフェイル
・マルチファンクションゲージ通信異常
・キーレススタートシステム認証エラー
・携帯リモコンバッテリー電圧低下
・キーレスユニットバッテリー電圧低下
警告機能に追加してダイアグノーシス機能も備えています。
警告、ダイアグノーシス機能の制御の作動は、ゲージにある LCD 画面に表示され、ブザーを鳴らして操船者に知らせます。
次に警告機能、ダイアグノーシス機能の制御が作動したときの状態と、その解除方法を説明します。

⚠ 警 告

警告の表示が出た場合、その原因の特定と解除をするためにエンジンを停止するときは、思いがけない事故を防ぐため、天候や水面の状況が安全であることを確認し、その後に行ってください。

注　記

警告の表示が出ている状態で継続運転をすると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
航走中に警告の表示が出たときは、すみやかにエンジンを停止し、その原因の特定と解除のための処置をしてください。
表示の原因の特定とその処置ができないときは、スズキ取扱店にご相談してください。

アドバイス

モニターシステムの警告表示機能にたよることなく、船外機を使用する前にオーナー・船長または操船者は、必ず日常（航走前）の点検を行ってください。

■ブザーチェック

キーレススタートシステム装着の場合

メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。キーレススタートシステムがOFF（LOCK）状態からON状態になり約3秒間、ブザーが鳴ります。

キーレススタートシステム非装着の場合

エンジンキーをOFFからONにしたとき約3秒間、ブザーが鳴ります。

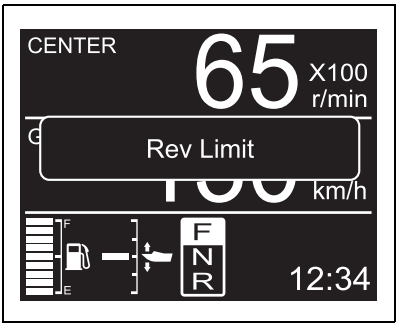
オーバーレブ警告

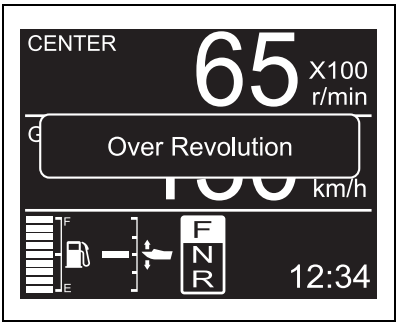
オーバーレブ警告の制御は、次の場合に作動します。

・エンジンが次に示す回転数以上に過回転した場合。

DF200AP	6300 r/min

オーバーレブ警告の制御が作動すると画面に「Rev Limit」が表示されます。
次にエンジン回転が規制され約3000回転付近まで自動的に下がり、ブザーが鳴ります。この時、画面の表示が「Over Revolution」に変わります。
「Over Revolution」の表示を確認後、ゲージのいずれかのボタンを押すと、「Over Revolution」の表示は消去されます。
オーバーレブ警告の制御を解除するには、リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置に戻し、エンジンを少なくとも１秒間アイドリング回転で回してください。





アドバイス

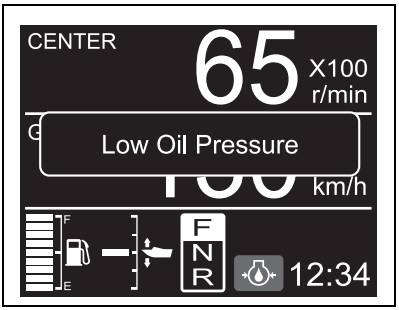
オーバーレブ警告の制御は、不適切なプロペラの使用、航走時にトリム角を大きくし過ぎた場合などが原因で作動します。
警告の制御が作動した原因が特定できない場合は、スズキ取扱店にご相談してください。

オイルプレッシャー警告

オイルプレッシャー警告の制御は、運転中にエンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると作動して操船者に知らせます。

アドバイス

エンジンオイルの補給の必要性をオイルプレッシャー警告の表示機能にたよらないでください。
エンジンオイルの量は、出航前に目視で確認してください。



オイルプレッシャ警告の制御が作動すると、画面に「Low Oil Pressure」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
航走スピード（エンジン回転）が 1000 回転以上のときは、自動的に 1000 回転付近に規制されます。
この警告システムの制御が作動し始めてから３分間経過すると、エンジンは自動的に止まります。

アドバイス

警告システムの制御によりエンジンが自動的に止まった場合、エンジンは再始動を試みれば始動することができます。しかし警告システムの制御は、制御が作動した原因が取り除かれるまで 繰り返されます。

「Low Oil Pressure」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「 Low Oil Pressure 」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

注　記

画面に「Low Oil Pressure」が表示された状態でエンジンの運転を続けるとエンジンが損傷するおそれがあります。
「Low Oil Pressure」が表示されたときは、すみやかにエンジンを停止してください。

⚠ 警　告

エンジンカバーなしで運転すると、手、髪や衣服などが回転体にふれ、ケガをするおそれがあります。
運転中は、エンジンカバーを取り外さないでください。

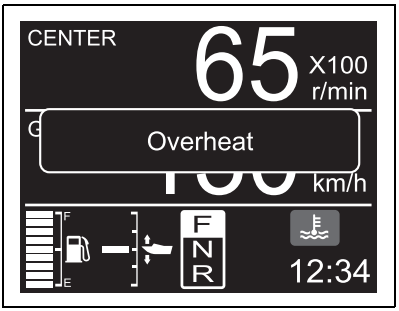
「Low Oil Pressure」が表示されたときは
・天候や水面の状況が安全であることを確認してから
・すみやかにエンジンを停止し
・エンジンオイルの量を点検してください。

エンジンオイルの量が規定のレベルより低い場合は、
・エンジンオイルを補給してください。

エンジンオイルが適切なレベルにある場合は、
・スズキ取扱店にご相談してください。

オーバーヒート警告

オーバーヒート警告の制御は、運転中にエンジンの冷却が不十分になり、エンジンの温度が異常に熱くなる（オーバーヒートする）と作動します。



オーバーヒート警告の制御が作動すると、画面に「Overheat」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
航走スピード（エンジン回転）が 3000 回転以上のときは、自動的に 3000 回転付近に規制されます。
この警告システムの制御が作動し始めてから３分間経過すると、エンジンは自動的に止まります。

アドバイス

警告システムの制御によりエンジンが自動的に止まった場合、エンジンは再始動を試みれば始動することができます。しかし警告システムの制御は、制御が作動した原因が取り除かれるまで繰り返されます。

「Overheat」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「Overheat」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

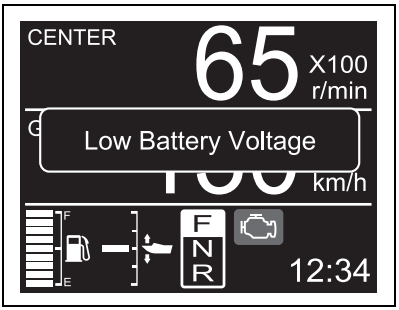
オーバーヒート警告の制御の作動を解除するには、次の要領で冷却系統の点検をしてください。

1. すみやかにリモコンレバーをニュートラル（中立）位置にしてください。
2. 検水口からの排水を確認してください。
3. もし排水がなければ天候や水面の状況が安全であることを確認した後、エンジンを停止させてください。
4. ギヤケースにある吸水口がビニールや海藻などで覆われていないかを点検し、取り除いてください。
5. エンジンを再始動してアイドリングで運転します。運転中に検水口からの排水と画面からメッセージが消えていることを確認してください。

点検の結果、依然として検水口から冷却水の排水がなく、画面からメッセージが消えず、警告ブザーが鳴り続けるときは、スズキ取扱店に冷却系統の点検を依頼してください。

バッテリー電圧警告

この警告は、船外機の異状を示すものではありません。この警告はバッテリーの電圧が、船外機の性能を十分に発揮させるために必要となる電圧より低くなったときに表示されます。



バッテリー電圧警告の制御が作動すると、画面に「Low Battery Voltage」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
「Low Battery Voltage」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「Low Battery Voltage」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、"Menu 画面の設定"、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

バッテリー電圧警告の表示を解除するためには、

【エンジン運転中に表示が出た場合】

・消費電力の多いアクセサリー（漁探等）の使用を中止します。

・すみやかにバッテリーの保守・点検を行います。

アドバイス

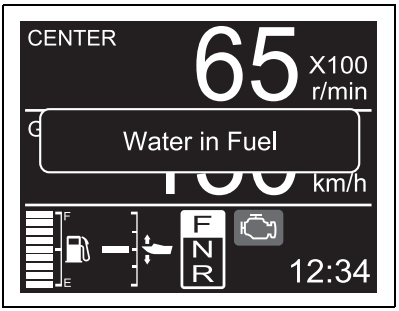
バッテリー電圧警告がたびたび表示されるときは、スズキ取扱店にご相談してください。

【キーレススタートシステムがON状態(キーレススタートシステム装着の場合)または、エンジンスイッチが“ON”(キーレススタートシステム非装着の場合)でエンジン停止時に表示が出た場合】

・バッテリーの劣化、バッテリーケーブルの接続不良、艇体のバッテリースイッチが“OFF”になっている等が原因として考えられますので、これらの電源に関係する箇所を点検し、問題を取り除いてください。

ウォーターインフューエル警報

フューエルフィルターのカップの中に一定量以上の水がたまると警報システムが作動します。



警報システムが作動すると、画面に「Water in Fuel」と警報のアラームアイコンが表示され、クラッチがニュートラルの時のみブザーが鳴ります。
「Water in Fuel」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「Water in Fuel」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

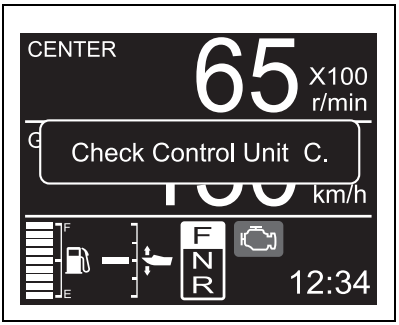
この警報の作動を解除するには、天候や水面の状況が安全であることを確認し、すみやかにエンジンを停止して、フューエルフィルターの清掃を行ってください。又はスズキ取扱店にご相談してください。

フューエルフィルターの清掃のしかたは、「16簡単な点検・整備」の章、“燃料系統／ブリーザーホース”、低圧燃料フィルターの清掃の項目（146 ページ）を参照してください。

DBW コントロールユニットフェイル警告

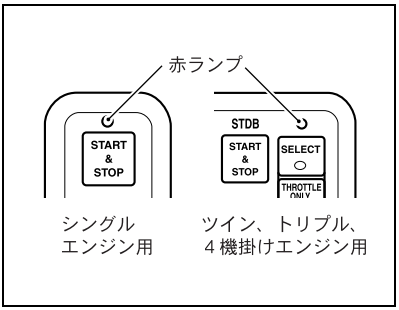
DBW コントロールユニットフェイル警告は、リモートコントロールボックスを含めた電子シフト / スロットルの制御システムに異常があると作動します。

DBW コントロールユニットフェイル警告の制御が作動すると次のようになります。



・画面に「Check Control Unit C.」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。

・スイッチパネルにある赤ランプが点灯します。
・クラッチは、ニュートラル位置になり、エンジンはアイドリング回転で制御されるか停止します。



・「Check Control Unit C.」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「Check Control Unit C.」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

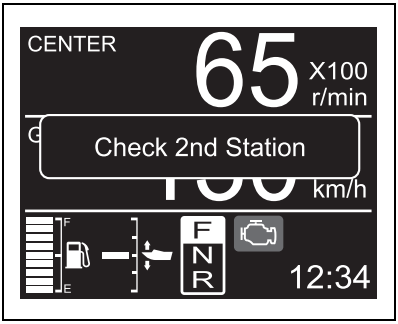
この警告が表示された場合は、すみやかに点検・整備をスズキ取扱店に依頼してください。

セカンドステーションエラー警告

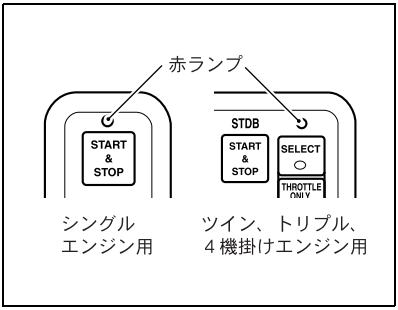
セカンドステーションエラー警告は、第２操船席の制御システムに異常があると作動します。

セカンドステーションエラー警告の制御が作動すると次のようになります。

・画面に「Check 2nd Station」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。



・スイッチパネルにある赤ランプが点灯します。
・第２操船席でのエンジン制御が出来なくなり、第１操船席でのみエンジンの制御を行うことが出来ます。



・「Check 2nd Station」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

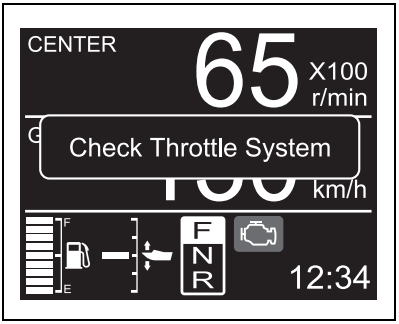
アドバイス

「Check 2nd Station」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

この警告が表示された場合は、すみやかに点検・整備をスズキ取扱店に依頼してください。

電子スロットルフェイル警告

電子スロットルフェイル警告は、電子スロットルの制御システムに異常があると作動します。



電子スロットルフェイル警告の制御が作動すると次のようになります。

- 画面に「Check Throttle System」と警告のアラームアイコンが表示されブザーが鳴ります。
- エンジン回転変動が大きくなり、エンジン回転が上限で2000回転までに規制されます。
- 「Check Throttle System」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

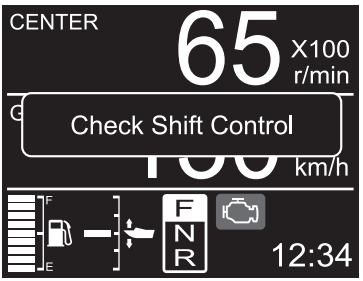
アドバイス

「Check Throttle System」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57ページ）を参照してください。

この警告が表示された場合は、すみやかに点検・整備をスズキ取扱店に依頼してください。

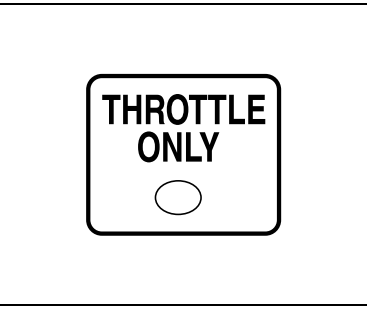
電子シフトフェイル警告

電子シフトフェイル警告は、電子シフトの制御システムに異常があると作動します。



電子シフトフェイル警告の制御が作動すると次のようになります。

- 画面に「Check Shift Control」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
- クラッチは、警告表示が出た時の位置に固定され、シフトをさせることができなくなります。
- エンジン回転は、リモコンレバーの操作で低速から2000回転付近までの範囲で調整することができる場合と、アイドリング（低速）回転に規制される場合のどちらかの状態になります。
- アイドリング回転に規制された時は、リモコンレバーをニュートラル位置にして「THROTTLE ONLY」スイッチを押せば、リモコンレバーを操作して2000回転付近までの範囲でエンジン回転のみを調整することができます。
- 「Check Shift Control」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。



アドバイス

「Check Shift Control」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57ページ）を参照してください。

この警告が表示された場合は、すみやかに点検・整備をスズキ取扱店に依頼してください。

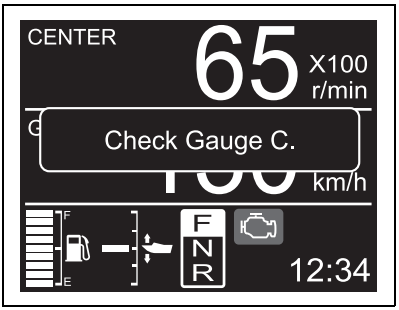
⚠ 警 告

・「THROTTLE ONLY」スイッチは、リモコンレバーをニュートラルにしてから押してください。
ニュートラル位置でないとボートが急発進して事故につながるおそれがあります。
・「Check Shift Control」が表示されているときは、前進・中立・後進の切り替えが出来ません。
非常時を除き、運転をしないでください。

マルチファンクションゲージ通信異常警告

この警告はマルチファンクションゲージの通信状態に異常があると作動します。

マルチファンクションゲージ通信異常警告の制御が作動すると、画面に「Check Gauge C.」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
「Check Gauge C.」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。



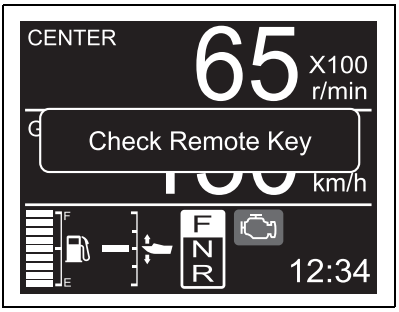
アドバイス

「Check Gauge C.」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

この警告が表示された場合は、すみやかに点検・整備をスズキ取扱店に依頼してください。

キーレススタートシステム認証エラー警告
(キーレススタートシステム装着の場合)

この警告はキーレススタートシステムの認証が正常に行われなかったときに作動します。



キーレススタートシステム認証エラー警告の制御が作動すると、画面に「Check Remote Key」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
「Check Remote Key」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「 Check Remote Key 」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス (Diagnosis) の項目 (57 ページ) を参照してください。

キーレススタートシステム認証エラー警告の制御の作動を解除するには、次に示す項目を点検してください。

1. 携帯リモコンがキーレスユニットの作動範囲内にあるか。
2. 携帯リモコンが通信モードになっているか。
   携帯リモコンの通信モード切替：
   「5 各部の取扱い」の章、“キーレススタートシステム”、携帯リモコンの通信モード切替の項目 (21 ページ) を参照してください。
3. 携帯リモコンとキーレスユニット間に電波を妨害するものがないか。

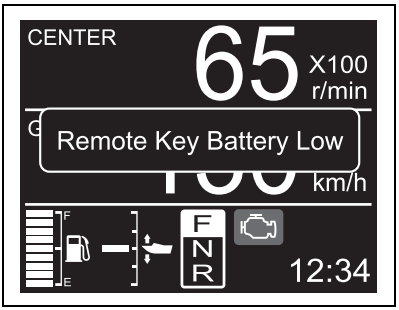
4. 携帯リモコンの電池の蓄電量が少なくないか。
5. 使用するボートのキーレススタートシステムに認証されている携帯リモコンであるか。

アドバイス

警告の制御が作動した原因が特定できない場合は、スズキ取扱店にご相談してください。

携帯リモコンバッテリー電圧低下警告
(キーレススタートシステム装着の場合)

この警告は携帯リモコンの電池の蓄電量が少なくなると作動します。



携帯リモコンバッテリー電圧低下警告の制御が作動すると、画面に「Remote Key Battery Low」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
「Remote Key Battery Low」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「Remote Key Battery Low」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、"Menu 画面の設定"、2. ダイアグノーシス (Diagnosis) の項目 (57 ページ) を参照してください。

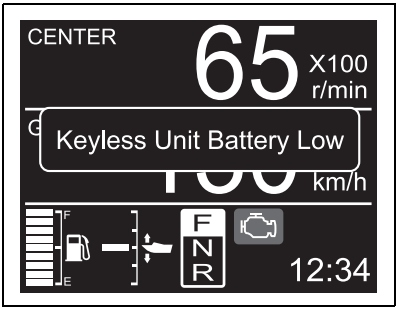
携帯リモコンバッテリー電圧低下警告の制御の作動を解除するためには、新しい電池と交換してください。
携帯リモコンの電池交換：
「5 各部の取扱い」の章、"キーレススタートシステム"、携帯リモコンの電池交換の項目 (22 ページ) を参照してください。

アドバイス

警告の制御が作動した原因が特定できない場合は、スズキ取扱店にご相談してください。

キーレスユニットバッテリー電圧低下警告
(キーレススタートシステム装着の場合)

この警告はキーレスユニットに供給されるバッテリーの電圧が通信に必要となる電圧より低くなったときに作動します。



キーレスユニットバッテリー電圧低下警告の制御が作動すると、画面に「Keyless Unit Battery Low」と警告のアラームアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
「Keyless Unit Battery Low」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、アラームアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「Keyless Unit Battery Low」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、"Menu 画面の設定"、2. ダイアグノーシス (Diagnosis) の項目 (57 ページ) を参照してください。

キーレスユニットバッテリー電圧低下警告の制御の作動を解除するためには、次に示す項目を点検してください。

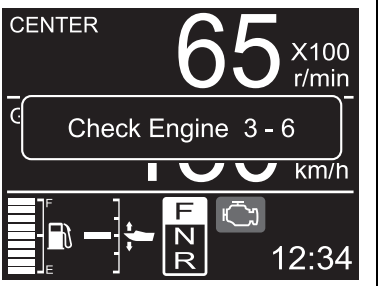
1. バッテリーの容量低下、または容量不足はないか
2. バッテリーターミナルの緩み、または腐食はないか

アドバイス

警告の制御が作動した原因が特定できない場合は、スズキ取扱店にご相談してください。

ダイアグノーシス

ダイアグノーシスは、エンジンの電子制御システムに異状があると、その異状箇所を、次のように表示して操船者に知らせます。



エンジンの電子制御システムに異状があると、画面に「 Check Engine X-X 」と警告のチェックエンジンアイコンが表示され、ブザーが鳴ります。
航走スピード（エンジン性能）が低下したり、航走が出来なくなる場合があります。
「Check Engine X-X」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、チェックエンジンアイコンは、不具合が直るまで表示されます。

アドバイス

「Check Engine X-X」の表示が消えた後、何のトラブルでアラームアイコンが出ているかを確認するには、ゲージのダイアグノーシスで確認することができます。
確認方法は、「5 各部の取扱い」の章、“Menu 画面の設定”、2. ダイアグノーシス（Diagnosis）の項目（57 ページ）を参照してください。

アドバイス

- **画面に「Check Engine X-X」が表示されたときは、すみやかにスズキ取扱店で点検を受けてください。**
- **画面表示「Check Engine X-X」の X-X は、異常箇所により数字が異なります。**
- **ダイアグノーシス表示による警告ブザーの吹鳴は、運転中にメインスイッチノブを押し込むと鳴らなくなります。**

オイルチェンジリマインダーシステム
［エンジンオイル交換時期お知らせ機能］

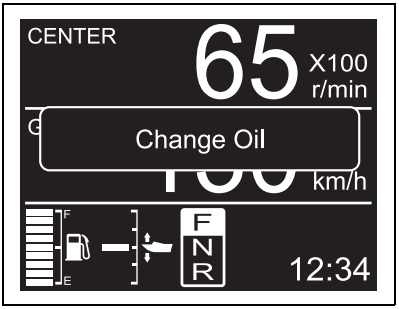
アドバイス

・「オイルチェンジリマインダーシステム」は、操船者にエンジンオイル交換を促すための機能です。
・エンジンオイルは、日常点検を必ずおこない、汚れ、劣化、変色が著しい場合は、早めに交換をしてください。

■表示機能の作動

エンジン運転時間が 100 時間に到達する毎に「オイルチェンジリマインダーシステム」機能の働きにより、次の表示がされ、操船者に知らせます。

エンジン運転時間が 100 時間に到達する毎に、画面に「Change Oil」が表示され、ブザーが鳴ります。
「Change Oil」の表示は、ゲージのいずれかのボタンを押すと消えますが、表示のキャンセルの操作をするまで繰り返し表示されます。



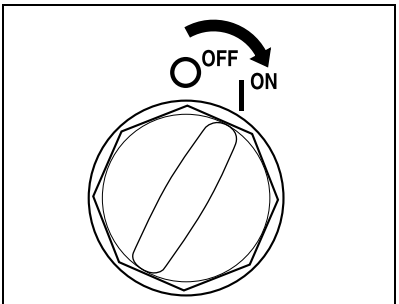
アドバイス

・新機を使用し始めてから、運転時間が 20 時間に到達した時に、この表示機能が特別に働き、画面に「Change Oil」が表示され、ブザーが鳴ります。
・【キーレススタートシステム装着の場合】
ブザーはキーレススタートシステムが ON 状態でエンジンが止まっている場合にのみ鳴ります。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
ブザーはエンジンキーが“ON”の位置でエンジンが止まっている場合にのみ鳴ります。

■表示のキャンセル

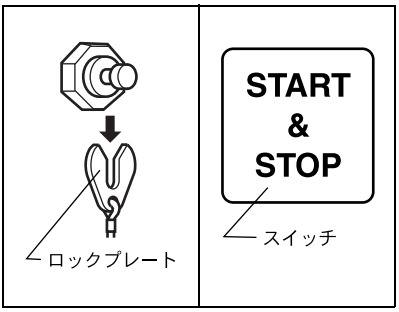
この表示のキャンセルは、次の操作をすることにより行ってください。

1. **キーレススタートシステム装着の場合**
   エンジンを一度止めてください。
   キーレススタートシステムは ON 状態のままにしておきます。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンを一度止め、エンジンキーを“ON”の位置にしてください。



キーレススタートシステム非装着の場合

2. ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチから取り外してください。
3. スイッチパネルの「START & STOP」スイッチを 10 秒以内に 3 回押してください。



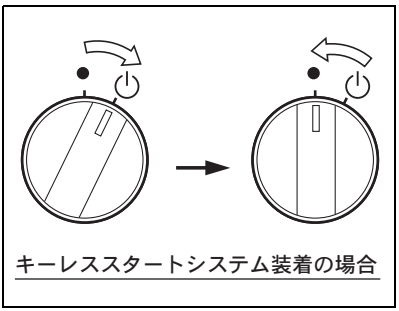
アドバイス

・キャンセル作業が正常に終了すると、ブザーが短く 1 回鳴ります。
・オイルチェンジリマインダー表示のキャンセルが正しく行われないと「Change Oil」の表示、ブザーの吹鳴が継続します。
・キャンセルができなかった場合は、キャンセルの作業をやり直してください。

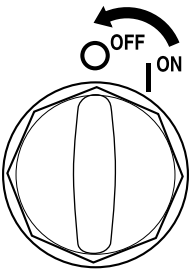
アドバイス

・運転時間は、キャンセル作業をすると、0（ゼロ）にリセットされ、新たに次の 100 時間に向けてカウントを開始します。
・エンジンオイルを交換するときは、運転時間を 0（ゼロ）にリセットしてください。

4. **キーレススタートシステム装着の場合**
メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態にしてください。


キーレススタートシステム装着の場合

キーレススタートシステム非装着の場合
エンジンキーを“OFF”にしてください。



キーレススタートシステム非装着の場合

5. エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを取り付けてください。

エンジンストールお知らせ機能

エンジン運転中にエンジンが止まると、それを操船者に知らせる機能です。
エンジン運転中に何らかの理由でエンジンが止まった場合、ブザーが 3 回鳴ります。

7 船外機の取付け

船外機の取付け

⚠ 警　告

・ボートのオーバーパワーは、操縦が不安定になり転覆等のおそれがあります。
指定最大出力を超えるエンジンの搭載は、しないでください。
・船外機や装備品等のボートへの適切でない取付けは、操船不能や船外機・ボートに損傷を招き、その結果、人身事故に至るおそれがあります。
・船外機、リモートコントロール装置、メーターの取付けは、スズキ取扱店に依頼してください。

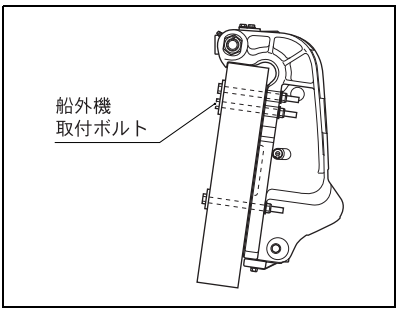
船外機および装備品の不適当な取付けは、エンジン性能を充分に発揮させることができません。

船外機の持つ性能を完全に引き出すために、船外機は、ボートに正しく取り付けなければなりません。

船外機、リモートコントロール装置、メーター、その他の艤装品などを正しくボートに取り付けるためには、適切な工具、設備と確かな技術および経験が必要です。
船外機、コントロール装置などの取付けは、スズキ取扱店に依頼してください。

⚠ 注　意

船外機の取付けが不完全だと、航行中、船外機を水中に落とすおそれがあります。
船外機取付ボルトは確実に締め付け、定期的に緩みがないか点検してください。



船外機は、ボートに６本のボルトとナットで取り付けられています。
出航前にボルト、ナットの締付けに緩みがないかを必ず点検してください。

ロワーユニット回転の選択

この製品のロワーユニットは、前進時、後方から見て、プロペラシャフトが右に回るレギュラーローテーションロワーユニット、左に回るカウンターローテーションロワーユニットの選択がロワーユニット自体を交換することなくできます。

工場からは、レギュラーローテーションロワーユニットの仕様で出荷されます。

レギュラーローテーションロワーユニットからカウンターローテーションロワーユニットに変更するには、ヒューズボックス付近にあるローテーションセレクトコネクターを“レギュラーローテーション”コネクターから別売品の“カウンターローテーション”コネクターに差し替えます。
セレクトコネクターの差替えは、

キーレススタートシステム装着の場合

キーレススタートシステムが OFF (LOCK) 状態になっていることを確認して行ってください。

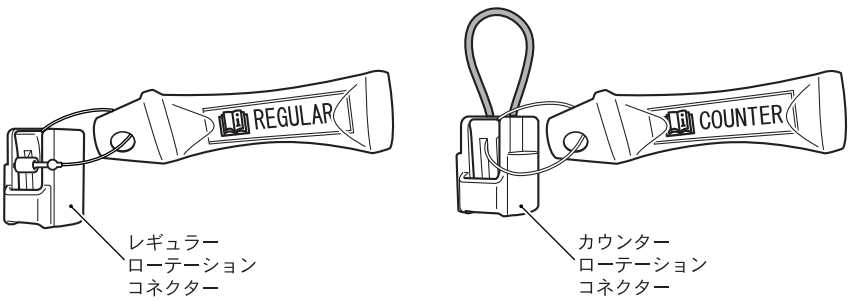
キーレススタートシステム非装着の場合

エンジンキーを OFF にして行ってください。
レギュラーローテーションロワーユニットに戻すには、ローテーションセレクトコネクターを“レギュラーローテーション”コネクターに差し替えます。
システムの詳細は、スズキ販売店にお問い合わせください。

アドバイス

ロワーユニット回転の選択は、プロペラタイプの選択に密接に関連します。プロペラタイプの選択については、“ロワーユニット回転の識別とプロペラタイプの選択”の項（118 ～ 120 ページ）を参照してください。

ローテーションセレクトコネクター



8 バッテリー

推奨バッテリー

バッテリーは、以下の容量のものを使用することを推奨します。

推奨バッテリー：12V　100 Ah／
(20 時間率容量)以上

⚠ 注　意

**バッテリーには、バッテリー使用上の警告ラベルが貼られています。
使用前に警告ラベルをよく読んでください。**

バッテリーの取付け

⚠ 警　告

・バッテリーは、引火性のガスを発生し、引火爆発のおそれがあります。バッテリー付近では、火気を絶対に使用しないでください。
・バッテリーの火花がガソリンに引火すると、爆発のおそれがあります。バッテリー付近には、ガソリンの入った容器を置かないでください。

バッテリーは、水しぶき等がかからない場所に収納し、航走中に倒れたりしないようにバッテリーバンド等で艇体に確実に固定してください。

アドバイス

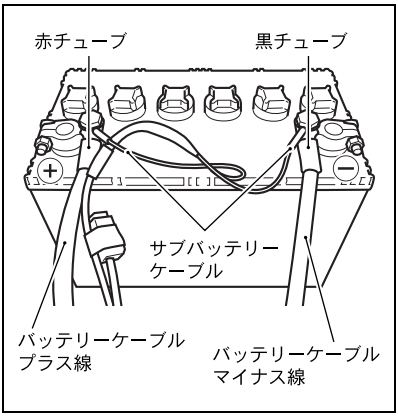
エンジンを2機掛け以上にした場合は、必ずエンジン 1 機につき 1 個のバッテリーを使用してください。

バッテリーケーブルの接続

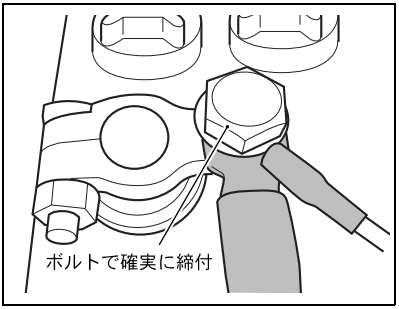
注　記
・バッテリーケーブルのバッテリーへの接続手順、接続極を間違えると、電装部品の損傷を招きます。 ケーブルはバッテリーに正しく接続してください。 ・バッテリーにバッテリーケーブルを接続したり取り外したりするときは、 【キーレススタートシステム装着の場合】 キーレススタートシステムがOFF（LOCK）状態であることを確認してから行ってください。 【キーレススタートシステム非装着の場合】 エンジンスイッチ（キー）を“OFF”「切」にしてから行ってください。 ・エンジン運転中にバッテリーケーブルをバッテリーから取り外さないでください。電装部品が損傷することがあります。

バッテリーケーブルのバッテリーへの接続は、次の手順で行ってください。

1. **キーレススタートシステム装着の場合**
   キーレススタートシステムが OFF（LOCK）状態であることを確認してください。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンスイッチ（キー）を“OFF”「切」にしてください。
2. プラス（赤）バッテリーケーブルとプラスサブバッテリーケーブルを最初にバッテリーのプラス（＋）端子に接続してください。
   （サブバッテリーケーブル:「各部の取扱い／サブバッテリーケーブル」、62 ページを参照してください。）



3. 次にマイナス（黒）バッテリーケーブルとマイナスサブバッテリーケーブルをバッテリーのマイナス（−）端子に接続してください。



アドバイス

バッテリーケーブルは、バッテリー端子に六角ボルト、又は六角ナットでしっかりと締め付けてください。バッテリーケーブルの締付けに緩みがあると、電子制御システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。

アドバイス

バッテリー端子の偶発的なショートを防ぐために、プラスバッテリー端子に絶縁カバーを取付けてください。
絶縁カバーが必要なときは、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。

バッテリーケーブルの取外し

バッテリーケーブルのバッテリーからの取外しは、

キーレススタートシステム装着の場合

キーレススタートシステムが OFF (LOCK) 状態であることを確認してから、接続の逆の手順で行ってください。

キーレススタートシステム非装着の場合

エンジンスイッチ（キー）を“OFF”「切」にしてから、接続の逆の手順で行ってください。

アクセサリー用バッテリー

エンジン運転用バッテリーとは別に、アクセサリー用バッテリーを搭載した場合、それぞれのバッテリーへ充電を行うための回路を、別売の専用部品（アイソレータリード線）を用いて作ることができます。

推奨アクセサリー用バッテリー容量

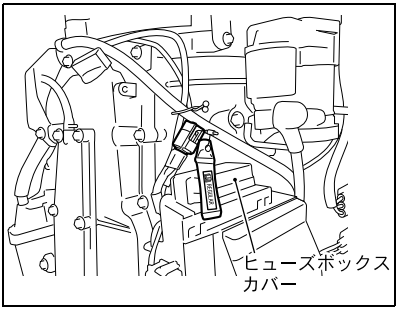
12 V 100 AH 以上

注　記
アクセサリー用バッテリーからの取出し電流の合計は、25 アンペア以下としてください。

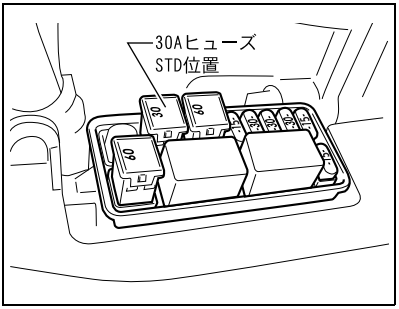
1. 充電回路の配線を、スズキ取扱店へ依頼してください。

⚠ 警　告
自己流の電気配線を行わないでください。思いがけない火災や事故をおこすおそれがあります。

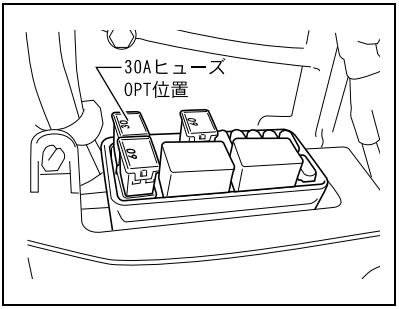
2. ヒューズボックスのカバーを取り外します。



3. アイソレータヒューズ 30A を“STD”（スタンダード）位置から“OPT”（オプション）位置に差し替えます。

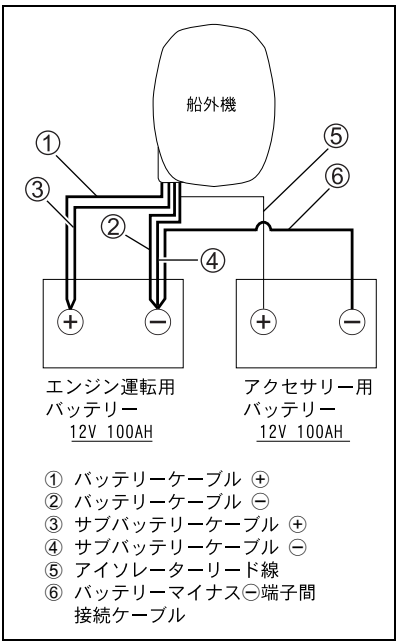


4. ヒューズボックスのカバーを取り付けます。



⚠ 警 告

ケーブルの線径が細い場合は、ケーブルが焼損し火災の原因になるおそれがあります。
バッテリーマイナス（－）端子間接続ケーブルは､線径の太さが AV30 以上のケーブルを使用してください。



① バッテリーケーブル ⊕
② バッテリーケーブル ⊖
③ サブバッテリーケーブル ⊕
④ サブバッテリーケーブル ⊖
⑤ アイソレーターリード線
⑥ バッテリーマイナス⊖端子間接続ケーブル

9 燃料給油

⚠ 警 告

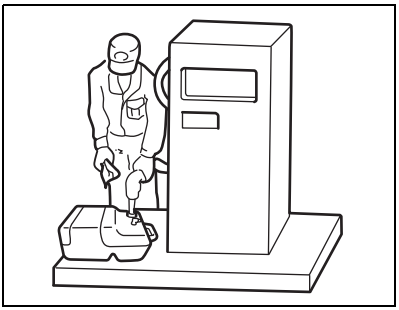
気化したガソリンは、引火爆発のおそれがあります。
ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。

⚠ 警 告

ガソリンは、引火しやすく火災のおそれがあります。
燃料タンク等への給油時には、
・エンジンを停止してください。
・風通しの良い所で行ってください。
・燃料をこぼさないでください。
・ポータブル燃料タンクへの給油は、タンクを船外におろして行ってください。
・燃料タンクには、満タンに給油しないでください。
満タンにすると温度上昇時に膨張し、燃料があふれでるおそれがあります。

燃料タンクへの給油

1. 燃料タンクキャップを左に回して取り外してください。
2. 給油口から無鉛レギュラーガソリンを給油してください。



燃料タンク容量	「20 仕様諸元」の章、(180 ページ) を参照してください。

3. 給油し終わったら燃料タンクキャップを右にまわしてタンクの給油口に確実に締め付けてください。

10 日常点検

日常点検（出航前の点検）は、船外機を使用する前に行う点検です。

⚠ 警 告

オーナー（船長）は乗船者の安全を確保するため、船外機を使用する前に日常点検を行ってください。
点検の結果、異状が認められた場合は、ご自身またはスズキ取扱店で確実に整備し、不備がないことを確認してからお使いください。

次に示す各項目を入念に点検してください。
点検の結果、異状をみつけたら、その部分は必ず確実に整備し、不備がないことを確認してからお使いください。

燃料／燃料系統

・航行計画に対し、燃料タンクに燃料が充分に入っているかを点検してください。
・燃料タンク／ホース等の燃料系統から燃料漏れをしている所がないかを点検してください。
・燃料ホースの接続に緩みがなく、漏れを発生している箇所がないことを確認してください。

取付け状態

・船外機の取付ボルトに緩みがなく、確実に締め付けられているかを点検してください。

エンジンオイル

・**エンジンオイルの量が**、オイルレベルゲージに示された範囲内にあるかを点検してください。
下限に近い場合は、上限まで補給してください。

・**エンジンオイルの**汚れを点検してください。
汚れや変色が著しい場合は、エンジンオイルを交換してください。

エンジンオイル量／汚れの点検：
「16 簡単な点検・整備」の章、エンジンオイルの項（138 ページ）を参照してください。

プロペラ

・プロペラに曲がり、欠け、損傷がないかを点検してください。
・プロペラナットのコッタピンが正しく取り付けられており、損傷がないことを確認してください。

リモートコントロール／操縦装置

・シフト、スロットル、ステアリングの各操作が確実にできることを確認してください。

バッテリー

・バッテリー液の量は適正か、バッテリーターミナル部分は確実に締め付けられているかを点検してください。

アドバイス

本機の性能を十分に発揮させるためには、良好な状態のバッテリー電源が必要です。
バッテリーは、スターターモーターが勢いよく回り、常にエンジンが始動できるように保守をしておいてください。

スイッチ

・全てのスイッチが確実に機能し、電気系統の装置が作動することを確認してください。
・パワートリム／チルトが確実に作動することを確認してください。
・エマージェンシーストップスイッチが正しく機能することを確認してください。

常備品

・サービス工具、スペアパーツなどの常備品が船内にあることを確認してください。
（付属工具、プロペラの交換ができる工具、予備プロペラ、予備スパークプラグ、予備燃料など。）

ボルト／ナット

・各部を締め付けているボルト／ナットに緩みがないかを点検してください。

エンジン

・エンジンが速やかに始動し、円滑に回転するかを点検してください。
・運転中にエンジンから異音の発生がないか、冷却水が排出されているかを点検してください。

11 ならし運転

新しい船外機は、エンジンを高回転（高負荷）で使用する前、次に示す時間をかけてならし運転を行う必要があります。
ならし運転を正しく行うことにより新品の各摺動部品に良好なあたりがつきます。
これをすることにより、船外機が持ち前の性能を充分に発揮し、船外機の寿命も延ばすことができます。

ならし運転時間；　　10 時間

ならし運転は、次に説明する要領で行ってください。

注　記
ならし運転を正しく行わないとエンジンに早期の損傷を招くおそれがあります。

■暖機運転

暖機運転を５分以上の時間をかけて、必ず行ってください。

■スロットル開度（エンジン回転数）

1. 最初の２時間
   ①、クラッチを入れ、15 分間は最低速で運転してください。
   ②、徐々に加速させ、スロットル開度を 1/2 程度まで上げ、1/2 開度以下の範囲で運転してください。

アドバイス

ボートを滑走させるためには推奨スロットル開度を超えてもかまいませんが、滑走をしたら速やかに推奨スロットル開度にもどしてください。

2. 次の１時間
   徐々に加速させ、スロットル開度を 3/4 程度まで上げ、この開度以下で運転してください。
   スロットルを全開にして航走しないでください。

3. 最後の７時間
   好みのスピードで航走し、５分間を超えない範囲で時々スロットルを全開にしてください。

アドバイス

・ならし運転期間の最後の７時間においては、スロットルを全開にして航走してもかまいませんが、連続して５分間以上は全開を持続させないでください。
・指示されたスロットル開度の範囲内でエンジン回転を変えながら航走することが船外機にとって良いならし運転の方法です。
・ならし運転の期間中は、過大な負荷をかけることを避け、推奨開度以下でご使用ください。

12 運転・操作

エンジン始動

⚠ 警 告

・排気ガスは、一酸化炭素を含んでおり、中毒をひきおこすおそれがあります。
ボートハウスなど閉め切った所では、エンジンを始動しないでください。
・エンジンカバーなしで運転すると、フライホイール等に触れるなど、けがをするおそれがあります。
エンジンカバーを取り外したまま運転しないでください。

■エンジン始動要領

⚠ 警 告

遊泳者がボート、船外機のプロペラに接触すると、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
エンジンを始動する前に、ボートの周辺に障害物等がなく、また、遊泳者等がいないことを確かめてください。

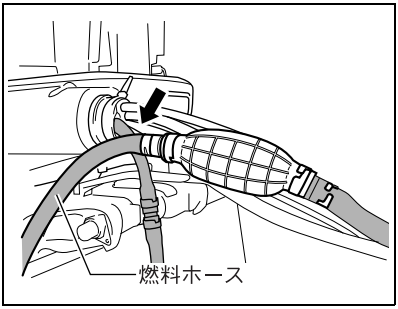
注 記

この船外機は水冷式のため、冷却水がないとエンジンオーバーヒートを招きます。また、ウォーターポンプが損傷します。
陸上で冷却水がない状態で運転しないでください。

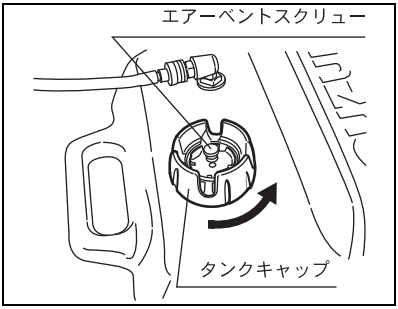
1. 船外機のギヤケース部（アンチキャビテーションプレート）を完全に水中に入れてください。
2. 燃料タンクに燃料が充分にあることを確認してください。
3. 燃料ホースが燃料タンクと船外機に確実に接続されていることを確認してください。

アドバイス

燃料ホースは、折れ曲がりがないように適切に取り回してください。



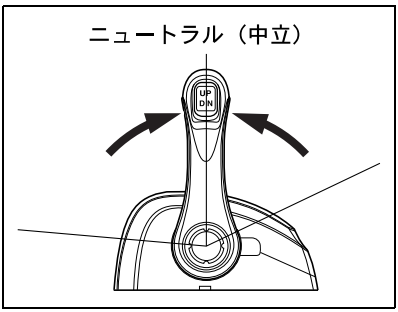
4. 燃料タンクに手動のエアーベントがあれば、エアーベントスクリューを回して緩め、エアーベントを開放してください。



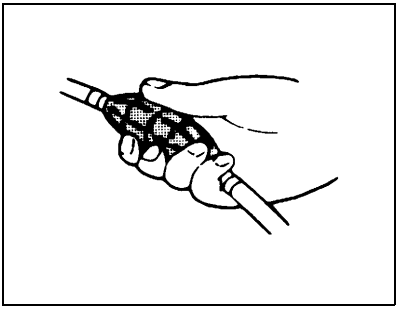
5. リモコンレバーをニュートラル（中立）位置にしてください。

アドバイス

リモコンレバーがニュートラル（中立）位置でないと、始動安全装置が働き、始動できません。
（スターターモーターが回りません。）



6. スクイズポンプを握ったり、離したりして、ポンプが固くなるまで、この動作をくり返してください。



アドバイス

新機を最初に使用する場合、長期間使用しないでその後使用されるときは、次の手順に従ってください。

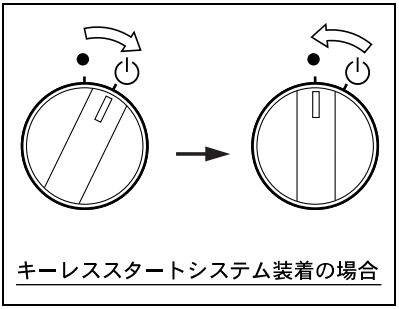
①、スクイズポンプを握ったり、離したりして、ポンプが固くなるまでくり返してください。

②、エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを差し込みます。

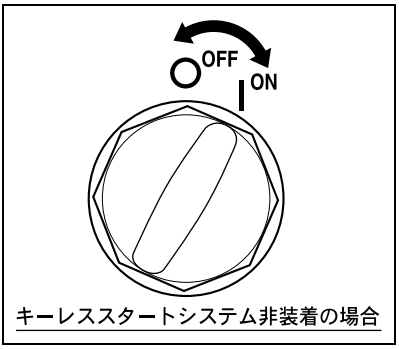
③、【キーレススタートシステム装着の場合】
メインスイッチノブを操作して、キーレススタートシステムを OFF (LOCK) 状態から ON 状態にしてください。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンキーを “OFF” から “ON” にしてください。

④、【キーレススタートシステム装着の場合】
約３秒後にメインスイッチノブを “●” 位置から “⏻” 位置まで回して、“●” 位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF (LOCK) 状態にしてください。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
約３秒後にエンジンキーを “OFF” にしてください。

⑤、手順 ①、②、③、④ を４－５回くり返し、燃料を燃料系統に充満させてください。

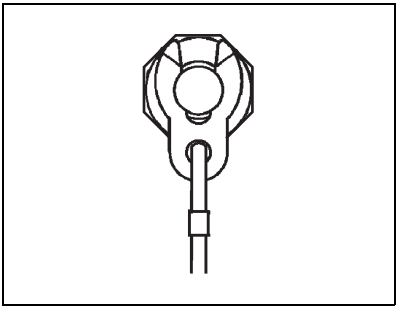


キーレススタートシステム装着の場合



キーレススタートシステム非装着の場合

7. エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを差し込み、エンジンストップスイッチコードの一端を操船者の身体の一部（手、足、衣服等）に付けてください。



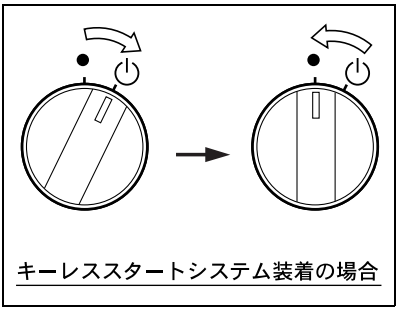
⚠ 警　告

エンジンストップスイッチコードを付けずに落水した場合、エンジンが停止せず暴走するおそれがあります。
運転中は、エンジンストップスイッチコードを身体の一部に必ず付けてください。

アドバイス

【キーレススタートシステム装着の場合】
エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを取り付けていないと、キーレススタートシステムをON状態にすることができません。

8. **キーレススタートシステム装着の場合**
   - ・携帯リモコンを通信モードにします。
   - ・携帯リモコンがキーレスユニットとの通信範囲内にあることを確認します。
   - ・メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻してください。
   - ・ブザーがエンジンコントロールシステム側の長音が 1 回と、キーレススタートシステム側の短音が2回同時に鳴り、キーレススタートシステムがON状態になったことを知らせます。

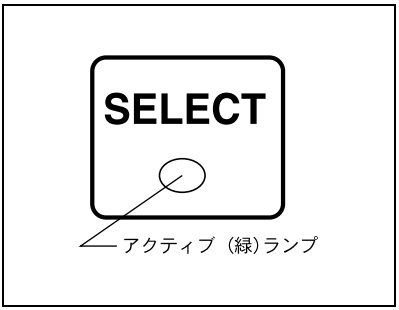


キーレススタートシステム装着の場合

アドバイス

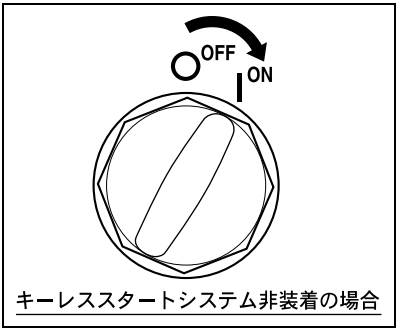
・携帯リモコンとキーレスユニットの通信可能範囲は、両者が 80cm 以内にある場合です。
・携帯リモコンが停止モードに設定されている場合は、通信モードに切り替えてからやり直してください。(21 ページ参照)
・キーレススタートシステムが ON 状態にならなかった場合は、ブザーが長音で 1 回と、短音で 5 回鳴ります。その時は、携帯リモコンをキーレスユニットに近づけて、もう一度やり直してください。

スイッチパネルの “SELECT” スイッチのアクティブ (緑) ランプが点灯していることを確認してください。



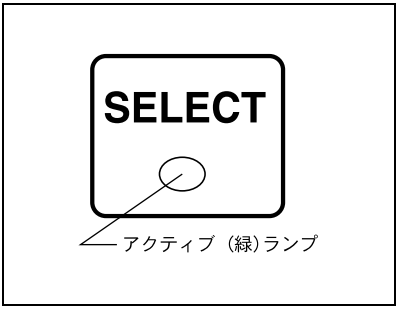
キーレススタートシステム非装着の場合

エンジンキーを “ON” の位置にしてください。

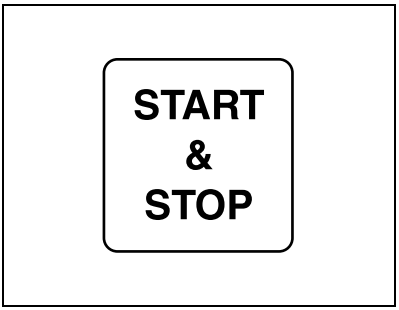


キーレススタートシステム非装着の場合

スイッチパネルの “SELECT” スイッチのアクティブ (緑) ランプが点灯していることを確認してください。



9. スイッチパネルの“START & STOP”スイッチを押してください。スターターモーターが回り、エンジンが始動します。



アドバイス

・“START & STOP”スイッチを一回押すと、エンジンが始動するまで連続して3秒間スターターモーターが回ります。
・エマージェンシーストップスイッチにロックプレートが取付けられていないと、スイッチを押してもスターターモーターは回りません。

アドバイス

スターターモーターの連続運転可能時間は、5秒に設定されています。
“START & STOP”スイッチを押し続けた場合､5秒間を超えるとスターターモーターは自動的に止まります。
モーターが自動的に止まったら、モーターを冷やすために10秒間待ち、その後再度スイッチを操作してください。

10. エンジンが始動したら
・検水口からの排水を確認してください。(105ページ参照)
・暖機運転を、エンジン回転が規定のアイドリング回転に安定する迄､数分間行ってください。

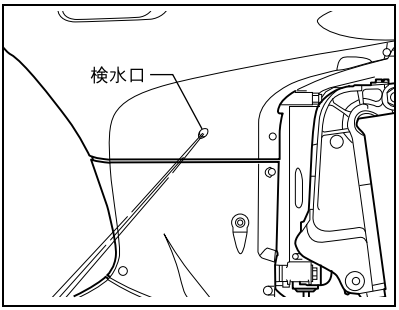
アドバイス

クラッチがニュートラル時のエンジン回転について；

- **“THROTTLE ONLY”スイッチを押してクラッチがニュートラルに固定された状態でリモコンレバーを操作してエンジン回転調整をした場合、エンジン回転は、3000rpm を超えると3000rpm 付近に規制されます。**
- **この回転規制を解除するためには、スロットルを少なくとも１秒間全閉に戻してください。**

■検　水

エンジン始動後、検水口から冷却水が排出されていることを確認してください。
冷却水の排出がない場合は、直ちにエンジンを停止し、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。



注　記

冷却水の排出がない状態でエンジンを運転すると、エンジンがオーバーヒートし、その結果エンジンに重大な損傷を招きます。
冷却水の排出がない場合は、エンジンを停止し、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。

シフト操作・スピードコントロール

前進・後進のシフト操作、スピードコントロールは、以下の要領で行ってください。

⚠ 警　告

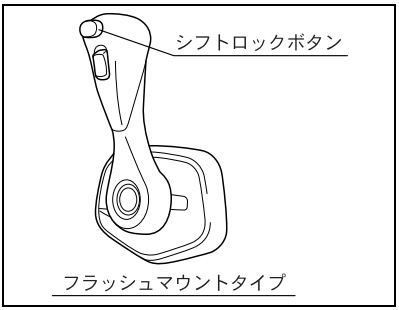
遊泳者がボート、船外機のプロペラに接触すると、重大な傷害につながるおそれがあります。
シフト操作をする前に、ボートの周辺に障害物等がなく、また、遊泳者等がいないことを確かめてください。

注　記

・エンジンが高回転時のシフト操作は、急加減速による同乗者の転倒やクラッチ・ギヤ等の損傷のおそれがあります。
エンジンを最低回転にしてシフトしてください。
・前進から後進、後進から前進にシフト操作をするときは、リモコンレバーを一度ニュートラル（中立）にし、エンジンを最低回転にし、ボートのスピードが十分に落ちてから行ってください。

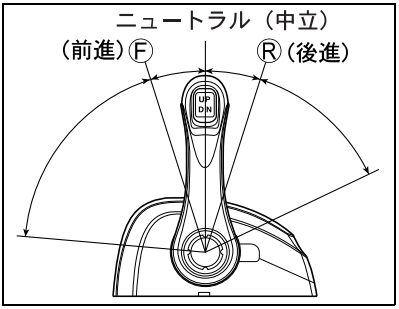
アドバイス

フラッシュマウントリモートコントロールボックス：
このコントロールボックスにはシフトロックボタンがあります。
ニュートラル位置から前・後進にシフト操作する時は、シフトロックボタンを押し込んだ状態でリモコンレバーを操作してください。



■前　進

前進側にシフトするときは；
リモコンレバーをすみやかに前進側Ⓕ位置に倒してください。



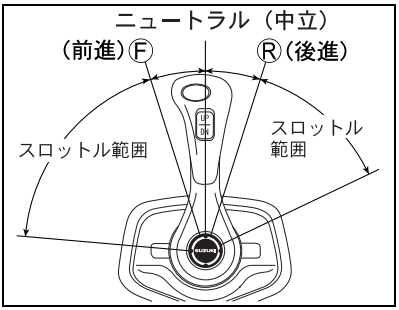
■後　進

後進側にシフトするときは；
リモコンレバーをすみやかに後進側Ⓡ位置に倒してください。

■スピードコントロール

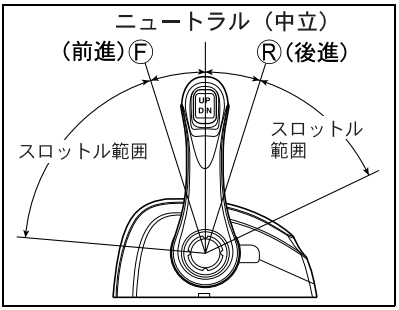
⚠ 警　告

後進をするとき、エンジン回転を上げ過ぎるとボートが不安定になり操船に支障をきたし、事故につながるおそれがあります。
後進のスピードは、必要最低限におさえ、ゆっくりと後進するようにコントロールしてください。
エンジン回転を必要以上に上げないでください。



⚠ 注　意

急加減速は、同乗者の転倒を招くおそれがあります。
リモコンレバーは、スロットル範囲では、急激に倒したり、戻したりしないでゆっくりと操作してください。



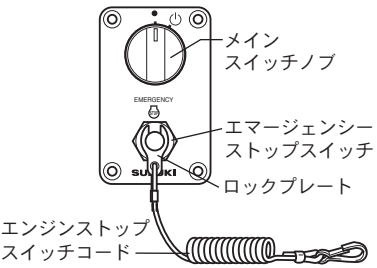
・スピードは、前進または後進にシフトされた後、リモコンレバーをさらに倒すと増速します。
・リモコンレバーの倒しかげんでボートのスピードを調整してください。

エンジン停止

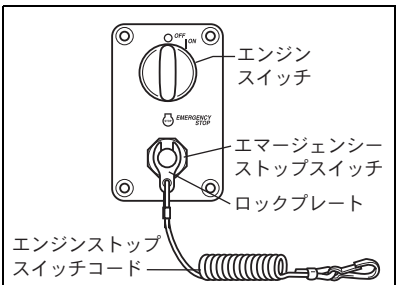
エンジンを停止させる場合は、次の要領で行ってください。

アドバイス

緊急にエンジンを停止しなければならない場合は、エンジンストップスイッチコードを引っ張り、エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを引き抜いてください。

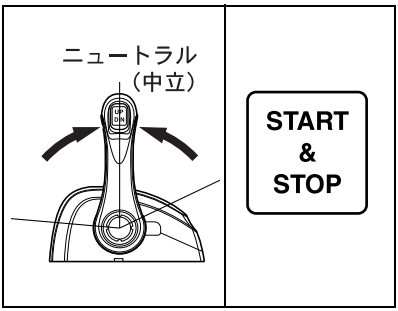


キーレススタートシステム装着の場合



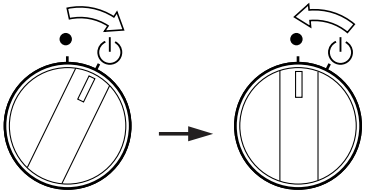
キーレススタートシステム非装着の場合

1. リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置にしてください。
2. 2～3分間、アイドリング（無負荷最低速回転）でエンジンを運転してください。
3. スイッチパネルの“START & STOP”スイッチを押して下さい。
   エンジンが停止したことを確認してください。

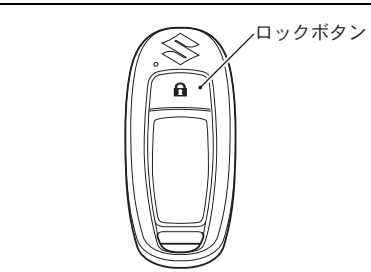


4. **キーレススタートシステム装着の場合**
下記のいずれかの方法でキーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態にします。

・メインスイッチノブで行う場合
- 通信モードの携帯リモコンが、キーレスユニットと通信範囲内にあることを確認してください。
- メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。
- ブザーが短音で 1 回鳴り、キーレススタートシステムが OFF（LOCK）状態になったことを知らせます。


メインスイッチノブ
キーレススタートシステム装着の場合

・携帯リモコンで行う場合
- 通信モードの携帯リモコンが、キーレスユニットと通信範囲内にあることを確認してください。
- 携帯リモコンのロックボタンを押します。
- ブザーが短音で 1 回鳴り、キーレススタートシステムが OFF（LOCK）状態になったことを知らせます。

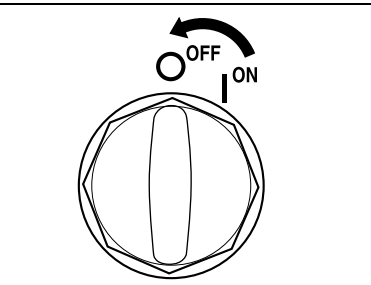


携帯リモコン
キーレススタートシステム装着の場合

キーレススタートシステム非装着の場合

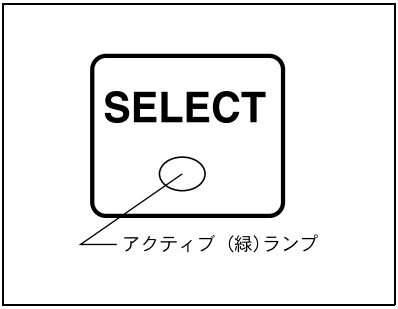
エンジンキーを“OFF”の位置に回します。

エンジンキーをスイッチから抜きます。



キーレススタートシステム非装着の場合

5. **キーレススタートシステム装着の場合**
   キーレススタートシステムがOFF(LOCK)状態になると、スイッチパネルの“SELECT” スイッチのアクティブ（緑）ランプが消灯します。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンキーを“OFF”の位置に回すと、スイッチパネルの“SELECT”スイッチのアクティブ（緑）ランプが消灯します。



アドバイス

船外機を使用しない場合は、エンジンキーまたは、メインスイッチノブをスイッチから抜いておいてください。

6. 燃料タンクに開閉コックがある場合は、コックを「閉」にしてください。

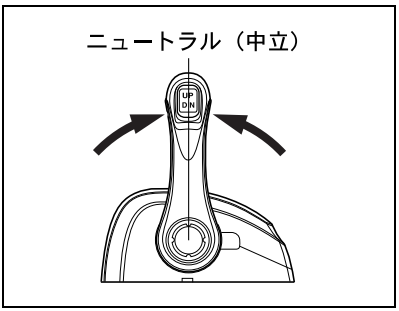
操船席の切替え

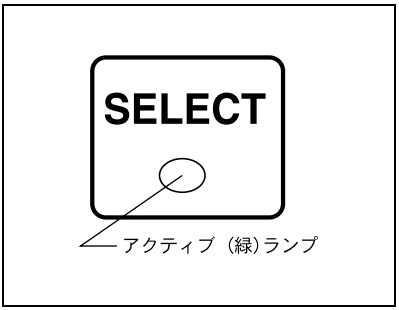
アドバイス

ボートの操船席を安全に切替るために:
- **クラッチが入っている時に操船席を離れないでください。**
- **操船席切替えは、両方の操船席のリモコンレバーがニュートラル（中立）の時に行ってください。**
- **操船席切替えは、停船してから行ってください。**

操船席の切替えは、次の手順で行ってください。

1. 現在使われている有効操船席のリモコンレバーをニュートラル位置にしてください。
2. 続けて現在使われていない操船席のリモコンレバーがニュートラル位置であることを確認します。
3. 現在使われていない操船席のスイッチパネルの“SELECT”スイッチを押してください。
   有効操船席になり、リモコンレバーでエンジンコントロールが出来ることを示す SELECT スイッチにあるアクティブ（緑）ランプが点灯します。
4. 元の操船席の“SELECT”スイッチにあるアクティブ（緑）ランプは消灯し、この席は有効操船席でなくなります。

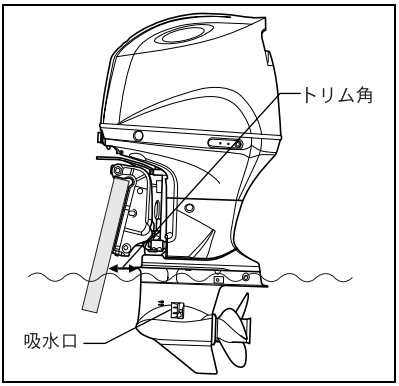




アドバイス

・操船席切替え時は、「SELECT」スイッチをブザーが短く１回鳴るまで押し続けてください。
・第２操船席から第１操船席に切り替えることができなくなった場合は、
【キーレススタートシステム装着の場合】
一旦メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムをOFF（LOCK）状態にしてから約20秒後に再び、メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムをON状態にしてください。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
一旦エンジンスイッチを「 OFF 」にしてから約20秒後にエンジンスイッチを「ON」にしてください。
・操船席の切り替えに問題が発生した場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。

浅瀬航走



浅瀬を航走する場合は、PTT スイッチを操作し、通常の航走時よりトリム角を少し大きくしてください。
航走時には、冷却水の吸水口が水面下にあるか、検水口から排水があるか確かめながら、水深、障害物に気を付け、低速で航走してください。
万一、障害物に接触した場合は、船外機、ボートに損傷箇所がないか点検してください。
充分な水深のある場所に戻ったら、通常のトリム角に戻してください。

注　記

・浅瀬を航走しているときは、最低速度で、障害物に気を付けながら航走してください。
万一、障害物に接触した場合は、船外機、ボートに損傷箇所がないかを点検してください。
・浅瀬を航走しているときは、冷却水の吸水口が水面下にあり、検水口から冷却水が排出されていることを確認しながら航走してください。
検水口から排水がないとエンジンがオーバーヒートします。

アドバイス

浅瀬航走中にエンジン回転を上げ過ぎるとトリムが下がることがあります。

チルトアップ／ダウン

⚠ 警　告

ドライブユニットとクランプブラケットの間に挟まれるとけがをします。PTT スイッチを操作してトリム／チルトを上げたり下げたりするときは、船外機の付近に人がいないことを確認した後に行ってください。

注　記

エンジンが運転されている状態でチルトアップ／ダウンの操作をすると、エンジンがオーバーヒートし、損傷を招きます。
チルトアップ／ダウンの操作は、エンジンを停止した後に行ってください。

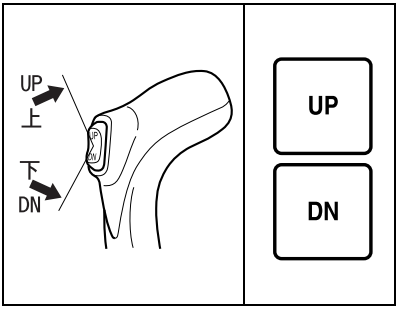
■チルトアップ

船外機のチルトアップを行うときは、次の手順で行ってください。

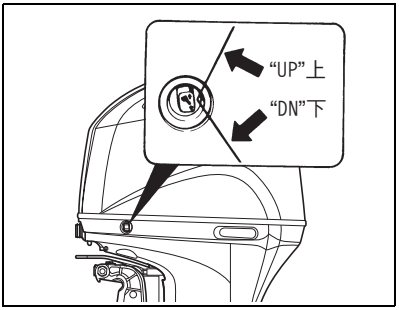
1. エンジンを停止してください。
2. **キーレススタートシステム装着の場合**
   キーレススタートシステムが ON 状態になっていることを確認してください。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンキーが ON の位置になっていることを確認してください。

アドバイス

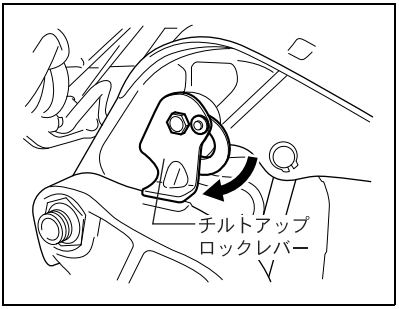
リモコンレバーとスイッチパネルにある PTT スイッチでチルトアップ／ダウンの操作をするときは、
【キーレススタートシステム装着の場合】
メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを ON 状態にしてください。
キーレススタートシステムが OFF (LOCK) 状態では、PTT スイッチを操作してもチルトアップ／ダウンができません。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンスイッチをONの位置にしてください。
エンジンスイッチが OFF の位置では、PTT スイッチを操作してもチルトアップ／ダウンができません。



3. PTT スイッチの“UP”側を船外機が最大チルトアップ角になるまで押し続けてください。



4. チルトアップロックレバーをクランプブラケット側へ引き下げてください。

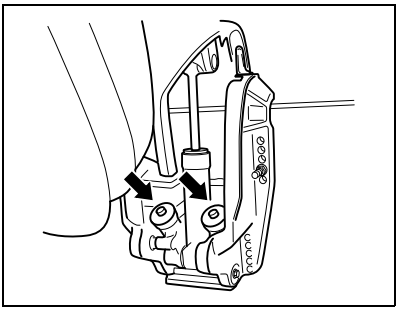


アドバイス

チルトリミット調整レバー（46 ページ参照）の調整位置により、チルトアップ角が小さい時は、チルトアップロックレバーが使用できない場合があります。

5. PTT スイッチの“DN”側を押し、チルトアップロックレバーがクランプブラケットに当たるまでチルトを下げてください。

6. 手順５に引き続き、PTT スイッチの“DN”側をトリムロッドがシリンダー内へいっぱいに縮むまで押してください。



アドバイス

係留をする時は、トリムロッドをトリムシリンダー内にいっぱいまで縮めてください。
このことは、トリムロッドの劣化を防ぐ手助けをします。

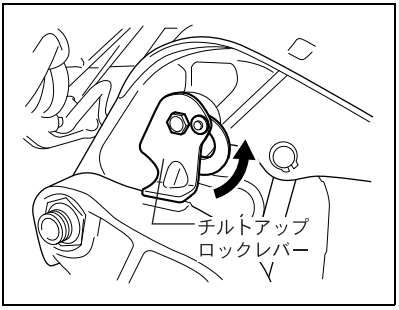
⚠ 警　告

船外機を長時間にわたりチルトアップしておく場合は、燃料漏れを防止するために、燃料タンクに開閉コックがある時は、コックを「閉」にしてください。

7. 燃料タンクに開閉コックがある場合は、コックを「閉」にしてください。

■チルトダウン

船外機のチルトを通常の航走位置まで下げるときは、次の手順で行ってください。



1. PTT スイッチの“UP”側を船外機が最大チルトアップ角になるまで押し続けてください。
2. チルトアップロックレバーをクランプブラケットと反対側の方向へ押し上げてください。
3. PTT スイッチの“DN”側を要求するトリム／チルト角となるまで押してください。

係　留

エンジンを停止し、長時間使用しない場合、浅瀬に船を係留しておく場合等は、岩や海底に船外機の下部を打って、損傷することを防止するために、船外機をチルトアップさせてください。

チルトアップの方法は、この章の「チルトアップ／ダウン」の項（114 ページ）を参照してください。

寒冷地での使用

寒冷地で使用する場合は、ギヤケースを常に水中に入れておいてください。陸上に上げた場合は、チルトを通常の航走位置まで下げ、まっすぐに立てた状態で、冷却水が船外機から抜けるような状態にしておいてください。

注　記
寒冷地では、エンジンの冷却水経路内に水が残っていると水が凍り、膨張し、エンジンが損傷するおそれがあります。 **・寒冷地で使用する場合は、ギヤケースを常に水中に入れておいてください。** **・陸上に上げた場合は、チルトを通常の航走位置まで下げ、まっすぐに立てた状態で、冷却水が船外機から抜けるような状態にしておいてください。**

13 調　整

プロペラ

■ロワーユニット回転の識別とプロペラタイプの選択

⚠ 警　告

右回転プロペラをカウンターローテーションロワーユニットに、または左回転プロペラをレギュラーローテーションロワーユニットに取り付けると、ボートは予想した方向と逆の方向に進み、このことは事故につながるおそれがあります。
右回転プロペラをカウンターローテーションロワーユニットに、または左回転プロペラをレギュラーローテーションロワーユニットに取り付けてはいけません。

この製品のロワーユニットは、レギュラーローテーションロワーユニット、カウンターローテーションロワーユニットの選択がロワーユニット自体を交換することなくできます。

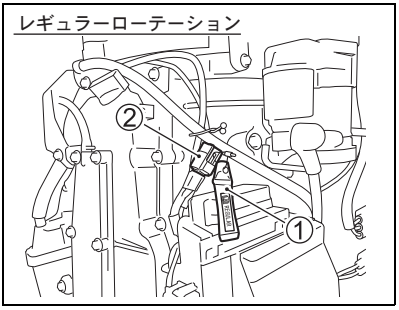
前進時、後方から見て、レギュラーローテーションロワーユニットは、プロペラシャフトが右に回り、カウンターローテーションロワーユニットはプロペラシャフトが左に回ります。

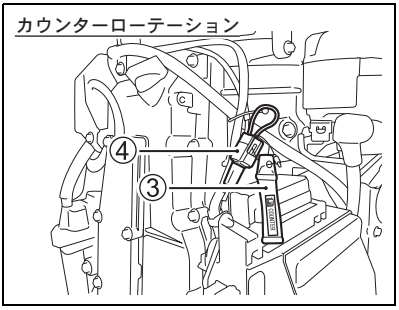
プロペラを取り付ける時、ロワーユニットのタイプを識別し、プロペラタイプとロワーユニットのタイプを一致させなければなりません。

レギュラーローテーションロワーユニットには、右回転プロペラ、カウンターローテーションロワーユニットには左回転プロペラを必ず取り付けてください。

ロワーユニットタイプの識別

1. エンジンカバーを取り外します。
2. ヒューズボックス付近にあるローテーションセレクトコネクターを確認します。
   レギュラーローテーションロワーユニットとカウンターローテーションロワーユニットでは、ローテーションセレクトコネクターが異なります。
   - **レギュラーローテーションロワーユニットの場合：**
     “REGULAR”と付記されたラベル ① が取り付けられている青色コネクター ② が接続されています。
   - **カウンターローテーションロワーユニットの場合：**
     “COUNTER”と付記されたラベル ③ が取り付けられている白色コネクター④が接続されています。

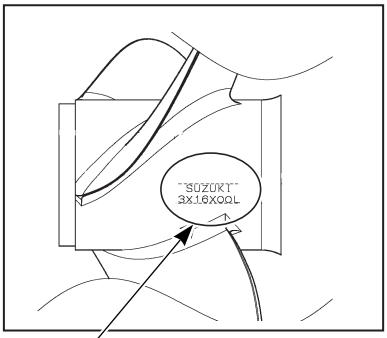




3. ロワーユニットタイプに適合するプロペラタイプを選択して取り付けます。

アドバイス

- **右回転タイプのプロペラには、プロペラサイズ表示の最後に“R”が付記されています。**
- **左回転タイプのプロペラには、プロペラサイズ表示の最後に“L”が付記されています。**



右回転プロペラ：

3 × 16 ×　○○　× R

左回転プロペラ：

3 × 16 ×　○○　× L

■プロペラの選択

注　記
ボート、使用状態に合ったプロペラが船外機に取り付けられていないと、エンジン回転数が指定の全開使用回転範囲より高くなったり、低くなったりします。 このことは、エンジンに悪影響を与え、重大な損傷を招く要因となります。 プロペラは、ボートに合うように選定し、全速力で航走した時のエンジン回転が指定の全開使用回転範囲内になるようにしてください。

・船外機の持ち前の性能を完全に引き出すためには、プロペラの選択が非常に重要です。
・スロットルを全開にして全速で航走したとき、エンジン回転数が下記に示す「全開使用回転範囲」にあればボートに合ったプロペラが取付けられています。
・エンジン回転数は、船外機を取り付けたボートの種類とプロペラのサイズ、ボートの使用状態により異なります。
・エンジン回転が下記の範囲にないときは、異なったピッチのプロペラを選択し、取り付けてください。

全開使用 回転範囲	DF200AP	5500 － 6100 r/min

アドバイス

プロペラの選択は、スズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。

トローリングスピード

アドバイス

トローリングスピードとは、安定して運転可能な最低速の航行スピードのことです。

トローリングスピード	600 － 700 r/min

■調　整

アドバイス

トローリングスピードの調整が必要なときは、スズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。

トリムタブ

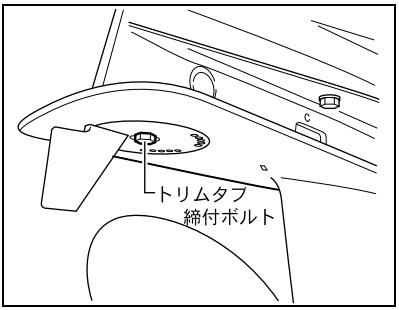
トリムタブの調整は、ボートのステアリングの左右の操作力のバランスを補正するために行います。

■調　整

⚠ 警　告

不適切なトリムタブの調整は、航走時のボートの安定性を損ない、操船に支障が生じます。
トリムタブは、適切な位置に調整してください。

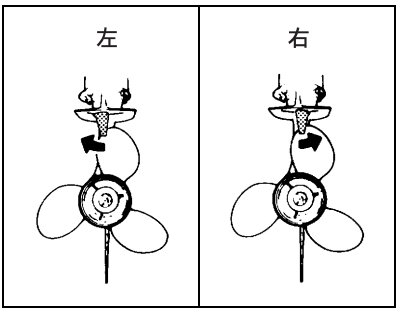
ステアリングが右または左にとられる場合、これを補正するために、トリムタブを次の要領で調整してください。



1. トリムタブ締付ボルトを緩めてください。
2. 次のようにトリムタブの向きを変えてください。

   ステアリングが：
   ・右にとられる時…… トリムタブを右方向に回します。

   ・左にとられる時…… トリムタブを左方向に回します。



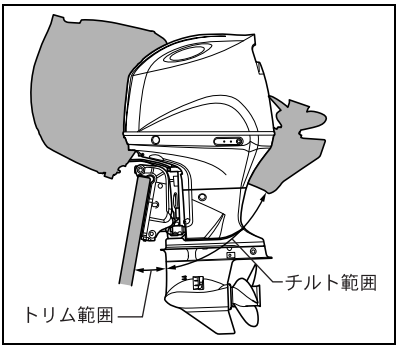
注　記

トリムタブの調整をした後は、ボルトでトリムタブを確実に締め付け、固定してください。

3. トリムタブ締付ボルトを確実に締め付けてください。
4. 何回かテスト走行し、手順１－３を繰り返し、トリムタブを一番良い位置にしてください。

トリム角の調整

・ステアリングの安定性とボート・船外機の性能を完全に引き出すために、ボートの航走姿勢を最良の状態にしなければなりません。
・ボートの航走姿勢は、船外機のトリム角、航走時の諸条件（海況、積み荷の量、航走スピード等）により影響をうけます。
・ボートの航走姿勢を最良にするために、船外機のトリム角を PTT スイッチを操作して調整する必要があります。



⚠ 警　告

・不適切なトリム角は、航走時にボートが安定性を失ったり、ステアリングの操作に支障が生じ、事故につながるおそれがあります。
トリム角は、ボートの航走姿勢が最良の状態になるように調整してください。
・PTT スイッチの操作をまちがえたり、船外機のトリムを一度に大きく変えたりすると転覆等の事故を招くおそれがあります。
PTT スイッチは、正しく操作し、スイッチの操作時間は、できるだけ短時間とし、何回かに分けて少しずつトリム角を変えるようにしてください。

⚠ 警　告

チルト角の範囲で航走するとボートの姿勢が不安定になったり、操船に支障をきたし、事故を招くおそれがあります。
また、エンジンがオーバーヒートする原因になります。
チルト角の範囲での航走は、避けてください。

■調　整

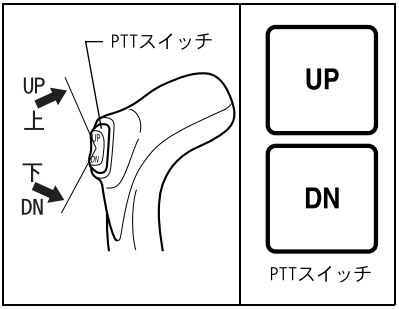
トリム角の調整は、PTT スイッチを操作して、次の要領で行ってください。

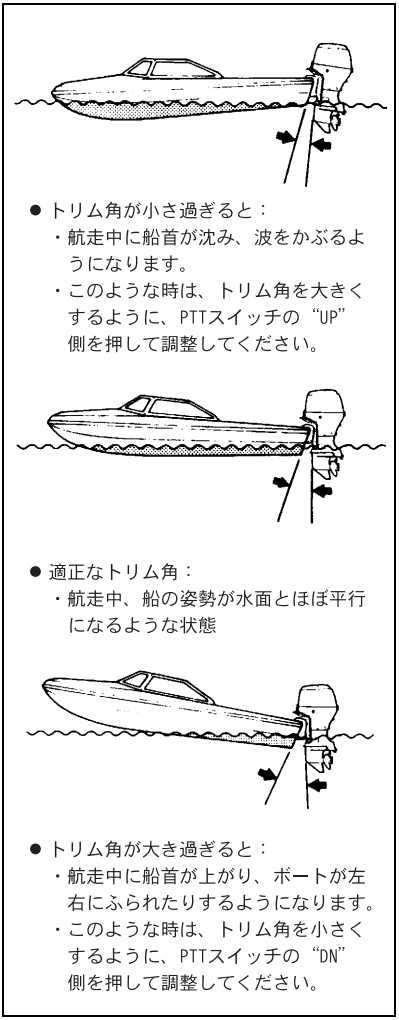
・ボートのバウ（船首）を上げるためには；
PTT スイッチの“UP”側を押してください。

・ボートのバウ（船首）を下げるためには；
PTT スイッチの“DN”側を押してください。

⚠ 警　告

不適切なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながるおそれがあります。
トリム角の調整は、ボートの航走状態に気を付けながら行ってください。
ボートの航走姿勢や安定性、ステアリングの操作に異状を感じたときは、すみやかにスピードを落としてください。





● トリム角が小さ過ぎると：
・航走中に船首が沈み、波をかぶるようになります。
・このような時は、トリム角を大きくするように、PTTスイッチの“UP”側を押して調整してください。

● 適正なトリム角：
・航走中、船の姿勢が水面とほぼ平行になるような状態

● トリム角が大き過ぎると：
・航走中に船首が上がり、ボートが左右にふられたりするようになります。
・このような時は、トリム角を小さくするように、PTTスイッチの“DN”側を押して調整してください。

トロールモードの操作
（オプショナルアイテム）

別売品のトロールモードスイッチと適切なBCM を取付けることにより、トローリングスピードをスイッチ操作でコントロールすることができます。
トロールモードシステムの詳細は、スズキ販売店にお問い合わせください。

■システムについて：

トロールモードシステムは、トローリングスピード（最低速度）で航走中にトロールモードスイッチを操作すると作動します。このシステムを使用すると、トロールモードスイッチの操作でトローリングスピードを、約 650rpm から 1200rpm の範囲で希望する回転数にセットし、その回転数を保持させることができます。

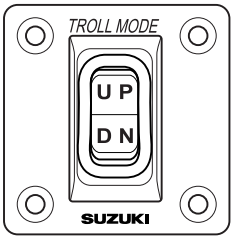
アドバイス

多機掛けエンジンの場合：
全てのエンジンのトローリングスピードは、１つのスイッチ操作で同時にコントロールされます。

■トロールモードの使い方

トロールモードにセットするために

1. クラッチを前進、又は後進にシフトし、スロットルが全閉になっていることを確認します。
2. トロールモードスイッチの“UP”、又は“DN”をブザーが 1 回鳴るまで押し続けます。ブザーが鳴り、トロールモードに移行したことを知らせます。



トロールモードスイッチ

アドバイス

・このシステムは、エンジンが十分に暖まらないと機能しません。
・リモートコントロールレバーがニュートラルの時にスイッチ操作をしても、トロールモードには移行しません。
・多機掛けエンジンの場合：
全てのエンジンのスロットルが全閉であれば、一機だけクラッチが入っている時にトロールモードスイッチを押すとトロールモードに移行します。

トローリングスピード調整：

・スイッチの“UP”を押すと、ブザーが一回短く鳴り、エンジンスピードが 50 回転上昇します。
・スイッチの“DN”を押すと、ブザーが一回短く鳴り、エンジンスピードが 50 回転下がります。

アドバイス

・全てのエンジンのトローリングスピードが調整範囲の下限時に、スイッチの“DN”を押すと、エンジンスピードに変化はなく、ブザーが 3 回長く鳴ります。
・全てのエンジンのトローリングスピードが調整範囲の上限時に、スイッチの“UP”を押すと、エンジンスピードに変化はなく、ブザーが 3 回長く鳴ります。
・多機掛けエンジンの場合：
トローリングスピードの調整限度に達しているエンジンがあり、他のエンジンが達していない時にスイッチ操作をすると短音が 1 回鳴り、調整限度に達していないエンジンの回転が変化します。
・トロールモード中であってもリモートコントロールレバーでシフト操作とスロットルコントロールを行うことができます。

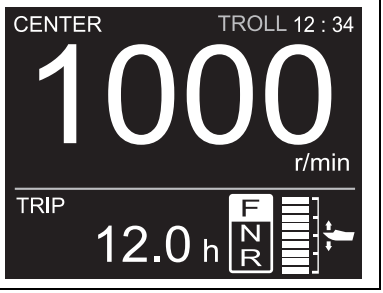
トロールモード中の画面表示

・トロールモードに移行するとトロールモード専用の画面に切替わり、画面に「TROLL」が表示されます。
・回転数表示または、全表示の場合は、自動的にデジタル表示に切替わります。

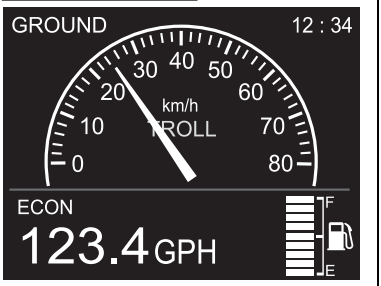
アドバイス

スピード／燃料表示または、燃料表示で航行中にトロールモードに移行する場合は、エンジン回転数を正しくモニターするために、[SET] ボタンを押して表示（回転数表示または、全表示）を切替えることを推奨します。
ゲージ画面の表示の選択
「5 各部の取扱い」の章、“マルチファンクションゲージ”、表示選択の項目（50 ページ）を参照してください。

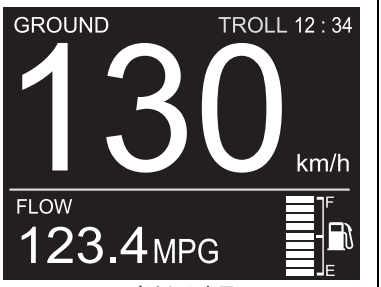
回転数表示



スピード/燃料表示

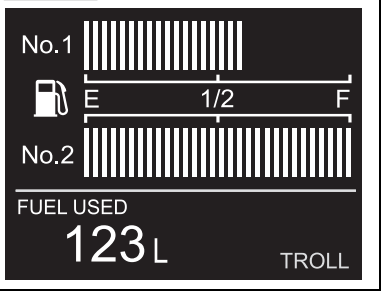


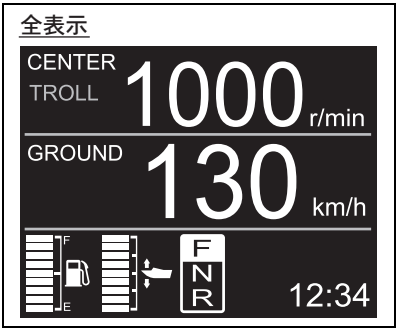
アナログ表示



デジタル表示

燃料表示





トロールモードをキャンセルするために：

・リモートコントロールレバーをニュートラルにします。

・または、エンジン回転を 3000rpm 以上にします。

いずれの場合もトロールモードがキャンセルされる時は、ブザーが 2 回短く鳴ります。

14 取外しと運搬

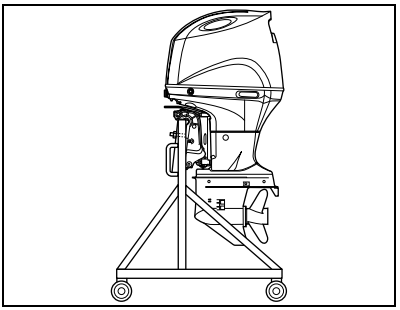
取外し

船外機を艇体から取り外す場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。

運　搬

注　記
・船外機を運搬や保管する場合、プロペラ部をエンジン部より高くすると、船外機の内部に水が残っていると、その水がエンジン内部に流れ込み、エンジンが損傷するおそれがあります。 **船外機を運搬や保管する場合、プロペラ部をエンジン部よりも高くしないでください。** **・船外機を横置きにする場合は、船外機に溜まっている冷却水を完全に排出してください。** **冷却水が残っていると、それがシリンダーに流入し、エンジンが損傷するおそれがあります。**

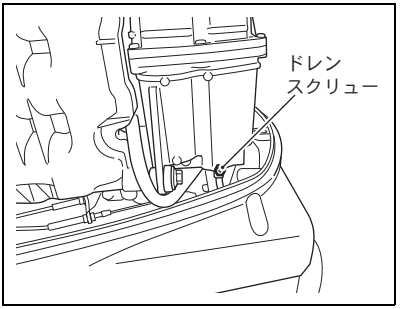
船外機を運搬するには、次の方法があります。



■船外機を立てた状態で船外機運搬用台車に固定し、運搬する場合

⚠ 警 告

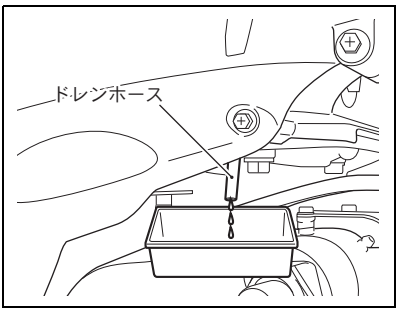
・船外機の転倒などによる思いがけない事故を防ぐため、船外機をボルトとナットでしっかりと運搬用台車に固定してください。
・運搬用台車の代わりに展示用スタンドを使用して船外機を運搬することは危険ですので絶対におやめください。



■船外機を横置きにして運搬する方法

船外機を横置きにして運搬する場合は、その前に次の処置をしてください。

・エンジンオイルを抜き取ってください。
・ベーパーセパレーターから燃料を抜き取ってください。燃料を抜き取るときは、

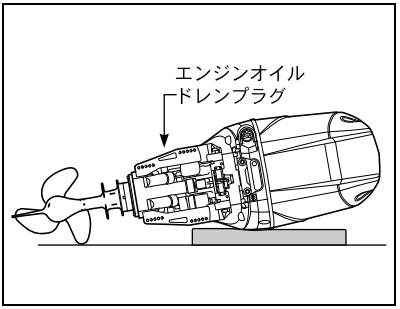


①エンジンカバーを取り外します。
②ベーパーセパレーターにあるドレンスクリューを緩め、燃料を容器の中へ排出します。

燃料を抜き取り後は、ドレンスクリューをしっかりと締付けてください。

アドバイス

横置きにする場合は、
・右図のようにエンジンオイルドレンプラグ側を上にしてください。
・船外機の下にクッション材（毛布、発泡スチロール等）を敷くなどして損傷しないようにして床面に置いてください。

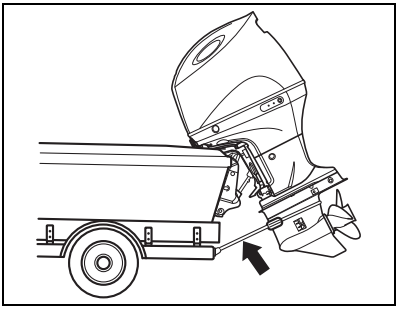


⚠ 警　告

こぼれたガソリンや気化したガソリンは、引火爆発、火災につながるおそれがあります。
常に次のことを守ってください。
・船外機をボートから取り外すとき、運搬・保管する場合は、その前に燃料配管及びベーパーセパレーターから燃料を抜き取ってください。
・船外機に火気を近づけないでください。
・こぼれたガソリンは、すぐにふき取ってください。

トレーラーリング

船外機をボートに取り付けた状態で運搬する場合は、地面と船外機の下部が接触しないように気を付けてください。
通常の航走位置の状態で地面との間に充分な間隔が得られないときは、船外機のチルトを上げ、図のように適切な器具を用いて船外機の重量を保持してください。



注　記

船外機／ボートをトレーラーリングするとき、船外機を最大チルトアップ位置にし、その位置の保持にチルトアップロックレバーを使用しないでください。
牽引中、悪い路面等を走行した場合に発生する振動、衝撃などによりチルトアップロックレバーのロックが外れ、船外機のチルトが下がるおそれがあります。

15 定期点検

・船外機を最良の状態に保ち、安全に使用するために、下表のスケジュールに従って定期的に点検を行ってください。
・点検の結果、船外機に不具合や異状がみられたときは、使用せずにスズキ特約店またはスズキ販売店に点検・整備を依頼してください。

⚠ 警 告

整備作業について、あまり技術的な知識または経験がない場合は、この船外機の点検・整備の作業を行わないでください。
船外機の損傷等により負傷をするおそれがあります。
安全のため、ご自身の知識・技量の範囲で行ってください。
難しいことや自信のないことは、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店におまかせください。

定期点検スケジュール

期間 / 点検項目	最初の20時間又は1ケ月後	100時間毎又は6ケ月毎	200時間毎又は1年毎	オフシーズン(長期格納時)	記載ページ
エンジンオイル	R	R	－	R	138
＊エンジンオイルフィルター	R	－	R	－	144
ギヤオイル	R	R	－	R	150
給油／給脂	I	I	－	I	155
スパークプラグ	－	I	－	I	135
＊タペットクリアランス	－	－	I	－	－
燃料系統／ブリーザーホース	I	I	－	I	145
燃料フィルター（低圧側）	I	I	－	I	146
＊ワイヤリングハーネス／コネクター	I	I	－	I	－
＊リモートコントロール	I	I	－	I	－
＊パワートリム&チルト	I	I	－	I	－
プロペラ／プロペラナット	I & T	I & T	－	I & T	156
アノード（外部取付け）	I	I	－	I	152
＊アノード（シリンダーブロック／ヘッド内部取付け）	－	I	－	－	－
＊ウォーターポンプ／ポンプインペラ	－	－	I/R	I	－
＊ボルト&ナット	T	T	－	T	154

期間 / 点検項目	最初の20時間又は1ケ月後	100時間毎又は6ケ月毎	200時間毎又は1年毎	オフシーズン（長期格納時）	記載ページ
バッテリー	I	I	－	I	153
＊高圧燃料フィルター	R（1000時間毎に交換）				－
＊アイドリング回転	I	－	I	I	－
＊バランサーチェーン	R（1600時間毎に交換）				144
＊サーモスタット	－	－	I	I	－

I：点検、清掃、調整、給油、不具合部品は交換してください。T：締付、R：交換

⚠ 警 告

・前記表中の（＊）印付きの点検項目については、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店に点検・整備を依頼してください。
・前記表中の（＊）印のない点検項目については「16 簡単な点検・整備」の章、記載ページを参照して点検を実施してください。
不明な点については、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店にお問い合わせください。

アドバイス

・部品交換が必要なときは、必ずスズキ純正部品、またはスズキが推奨する部品を使用してください。
・点検は、時間または月数の早く到達した方のどちらかで行ってください。
・前記表中の点検期間は、一般的な使用状況の船外機について定めたものです。
業務用等により使用状況が過酷な場合は、点検期間を短縮して頻繁に点検をしてください。

16 簡単な点検・整備

この章は、ご自身でも実施できる簡単な点検・整備の方法を説明しています。

⚠ 警　告

点検・整備をするときは、安全に十分注意し、事故を未然に防止するために、次のことを厳守してください。
・点検・整備は、エンジンを停止して行ってください。（エンジンを運転して点検作業をすることが本書に指示してある場合を除く。）
・点検・整備を行うときは、火気厳禁です。
・点検･整備は､安全のため､ご自身の知識･技量の範囲で行ってください。難しいことは､お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店におまかせください。

スパークプラグ

スパークプラグは、カーボンが電極に付着したり、電極が使用に伴って徐々に消耗したりします。
スパークプラグの状態が悪いと、エンジン不調の原因になります。
定期的に点検・調整をしてください。

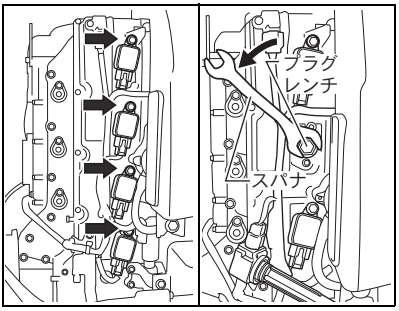
標準スパークプラグ	NGK LKR6E

■取外し

⚠ 注　意

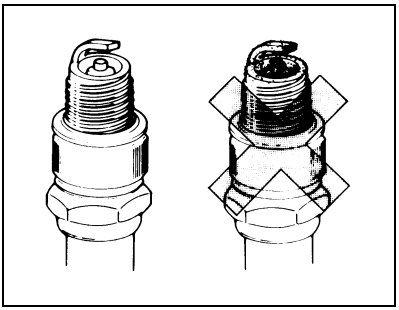
エンジン停止直後は、スパークプラグ本体の温度が高く、火傷をするおそれがあります。
スパークプラグが充分に冷えてから取り外してください。

1. エンジンを停止させてください。
2. **キーレススタートシステム装着の場合**
   キーレススタートシステムが OFF (LOCK) 状態になっていることを確認してください。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンキーが“OFF”になっていることを確認してください。
3. イグニッションコイルを締付けているボルトを取り外し、イグニッションコイルを取り外してください。
4. プラグレンチとスパナを使用し、スパークプラグを左に回して緩め、取り外してください。

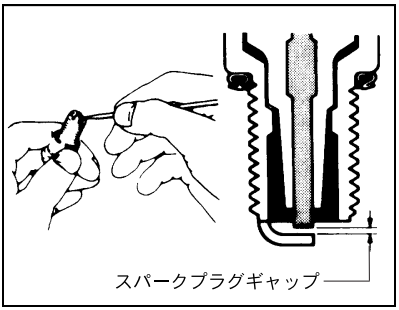


■点　検

- 中心電極が汚損したりカーボンが付着していたら、きれいに洗浄してください。
- 電極が過度にカーボン等で汚損していたり、消耗している場合は、新品と交換してください。
- スパークプラグギャップを点検し、次の値に調整してください。



スパークプラグギャップ；
0.8 － 0.9 mm



■取付け

スパークプラグの取付けは、取外しの逆の手順で行ってください。

アドバイス

スパークプラグをシリンダーヘッドに取り付けるときは、いきなりレンチで締め付けないでください。
最初に手で軽く一杯まで締め込んだ後、プラグレンチで増し締めし、確実に締め付けてください。

・取り外した部品が元の位置に元通りに取り付けてあることを確認してください。

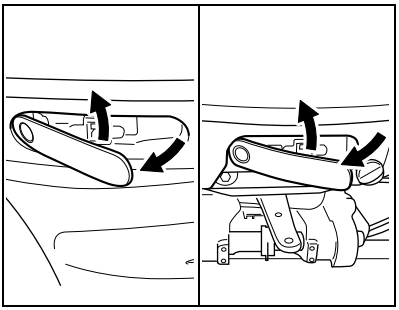
エンジンオイル

■オイル量、汚れの点検

・エンジンオイルの量が、オイルレベルゲージに示された範囲内にあるかを点検してください。
・またゲージに付着したオイルを布などに付着させて、汚れ具合も点検してください。

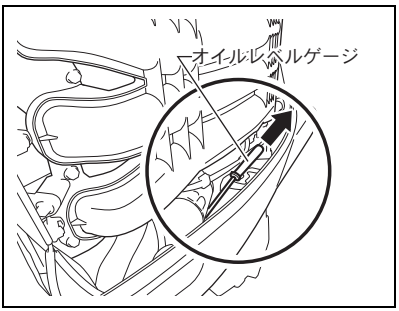
アドバイス

点検は船外機をまっすぐに立てた状態で、エンジン停止後２－３分以上たってから行ってください。



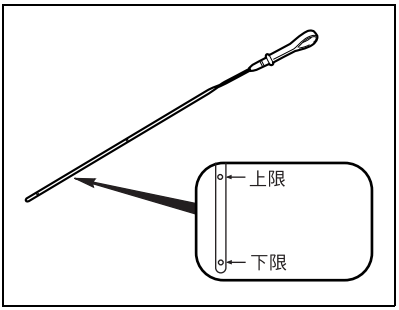
1. 船外機をまっすぐに立てた状態にしてください。
   エンジンカバーを取り外してください。

2. オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを拭き取ってください。



3. 再びもとの穴へいっぱいに差し込み、もう一度静かに抜いてゲージに付いたオイルを調べてください。

4. 下限に近いときは、推奨エンジンオイルをゲージの上限になるまで補給してください。



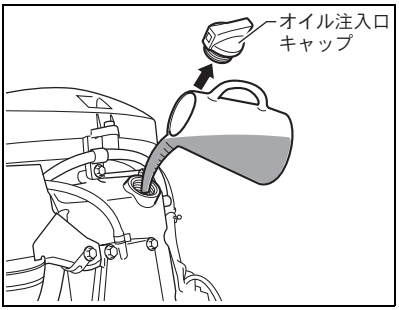
■エンジンオイルの補給

⚠ 警　告

エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載してある注意文をよく読んでください。

注　記

・銘柄やグレードの異なるエンジンオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないでください。
オイルの変質を招き、その結果エンジンが故障する原因になります。
・エンジンオイルを補給するときは、オイルの注入口からゴミや水などが入らないように気を付けてください。



1. 注入口のキャップを取り外し、推奨エンジンオイルをオイルレベルゲージでオイル量を確かめながら上限まで補給してください。
2. 注入口キャップを確実に取り付けてください。
3. エンジンを２－３分間アイドリング運転した後、エンジンを停止し、再度オイルレベルゲージでオイル量を確認してください。

アドバイス

・オイルは規定量より多くても少なくてもエンジン不調の原因になります。
・オイルをこぼしたときは、完全に拭き取ってください。

■エンジンオイル交換

エンジンオイル交換時期：
・初回、新機を使用しはじめたときから 20 時間後
・以後、100 時間、または６ヶ月ごと

⚠ 注　意

エンジン停止直後は、エンジン本体、オイルが熱くなっており、火傷を負うおそれがあります。
エンジンオイル交換は、エンジンが充分に冷えてから行ってください。

⚠ 警　告

エンジンオイル交換をするときは、船外機の転倒などにより思いがけない事故を防ぐため、船外機をボートのトランサムまたは船外機スタンドにしっかりと固定してください。

アドバイス

エンジンオイルを交換する前に、「オイルチェンジリマインダーシステム」の運転時間を 0（ゼロ）にリセットしてください。
（83 ページを参照してください。）

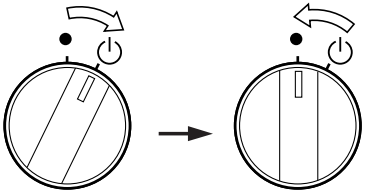
運転時間を 0（ゼロ）にリセットする為に：

(1)【キーレススタートシステム装着の場合】
メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを ON 状態にしてください。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンキーを“ON”にしてください。

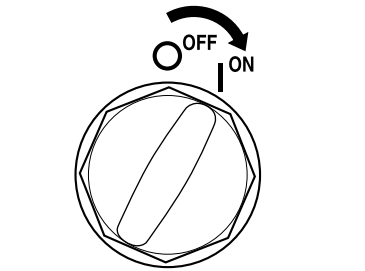
(2) ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチから取り外します。

(3)“START & STOP”スイッチを 10 秒以内に３回押します。

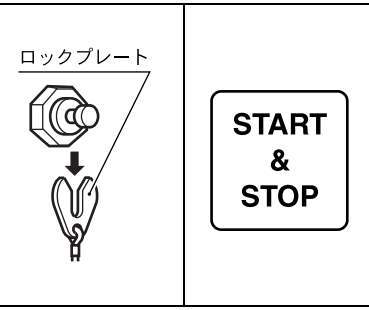
(4)【キーレススタートシステム装着の場合】
メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態にしてください。
【キーレススタートシステム非装着の場合】
エンジンキーを“OFF”にしてください。



キーレススタートシステム装着の場合

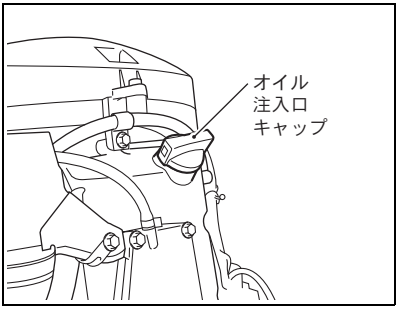


キーレススタートシステム非装着の場合



エンジンオイルの交換は、次の要領で行ってください。

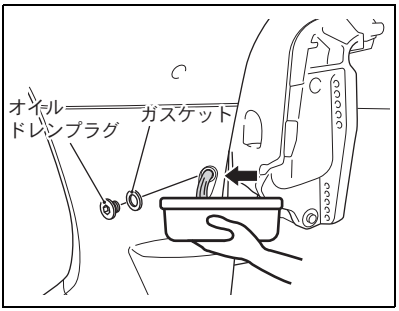
1. 船外機をまっすぐに立てた状態にしてください。
2. エンジンカバーを取り外してください。
3. オイル注入口キャップを取り外してください。
4. 排油受皿をオイルドレンプラグの下に置いてください。
5. オイルドレンプラグを緩め、オイルドレンプラグとガスケットを取り外し、オイルを抜いてください。



アドバイス

排出したオイルは、みだりにすてないでください。
法律や条例などに従い、定められた方法で処理をしてください。

6. 完全に排出し終わったら、新しいガスケットを取り付け、オイルドレンプラグを確実に締め付けてください。



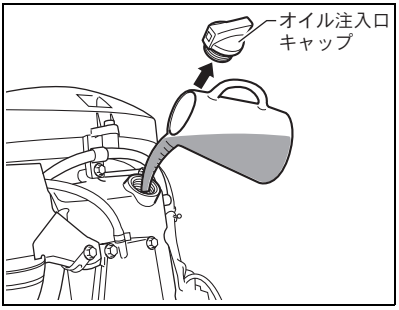
注　記

取り外したガスケットを再使用するとエンジンオイルが漏れることがあります。
ガスケットは、必ず新しいものを使用してください。

7. 推奨エンジンオイルを、オイルレベルゲージでオイル量を確かめながら上限まで給油してください。

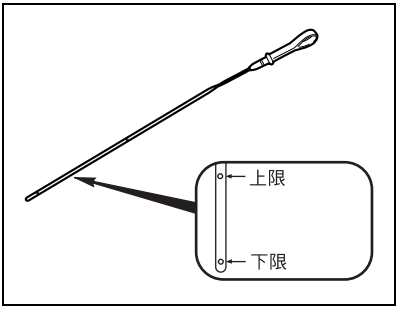
   オイル量： 8.0dm³(8.0 L)
   （上限レベル迄）

   推奨エンジンオイル
   「3 燃料とオイル」の章、エンジンオイルの項（10 ページ）を参照してください。



8. オイル注入口キャップを確実に取り付けてください。

9. エンジンを始動し、エンジンオイル系統に異状がないことをオイル警告ランプで確認してください。
   また、オイル漏れをしている箇所がないかを点検してください。



10. エンジンを２－３分間アイドリング運転した後、エンジンを停止し、再度オイルレベルゲージでオイル量を確認してください。

エンジンオイルフィルター

・エンジンオイルフィルターの交換を、次に示す使用時間に到達したとき、スズキ取扱店へ依頼してください。

エンジンオイルフィルター交換時期:
・初回、新機を使用しはじめたときから 20 時間後
・以後、200 時間、または 1 年ごと

バランサーチェーン

バランサーチェーンの交換を、次に示す使用時間に到達したとき、スズキ取扱店へ依頼してください。

バランサーチェーン交換時期:
1600 時間毎に定期的に交換

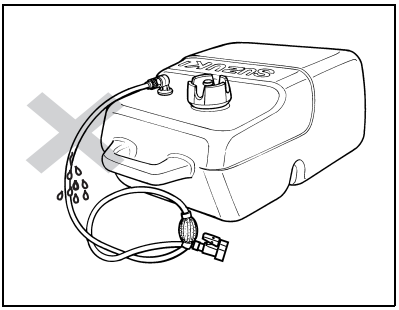
燃料系統／ブリーザーホース

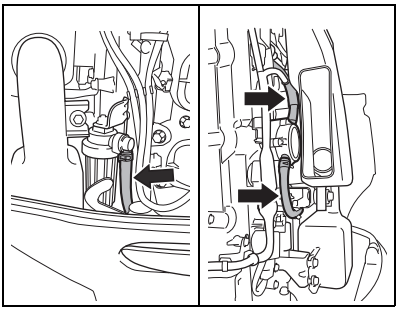
⚠ 警　告

気化したガソリンは、引火爆発のおそれがあります。
ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。

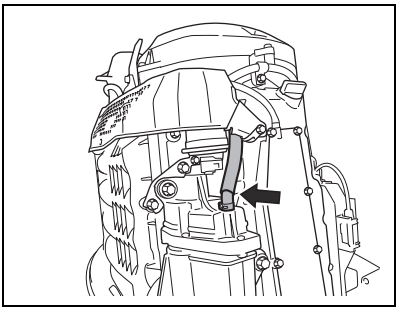
⚠ 警　告

燃料漏れは、火災、爆発のおそれがあり、その結果、重大な人身事故になる可能性があります。
燃料系統に漏れ、損傷等の不備があるときは、燃料系統の整備をスズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。





燃料タンク／燃料ホース等の燃料系統、ブリーザーホースにおいて、次の点検をしてください。
不具合がある場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に整備を依頼してください。

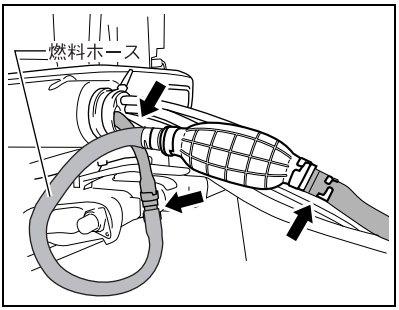


■燃料系統

・燃料タンク、燃料ホース等の燃料系統の構成部品に損傷、劣化、燃料漏れ等の不備がないことを確認してください。

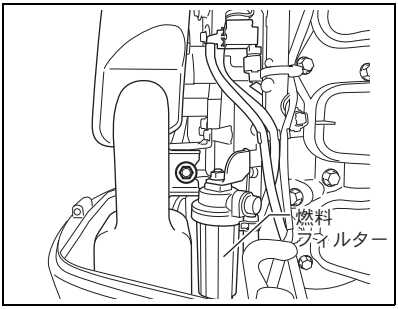
・燃料ホースの接続部がホースバンド（クリップ）で確実に締め付けられていることを確認してください。

・燃料系統の接続部から燃料漏れを生じている箇所がないことを確認してください。



■低圧燃料フィルター

燃料フィルターに水、ゴミの混入、エレメントに詰まりがないかを点検してください。
ゴミ等の異物の混入、詰まりがある場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に燃料フィルターの清掃、または交換を依頼してください。



アドバイス

燃料フィルターは、2年（400時間）毎に定期的に交換することを推奨します。

■低圧燃料フィルターの清掃

⚠ 警　告

気化したガソリンは、引火爆発のおそれがあります。
ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。

⚠ 警　告

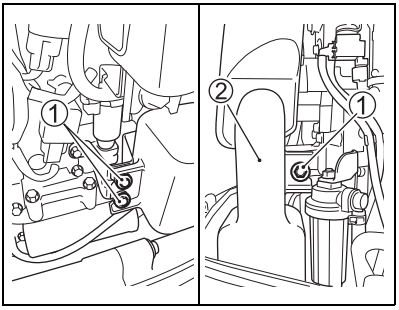
ガソリンは、引火しやすく、火災のおそれがあります。
こぼれたガソリンは、布などで完全に拭き取り、その布は、火災及び環境に留意して処分してください。

燃料フィルターの清掃や点検をオーナー自身で行う場合は、次の要領で行ってください。

⚠ 注　意

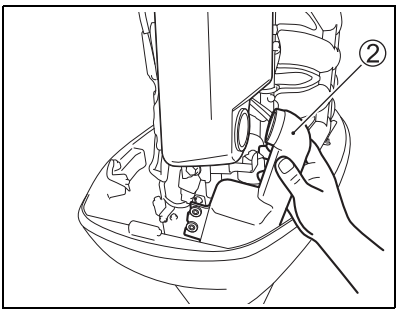
エンジン停止直後は、エンジン本体が熱くなっており、火傷を負うおそれがあります。
燃料フィルターの清掃や点検は、エンジンを停止し、エンジンが充分に冷えたことを確認した後、作業をしてください。

1. エンジンを止めてください。
2. **キーレススタートシステム装着の場合**
   キーレススタートシステムがOFF(LOCK)状態になっていることを確認してください。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンキーが“OFF”になっていることを確認してください。
3. レゾネーター ② を取り付けているボルト ① を取り外してください。
4. レゾネーター②を取り外してください。

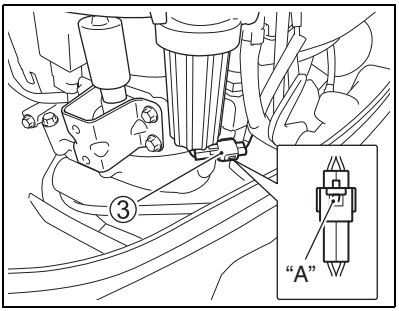


注　記

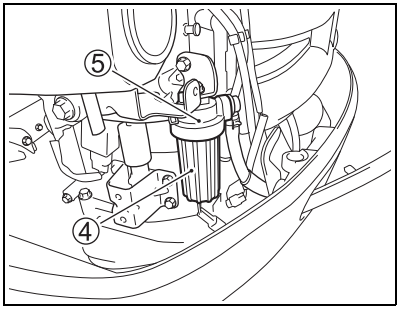
フィルターカップは適切な手順で緩めないと、センサーのリード線が損傷します。
・フィルターカップを取り外すとき、センサーのリード線をねじらないでください。
・フィルターカップを取外す前に、センサーリード線コネクターを切り離してください。



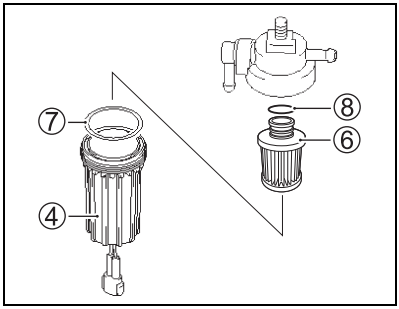
5. コネクター ③ のロックタブ“A”を押し、ウォーターセンサーリード線コネクター ③ を切り離してください。
6. フィルターカップを緩める時に流出する燃料を吸収する為に、燃料フィルターの下に適切なウエスを置いてください。



7. フィルターカップ④を左に回して緩め、フィルターキャップ ⑤ から取り外してください。
8. フィルターカップ内の燃料/水を適切な容器に排出してください。



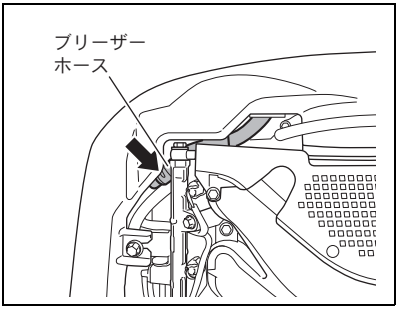
9. フィルターエレメント ⑥ を取り外します。
   フィルターカップ、フィルターエレメント ⑥、O リング ⑦、シールリング ⑧ に損傷がないかを点検してください。損傷等の不具合がある場合は、交換してください。



10. エレメントやフィルターカップを洗浄剤できれいに洗浄してください。
11. シールリング⑧とフィルターエレメント⑥を元の位置に取り付けます。
12. フィルターカップに　O　リングを取り付け、フィルターキャップに確実に締め付けます。
13. ウォーターセンサーリード線コネクター③を接続します。
14. レゾネーターを元の位置に取り付け、ボルトで締め付けてください。
15. エンジンを始動し、燃料フィルターから燃料漏れがないことを確認してください。

■ブリーザーホース

ブリーザーホースに漏れ、割れ、その他の損傷がないかを点検してください。
不具合がある場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に整備を依頼してください。



ギヤオイル

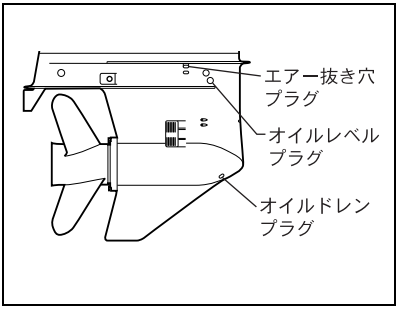
オイル交換時期；
・初回、新機を使用し始めたときから 20 時間後、または１ケ月後。
・以後、100 時間、または６ヶ月ごと

■オイル交換
ギヤオイルの交換は、次の要領で行ってください。

⚠ 警 告

ギヤオイルの交換をするときは、船外機の転倒などにより思いがけない事故を防ぐため、船外機をボートのトランサムまたは船外機スタンドにしっかりと固定してください。

1. 船外機をまっすぐに立てた状態にしてください。
2. 排油受皿をギヤケースの下に置いてください。



アドバイス

環境や資源を保護するために、排出したオイルは、みだりにすてないでください。
法律や条例等に従い、定められた方法で処理をしてください。

3. オイルドレンプラグとエアー抜き穴プラグをドライバーで緩め、取り外してください。
4. オイルを完全にギヤケースから排出してください。

アドバイス

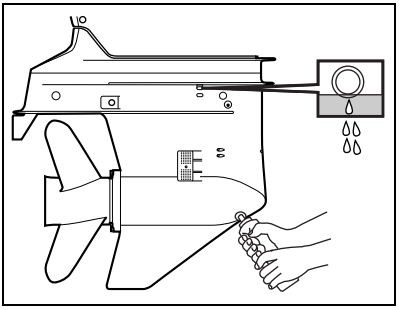
エアー抜き穴プラグ、オイルレベルプラグとオイルドレンプラグは異なります。
ドレンプラグには、先端に磁石が取り付けてあります。
プラグを取り付ける時、位置を間違えないでください。

注　記
ギヤオイルに水が混じると、ギヤケース内の部品が損傷するおそれがあります。 排出したギヤオイルを注意深く観察し、オイルに水が混じり白濁して（白くにごって）いたら、至急、スズキ特約店またはスズキ販売店に点検・整備を依頼してください。

5. 推奨ギヤオイルをオイルドレンプラグ穴から注入してください。

推奨ギヤオイル；
スズキアウトボードモーターギヤオイル
または
ハイポイドギヤオイル SAE90 、
API 分類 GL-5 相当品

ギヤオイル規定量	約 1100cm³（1100cc）



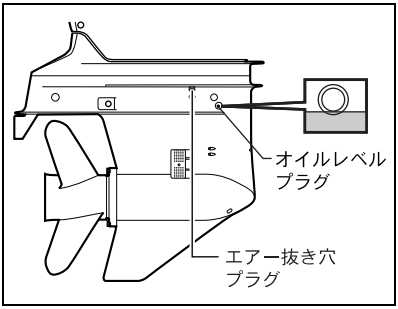
6. 注入したオイルがエアー抜き穴から出はじめたら、エアー抜き穴プラグを締め付けてください。
7. オイルドレンプラグを即座に締め付けてください。

注　記
オイルドレンプラグやオイルレベルプラグ等の緩みは、ギヤケース内への水の浸入の原因になります。 各々のプラグは、新しいガスケットを使用し、確実に締め付けてください。

8. 10 分ぐらい経過したら、ギヤオイルレベルプラグを取り外し、ギヤオイルレベルを点検してください。（152 ページを参照してください。）
ギヤオイルのレベルが低い場合は、ギヤオイルをオイルレベル穴から規定のレベルになるまで補充してください。
9. オイルレベルプラグを確実に締め付けてください。

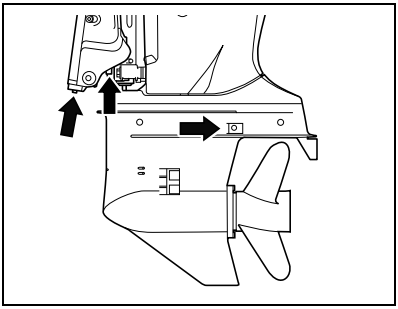
■ギヤオイルレベルの点検

ギヤオイルレベルの点検は、オイルレベルプラグを取り外して行います。
船外機をまっすぐに立てた状態で、オイルがオイルレベルプラグ穴の下端まであれば、オイルレベルは適正です。



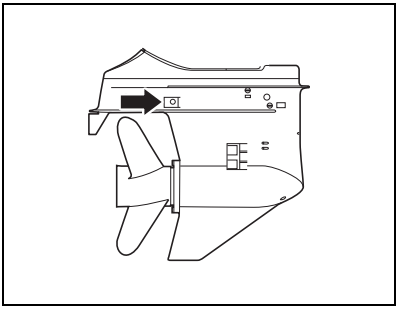
アノード

アノードは、船外機を腐食から守る犠牲金属で、使用時間の経過とともに減少します。定期的に点検を行い、新品の大きさの２／３ぐらいまで減ったら、新しい物と交換をしてください。



注　記

**・アノードに塗料等を塗ると電蝕防止の効果が無くなります。
アノードに塗料等を塗らないでください。**
・アノードの効果を確実にするために、アノードの表面を定期的にワイヤーブラシ等できれいにしてください。
・アノードは、船外機の腐食を防ぎます。必ず所定の位置に取り付けてください。



アドバイス

シリンダーブロック / ヘッド内部に取付けられているアノードの点検と交換は、スズキ取扱店に依頼してください。

バッテリー

⚠ 警　告

- バッテリーは、引火性のガスを発生し、引火爆発のおそれがあります。
  ・バッテリーの付近では火気を絶対に使用しないでください。
  また、バッテリー付近でスパーク（火花）を発生させないでください。
  ・バッテリーケーブルをバッテリーから取り外すときは、
  【キーレススタートシステム装着の場合】
  キーレススタートシステムが OFF（LOCK）状態であることを確認し、マイナスケーブルを最初に、次にプラスケーブルを取り外してください。
  【キーレススタートシステム非装着の場合】
  エンジンキーを OFF（切）位置にし、マイナスケーブルを最初に、次にプラスケーブルを取り外してください。
  ケーブルを取り付けるときは、プラスケーブルを先に取り付けてください。
  ・バッテリーの充電作業は、換気が良く、風通しの良い所で行ってください。
- バッテリーを取り扱うときは、保護具｛保護メガネ（ゴーグル）、ゴム手袋等｝を身につけてください。
- バッテリー液（希硫酸）が目や皮膚につくと失明、やけど等、その部分が侵されますので十分に気を付けてください。
  万一、付着したときは、直ちに多量の水で洗い流し、早急に医師の治療をうけてください。

⚠ 注　意

バッテリーには、バッテリー使用上の警告ラベルが貼られています。
使用前に警告ラベルをよく読んでください。

アドバイス

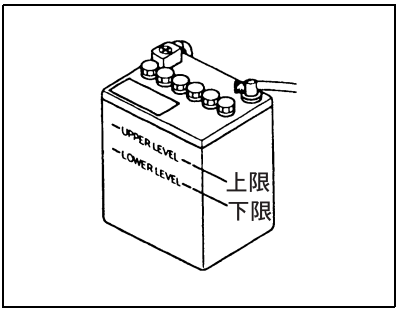
バッテリーは、バッテリーメーカーの説明書の指示に従い、保守・点検をしてください。

アドバイス

バッテリー端子の偶発的なショートを防ぐために、プラスバッテリー端子に絶縁カバーを取付けてください。絶縁カバーが必要なときは、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。

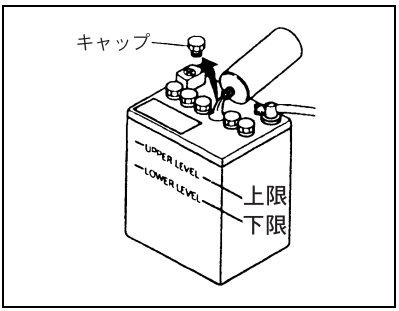
■バッテリー液量の点検

・バッテリー液面が各槽とも下限レベル（LOWER LEVEL）と上限レベル（UPPER LEVEL）の間にあるかを点検してください。
・液面が下限に近づいたら、上限までバッテリー補充液（蒸留水）を補給してください。



■バッテリー液の補給

1. キャップを取り外し、各槽ごとに上限レベルまでバッテリー補充液（蒸留水）を補給してください。
2. 補給後は確実にキャップを締め付けてください。

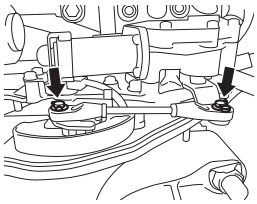
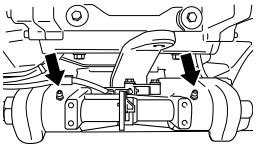
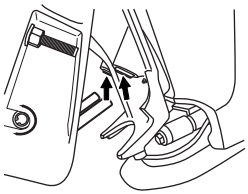
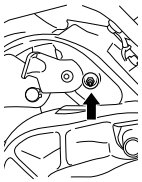
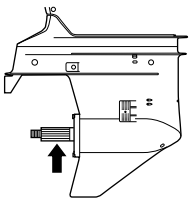


ボルト&ナット

船外機の主要構成部品の締付ボルトとナット（シリンダーヘッドカバーボルト、エンジン締付ボルト、ロワーユニット締付ボルト等）に緩みがないかを点検してください。締付けに緩みがある場合は、増し締めをしてください。

給油／給脂

船外機の各作動部のスムーズで確実な作動を確保するために、
定期的に給油／給脂を行うことが必要です。
次に給油／給脂箇所と推奨油脂を記載します。

<table>
<tr><th>位　置</th><th>油　脂</th><th>位　置</th><th>油　脂</th></tr>
<tr><td> 
シフトリンク</td><td rowspan="3">スズキ
ウォーター
レジスタント
グリスを塗布
 </td><td>  </td><td rowspan="3">スズキ
ウォーター
レジスタント
グリス
（グリスガン
を用いて注入
してください。）
 </td></tr>
<tr><td> 
トリムラムパッド</td><td> 
スイベルブラケット</td></tr>
<tr><td> 
プロペラシャフト</td><td>
ステアリング
ブラケット</td></tr>
</table>

アドバイス

ステアリングブラケットへグリスを注入するときは、その前に船外機をチルト角が最大になるまでチルトアップさせてから行ってください。

プロペラ

⚠ 警　告

プロペラの取付け、取外しを行うときに注意を怠ると、重大な傷害を招くおそれがあります。
偶然にエンジンが始動することを防止するために、プロペラの取付け、取外し等を行う前に、次のことを実施してください。
・リモコンレバーをニュートラル（中立）にしてください。
・ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチから取り外してください。
・バッテリーケーブルをバッテリーから取り外してください。

⚠ 注　意

プロペラブレードは、薄く鋭利で不用意に取り扱うとけがのおそれがあります。
・交換や異物の除去作業時には、手袋をして気を付けて行ってください。
・手を保護するために、プロペラナットを緩めたり、締め付けたりするときは、プロペラブレードとアンチキャビテーションプレートの間に適当な木片を置き、プロペラをロックしてください。

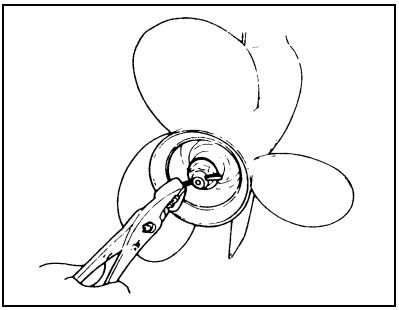
■点　検

・プロペラに過度の摩耗、損傷、欠け、曲がり、腐食がないかを点検してください。
・点検の結果、損傷等が著しいものは、交換してください。

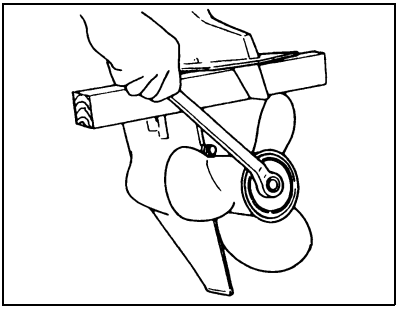
■プロペラの取外し

プロペラの取外しは、次の要領で行ってください。

1. コッタピンを伸ばし、取り外してください。



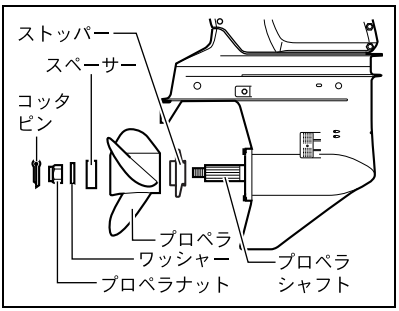
2. ナットを緩め、取り外してください。
3. ワッシャー、スペーサー、プロペラ、ストッパーを順次プロペラシャフトから取り外してください。

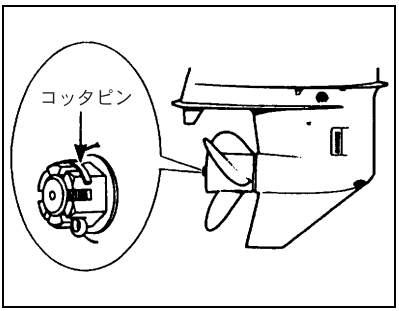


■プロペラの取付け

プロペラの取付けは、次の要領で行ってください。

1. プロペラシャフトにスズキウォーターレジスタントグリスを塗布してください。
2. ストッパーをプロペラシャフトに取り付けてください。
3. プロペラをプロペラシャフトに取り付けてください。
4. スペーサーとワッシャーをプロペラシャフトに取り付けてください。
5. プロペラナットをプロペラシャフトに取り付け、50 － 60N・m (5.0 － 6.0 kg-m) のトルクで締め付けてください。
6. コッタピンをシャフト端の穴に通し、ナットが緩んで脱落しないように折曲げてください。

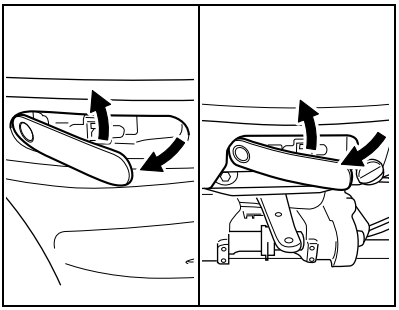




エンジンカバー

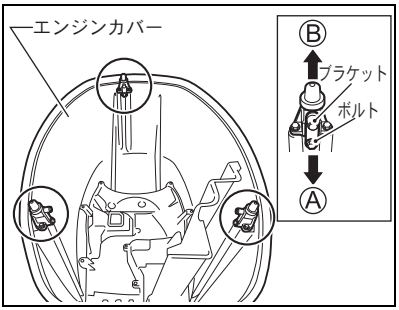
エンジンカバーの取付けに緩みがないか、エンジンカバーフックレバーの操作が重すぎないかを点検してください。緩みがある場合、レバーがスムーズに操作できない場合は、次の要領で調節をしてください。

1. エンジンカバーを取り外してください。
2. エンジンカバーの内側にあるブラケットを締め付けているボルトを緩めてください。
3. ブラケットの位置を調節し、ボルトを締め付けてください。



アドバイス

・カバーの取付けに緩みがある場合は、ブラケットを矢印 Ⓐ 方向に動かしてください。
・レバーの操作が重すぎる場合は、ブラケットを Ⓑ 方向に動かしてください。



4. エンジンカバーを取り付け、エンジンカバーフックレバーで固定してください。
5. エンジンカバーの取付けに緩みがある場合、フックレバーがスムーズに操作できない場合は、ブラケットの位置を再度調整してください。

17 冷却水経路の洗浄

海水または泥水で使用した後は、その都度真水で冷却水の通路を洗浄し、塩分または泥を取り除いてください。

■洗浄のしかた

A.　エンジンを運転して行う場合

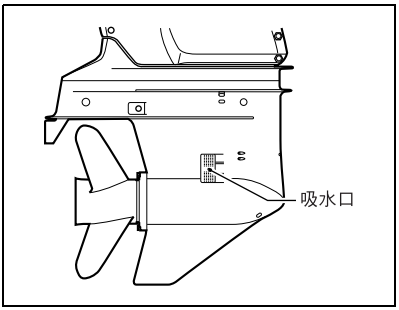
冷却水通路の洗浄は、次の手順で行ってください。
冷却水通路の洗浄は、市販の水洗キットを使用して行ってください。

⚠ 警　告

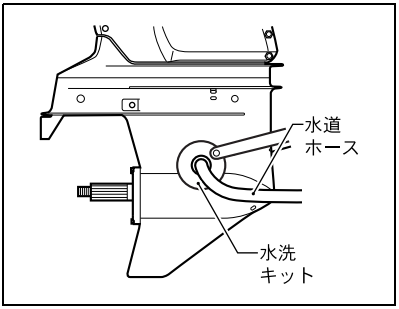
回転しているプロペラに触れると、けがのおそれがあります。
陸上で運転する場合は、プロペラを必ず取り外してください。

1. プロペラを取り外してください。
   プロペラの取外し：
   「16 簡単な点検・整備」の章、プロペラの項 (156 ページ) を参照してください。

2. 水洗キットをギヤケースの側面にある吸水口を覆うようにして取り付けてください。



3. 水洗キットと水道の蛇口をホースでつないでください。



注　記

エンジンは、運転中に冷却水の循環がないと損傷します。
エンジンを運転する場合は、必ず冷却水を供給してください。

4. 水道の蛇口を開き、冷却水を送水してください。

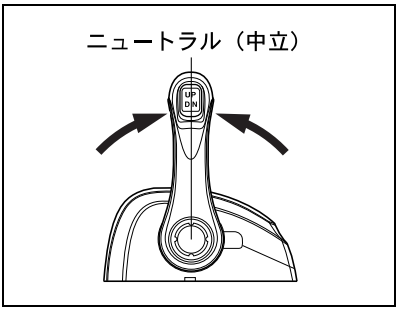
アドバイス

冷却水の送水量が少ないと、運転中にオーバーヒート警告が働き、警告ブザーが鳴ることがあります。ブザーが鳴ったときは、送水量を増してください。

⚠ 警 告

回転しているプロペラシャフトに触れると、ケガのおそれがあります。
・冷却水路の洗浄をしている間は、シフトをニュートラル（中立）にしてください。
・エンジン運転中は、プロペラシャフトにさわらないでください。

5. リモコンレバーをニュートラル（中立）位置にし、エンジンを始動してください。
6. 検水口から冷却水が排出されていることを確認してください。
7. エンジンをアイドリング回転(無負荷最低速回転）で約５分間運転してください。
8. エンジンを停止し、水道の蛇口を締め、冷却水の供給を止めてください。
9. 水洗キットを取り外してください。
10. 船外機の外部を真水で洗浄し、乾いた布で水分を拭き取ってください。
11. プロペラを取り付けてください。
プロペラの取付け；
「16 簡単な点検・整備」の章、プロペラの項 (157 ページ) を参照してください。



B.　エンジンを止めて行う場合

エンジンを止めた状態で冷却水経路の洗浄を行う場合は、次の要領で行ってください。

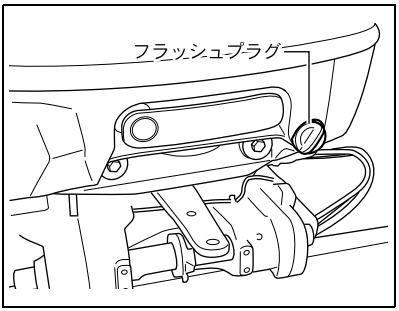
アドバイス

冷却水経路の洗浄は、船外機附属品のフラッシュホースコネクタを用いて行ってください。

⚠ 警　告

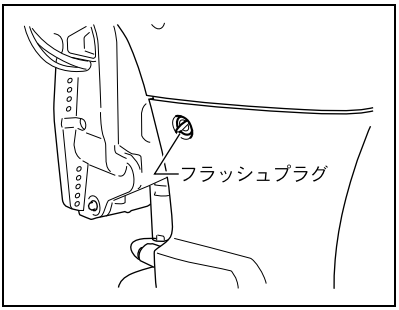
回転しているプロペラに触れると、けがのおそれがあります。
洗浄中にエンジンを始動しないでください。

1. エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを取り外してください。
2. エンジンをまっすぐに立てた（通常の航走）状態にします。
3. フラッシュプラグを緩め、取り外してください。



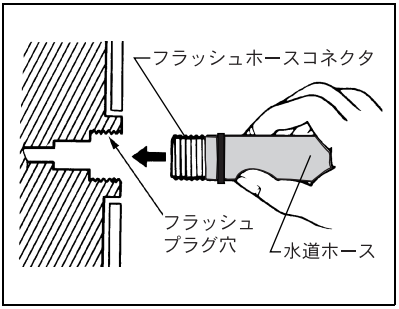
アドバイス

フラッシュプラグは、エンジンのフロントパネルと左舷側の図示位置にあります。洗浄は、どちらかのプラグを取り外し、そこにフラッシュホースコネクタを取り付けて行ってください。

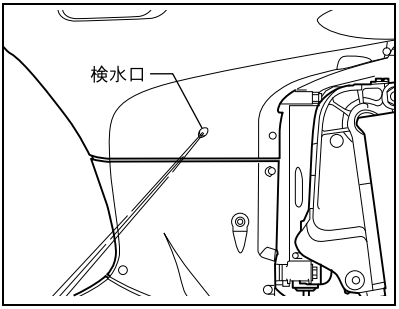


4. フラッシュホースコネクタをフラッシュプラグが取付けられていた穴に取り付けてください。

5. 水道のホースをフラッシュホースコネクタに接続してください。



6. 水道栓を開いて送水します。
検水口とプロペラボスから冷却水が充分に出ていることを確認してください。
この状態で５分間以上、水を流し続けてください。



7. 洗浄が終わったら、フラッシュホースコネクタを取り外し、フラッシュプラグを元の位置にしっかりと締め付けてください。

注　記
フラッシュプラグの締付け不良は、冷却水が漏れて、エンジンがオーバーヒートをする原因になります。 フラッシュプラグは、確実に締め付けてください。

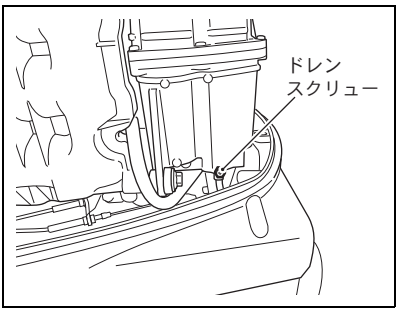
8. 船外機の外部を真水で洗浄し、乾いた布で水分を拭き取ってください。

18 長期格納

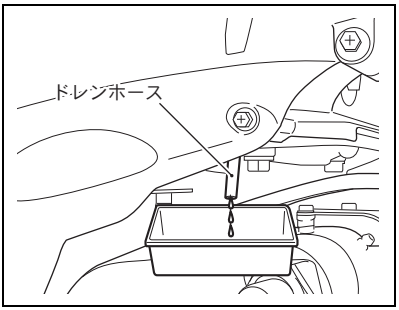
格納前の整備

船外機を格納する前に点検・整備を行ってください。
この点検・整備は、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店にお持ち込みいただき、依頼することを推奨します。
オーナーの方がご自身で、この点検・整備を行う場合は、次の要領で行ってください。

1. 船外機の冷却水経路を真水で洗浄してください。
   冷却水経路の洗浄：
   「17 冷却水経路の洗浄」の章（159 ページ）を参照してください。
2. 燃料タンクに開閉コックがある場合は、エンジンをアイドリングにした状態でコックを「閉」にして、しばらく運転します。
3. **キーレススタートシステム装着の場合**
   スイッチパネルの“START & STOP”スイッチを押してください。
   エンジンが停止したことを確認してください。
   メインスイッチノブを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し、キーレススタートシステムを OFF（LOCK）状態にしてください。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンスイッチのキーを“OFF”にしてください。
4. エンジンが停止した後、水洗キットを取り外してください。



5. エンジンカバーを取り外してください。
6. ベーパーセパレーターのドレンスクリューを緩めて燃料を容器の中へ排出してください。
   ドレンスクリューをしっかりと締め付けてください。



7. 燃料タンクの中に燃料が残っていたら、燃料を抜き取ってください。
8. ギヤオイルを交換してください。
   ギヤオイルの交換：
   「16 簡単な点検・整備」の章、ギヤオイルの項（150 ページ）を参照してください。
9. エンジンオイルを交換してください。
   エンジンオイルの交換：
   「16 簡単な点検・整備」の章、エンジンオイル交換の項（140 ～ 143 ページ）を参照してください。
10. 給油／給脂箇所にグリスを注入してください。
    給油／給脂箇所：
    「16 簡単な点検・整備」の章、給油／給脂の項（155 ページ）を参照してください。
11. バッテリーを取り外してください。
    バッテリーは、乾燥した、涼しい場所に保管してください。
12. 船外機の外部を真水で洗浄し、乾いた布で水分を拭き取ってください。
13. 船外機は、直射日光を避け、乾燥した、風通しの良い場所に立てて保管してください。

格納後（使用前）の整備

長期格納後、再び使用する前に、次に示す点検・整備を行ってください。

1. スパークプラグを点検してください。
   汚損が著しいものは、交換してください。
2. ギヤオイルが適正なレベルにあるかを点検してください。
3. エンジンオイルが適正なレベルかを点検してください。
4. 給油／給脂箇所にグリスを注入してください。
5. 船外機の外装部をきれいに掃除してください。
6. 良好な状態のバッテリーを取り付けてください。

19 トラブルと対処

トラブルシューティング

故障は、常日頃の行き届いた点検・整備により未然に防止することができます。
故障の多くは、取扱いの不慣れや整備不良に起因しています。
故障、不具合が発生したときは、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談してください。
次に最も多いと考えられる故障と、その推定原因を列記しますので参照してください。

症　状	推定原因	処　置
スターターモーターが回らない	・ロックプレートがエマージェンシーストップスイッチに取り付けられていない	・ロックプレートをスイッチに取り付ける
	・スターターリレーヒューズ（30A）切れ	・スターター回路に異常がないか調べ、新しいヒューズに交換
	・サブバッテリーケーブルのヒューズ切れ	・配線に異常がないか調べ、新しいヒューズに交換
	・リモコンレバーがニュートラル位置でない	・ニュートラル位置にする
	・バッテリーの容量低下、または容量不足	・バッテリーの充電、推奨バッテリーを使用する
	・バッテリーターミナルの緩み、または腐食	・ターミナルの締め付けと清掃をする
	・スターターモーターの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・メインスイッチ、またはSTARTスイッチの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・電気配線の接続不良	・接続状態の点検、修正をする。スズキ取扱店に相談
エンジンが始動しない	・燃料タンクが空	・給油をする
	・燃料の汚れ、または古くなっている	・新しい燃料と入れ替える
	・エンジン始動手順の間違い	・取扱説明書「エンジン始動」の項を参照する
	・燃料タンクのエアーベントが開いていない	・エアーベントを開ける
	・燃料ホースの接続不良、またはねじれ	・燃料ホースの取り回しと接続状態を点検する
	・燃料フィルターの詰まり	・燃料フィルターを清掃する。又は交換する
	・燃料ポンプの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・燃料タンクフィルターの詰まり	・詰まりを除去、スズキ取扱店に相談する
	・スパークプラグの不良、または故障	・スパークプラグを点検、交換する
	・イグニッションシステムの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・電気配線の接続不良、または損傷	・接続状態の点検、修正をする。スズキ取扱店に相談
	・エンジン内部部品の損傷	・スズキ取扱店に修理を依頼する

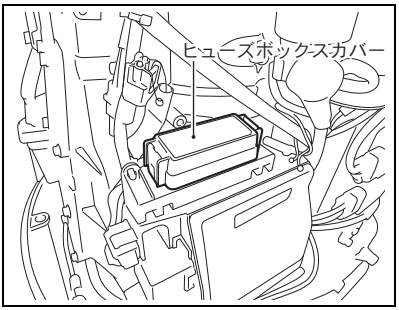
症　状	推 定 原 因	処　置
アイドリング／トローリング回転が不安定	・スパークプラグの不良	・スパークプラグを点検・交換する
	・燃料ホースのねじれ、または折れ曲がり	・燃料ホースの取り回しと接続状態を点検する
	・燃料ホースの接続不良	・燃料ホースをしっかりと接続する
	・燃料の汚れ、または古くなっている	・新しい燃料と入れ替える
	・燃料フィルターの詰まり	・燃料フィルターを清掃する。又は交換する
	・燃料ポンプの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・イグニッションシステムの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・エンジンオイルの選択不適当	・推奨エンジンオイルと入れ替える。スズキ取扱店に相談
	・サーモスタットの作動不良	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・電気配線の接続不良	・接続状態の点検、修正をする。スズキ取扱店に相談
・警告表示がでる （警告ブザーがなる） （警告ランプが点灯する） （エンジン回転規制が働く）	・エンジン冷却水経路の詰まり	・エンジン冷却水の吸水口を点検・清掃する
	・サーモスタットの作動不良、故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・ウォーターポンプの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・オイルチェンジリマインダーシステムの作動	・エンジンオイルを交換する。「取扱説明書・オイルチェンジリマインダーシステム」の項参照
	・エンジンオイル不足、又は劣化	・エンジンオイルを交換し、規定量まで入れる
	・オイルフィルターの詰まり	・オイルフィルターの交換をスズキ取扱店に依頼する
	・オイルポンプの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・プロペラの損傷	・プロペラを交換する
	・バッテリーの容量低下、又は劣化	・バッテリーの充電をする。又は推奨バッテリーに交換する
	・エンジン制御センサーの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・電気配線の接続不良	・接続状態の点検、修正をする。スズキ取扱店に相談
シフト操作ができない	・電子シフトコントロールシステムの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
プロペラが回らない	・プロペラブッシュのスリップ	・プロペラを交換する
	・ドライブシャフトの損傷	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・プロペラシャフトの損傷	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する

症　状	推 定 原 因	処　置
航走スピードが遅い（出力がでない）	・プロペラの損傷	・プロペラを交換する
	・プロペラの汚れ（貝、藻等の付着）	・プロペラを掃除する
	・プロペラの選択が不適当	・プロペラを交換する。スズキ取扱店に相談
	・船外機の取付け高さ、位置不良	・調整する。スズキ取扱店に相談
	・トリム角の調整不良	・調整する
	・警告機能の制御の作動	・取扱説明書「6. モニターシステム」の項を参照する。
	・スパークプラグの不良、又は選択間違え	・交換する。スズキ取扱店に相談
	・燃料ホースの圧迫	・燃料ホースの取り回しを点検・修正する
	・燃料フィルターの詰まり	・燃料フィルターを清掃する。又は交換する
	・燃料の汚れ、または古くなっている	・新しい燃料と入れ替える
	・燃料ポンプの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・イグニッションシステムの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・電子スロットルシステムの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・積荷の積載位置が不適当	・積荷の位置を点検・調整する
	・ボート（船底）への水の浸入	・船底のビルジを排出する
	・ボート（船底）の汚れ、又は損傷	・船底を清掃する。又は修理する
振動が大きい	・プロペラの損傷	・プロペラを交換する
	・船外機取付けボルトの緩み	・増し締めをする
	・各部の締付けボルトの緩み	・増し締めをする。スズキ取扱店に相談
メインスイッチノブを操作してもキーレススタートシステムがON状態にならない。エラー音（ブザー短音5回）も鳴らない【キーレススタートシステム装着の場合】	・ロックプレートがエマージェンシーストップスイッチに取り付けられていない	・ロックプレートをスイッチに取り付ける
	・携帯リモコンと通信できない状態でメインスイッチノブを連続操作した	・1 分以上経過後、携帯リモコンが通信できる状態で再度操作する
	・バッテリーの容量低下、または容量不足	・バッテリーの充電、推奨バッテリーを使用する
	・バッテリーターミナルの緩み、または腐食	・バッテリーの締め付けと掃除をする
	・メインスイッチパネルの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・キーレスユニットの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・電気配線の接続不良	・接続状態の点検、修正をする。スズキ取扱店に相談

症　状	推 定 原 因	処　置
メインスイッチノブを操作してもキーレススタートシステムがON状態にならない。 エラー音（ブザー短音5回）が鳴る 【キーレススタートシステム装着の場合】	・携帯リモコンが通信範囲外にある	・携帯リモコンをキーレスユニットに近づける
	・携帯リモコンの電池の電圧低下	・携帯リモコンの電池を交換する
	・携帯リモコンの通信モードが停止モードになっている	・携帯リモコンのロックボタンを長押しして携帯リモコンを通信モードにする
	・認証されていない携帯リモコンを使用している	・使用する船と認証している携帯リモコンを使用する
	・強い電波やノイズによる通信不良	・携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンの電源を切る 周囲にこれらの機器がない場合は、スズキ取扱店に相談
	・キーレスユニットと船外機の電気配線接続不良	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・キーレスユニットと船外機の認証不良	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・エンジンの電子制御システムに異常がある	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
メインスイッチノブを操作してもキーレススタートシステムが OFF (LOCK)状態にならない。 【キーレススタートシステム装着の場合】	・エンジンがかかっている	・スイッチパネルの“START & STOP”スイッチを押してエンジンを停止する
	・電気配線の接続不良	・接続状態の点検、修正をする。スズキ取扱店に相談
	・メインスイッチパネルの故障	・スズキ取扱店に点検・修理を依頼する
	・携帯リモコンが通信範囲外にある	・携帯リモコンをキーレスユニットに近づける
	・携帯リモコンの電池の電圧低下	・携帯リモコンの電池を交換する
	・携帯リモコンの通信モードが停止モードになっている	・携帯リモコンのロックボタンを長押しして携帯リモコンを通信モードにする
	・認証されていない携帯リモコンを使用している	・使用する船と認証している携帯リモコンを使用する
	・強い電波やノイズによる通信不良	・携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンの電源を切る 周囲にこれらの機器がない場合は、スズキ取扱店に相談

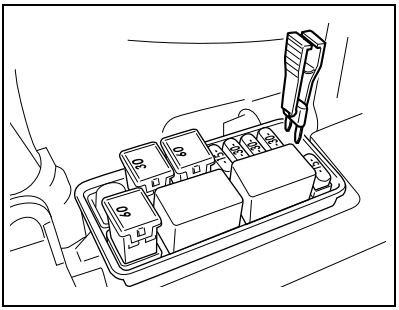
ヒューズが切れたとき

スターターモーター等の電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズが切れていることが考えられます。



・ヒューズの点検と交換

1. **キーレススタートシステム装着の場合**
   キーレススタートシステムがOFF(LOCK)状態であることを確認してください。
   キーレススタートシステム非装着の場合
   エンジンスイッチを OFF にしてください。
2. エンジンカバーを取り外してください。
3. ヒューズボックスのカバーを取り外してください。
4. ヒューズを引き抜いてください。



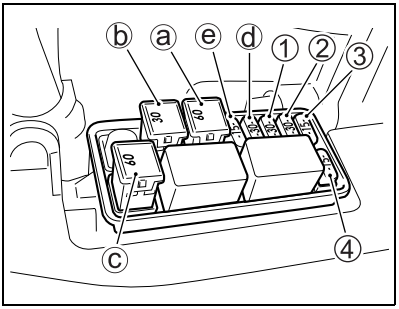
アドバイス

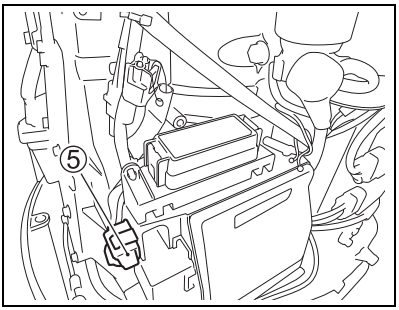
ブレードタイプのヒューズの取外し、取付けは、ヒューズボックスのカバーの裏側にあるピンセットを用いて行ってください。

5. ヒューズが切れていないかを点検してください。切れているときは、同じ容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ容量

①イグニッションコイル／インジェクター／
　エンジンコントロールモジュール／
　高圧フューエルポンプ　：30 A
②スターターリレー　：30 A
③スロットルバルブ　：15 A
④シフトアクチュエーター
　（シフト制御部品）　：15 A
⑤PTT スイッチ　：10 A
ⓐメインヒューズ　：60 A
ⓑアイソレータセレクトヒューズ　：30 A
ⓒ予備ヒューズ　：60 A
ⓓ予備ヒューズ　：30 A
ⓔ予備ヒューズ　：15 A





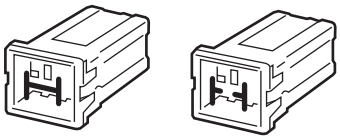
⚠ 警　告

容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などと交換すると、配線などが焼損する原因になります。
ヒューズは同じ容量のものと交換してください。

アドバイス

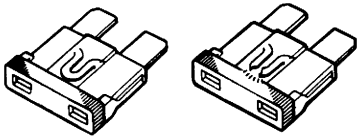
ヒューズが切れたときは、原因を調べて、直してから、指定容量のヒューズと交換してください。
原因がわからないときは、スズキ取扱店で点検を受けてください。

メインヒューズ（60A）／
アイソレータヒューズ（30A）



正常なヒューズ　切れたヒューズ

ブレードタイプヒューズ

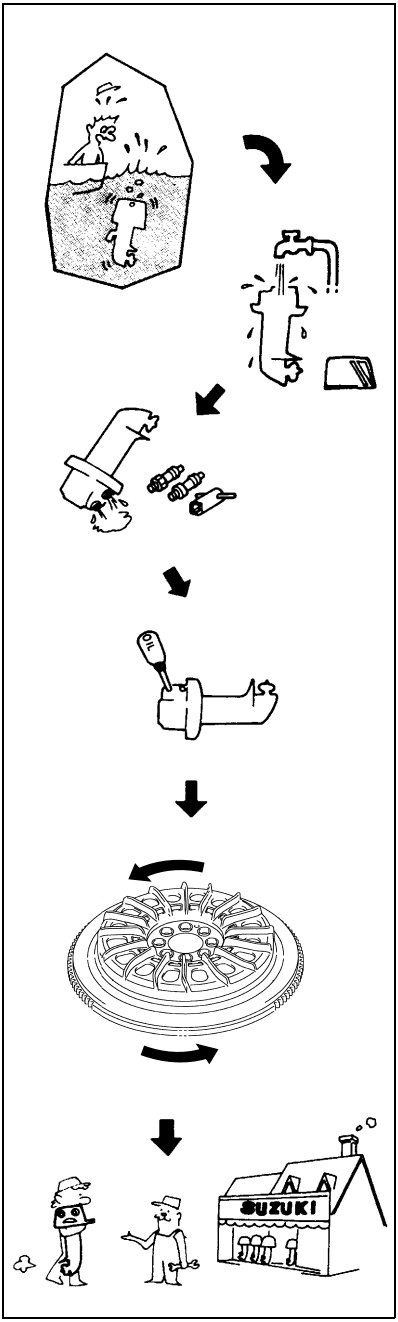


正常なヒューズ　切れたヒューズ

水没船外機の処置

万一、船外機を水中に落としたときは、エンジンを完全に分解し、整備をしなければなりません。
処置が遅れると、エンジンに致命的な損傷を与えることになります。
水中に落としたときは、応急手当として次の処置をしてください。

1. 船外機をできるだけ早く、水中から引き上げてください。
2. 船外機を真水で洗浄し、塩分、泥等の汚れを取り除いてください。
3. スパークプラグを取り外してください。
   フライホイールカバーを取り外してください。
   適切な工具を用いて、フライホイールを左に回し、シリンダー内に入った水を排出してください。
4. エンジンオイルに水の混入がないかを点検してください。
   水が混入している場合は、エンジンオイルドレンプラグを取り外し、オイルを排出してください。
   オイルを排出した後、ドレンプラグを締め付けてください。
5. エンジンオイルを各スパークプラグ穴から注入してください。
   適切な工具を用いて、フライホイールを左に回し、エンジン内部の各部品にオイルを行きわたらせてください。
6. 即刻、スズキ取扱店に持ち込み、エンジンの分解・整備を依頼してください。



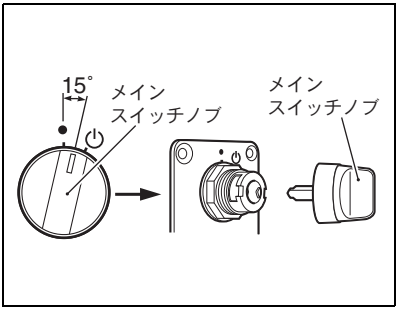
緊急時の始動要領

（キーレススタートシステム装着の場合）

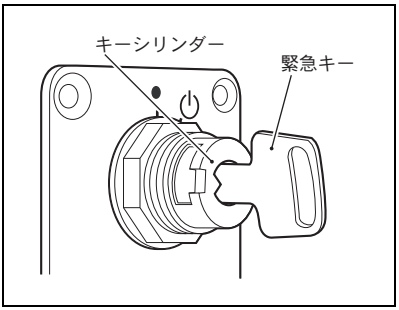
携帯リモコンの電池の消耗などで、携帯リモコンを使用できない時には、緊急キーを用いてエンジン始動を行うことができます。この時システムのキーレスユニットに 4 桁の暗証番号を入力する必要があります。

緊急キーを用いてのエンジン始動は次の手順で行います。

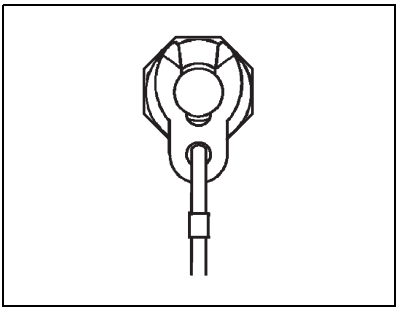
1. メインスイッチノブを右に約 15 度回して引き抜きます。



2. キーシリンダーに緊急キーを差し込みます。

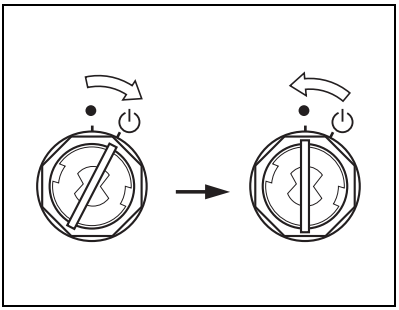


3. エマージェンシーストップスイッチにロックプレートが取り付けられていることを確認してください。

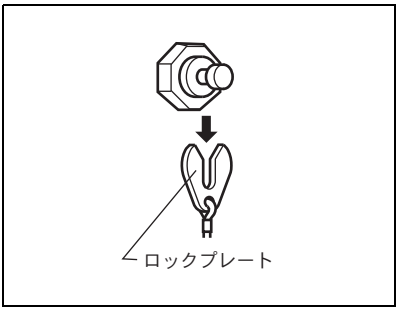


4. 次の手順を行い暗証番号入力モードに移行させます。

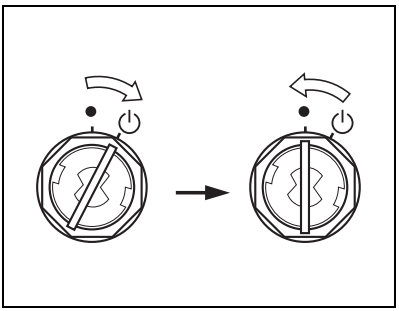
(1)緊急キーを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。
ブザーが長音で１回と短音で５回鳴ります。



(2)エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを取り外します。



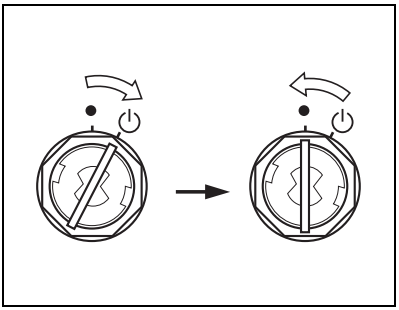
(3)緊急キーを“●”位置から“⏻”位置まで回して、ブザーが鳴るまで保持した後、“●”位置に戻します。
操作を完了すると暗証番号入力モードに移行します。



5. 暗証番号の入力を開始します。

先頭から 1 桁目の番号入力；

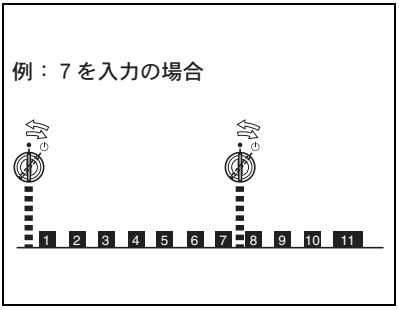
(1) 緊急キーを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。



アドバイス

手順 (1) の操作後にブザーが短音で 10 回鳴り、11 回目に長音が鳴ってから鳴り止みます。このパターンを繰り返します。
ブザーの短音の鳴り方は、入力する桁数によって異なります。176 ページのアドバイスの“暗証番号入力時のブザー音の鳴り方”を参照してください。

(2) 手順 (1) の操作をすると、先頭から 1 桁目の番号入力のためのブザーが短音で鳴り始めます。
ブザーが 1 桁目の番号と同じ回数鳴った直後に緊急キーを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し入力します。
番号の“0”の入力は、10 回目のブザーが鳴った直後に緊急キーの操作を行います。



アドバイス

- **入力操作を行わなかった場合は、再度登録しようとする番号の最初のステップに戻ります。**
- **暗証番号入力操作を 3 回繰り返しても、入力できない場合は、ブザーが短音で 3 回鳴ります。**
  その時は、最初の手順 3. に戻り、以降の手順を行います。
- **各桁の暗証番号を入力する時に、入力操作を複数回行った場合は、最後に入力操作を行った番号が有効になります。**
- **途中で暗証番号入力を中止する場合は、エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを取付けてください。**
  その時は、最初の手順 4. に戻り、以降の手順を行います。

(3)先頭から 1 桁目の番号入力後、11 回目のブザーが長音で鳴ってから鳴り止むと、2 桁目の番号入力の待機状態になります。

先頭から 2 桁目の番号入力；

(4)緊急キーを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。

(5)手順 (4) の操作をすると、先頭から 2 桁目の番号入力のためのブザーが短音で鳴り始めます。
ブザーが 2 桁目の番号と同じ回数鳴った直後に緊急キーを“●”位置から“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻し入力します。
番号の〝0〟の入力は、10 回目のブザーが鳴った直後に緊急キーの操作を行います。

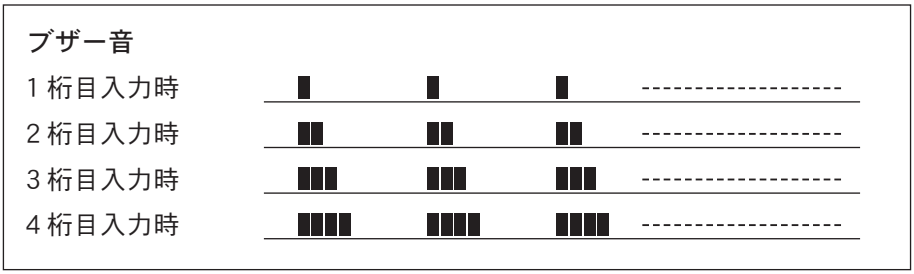
(6)先頭から 2 桁目の番号入力後、11 回目のブザーが長音で鳴ってから鳴り止むと、3 桁目の番号入力の待機状態になります。

先頭から３桁目、４桁目の番号入力；

(7) １桁目、２桁目の番号入力と同じ手順で３桁目、４桁目の番号入力を行います。

アドバイス

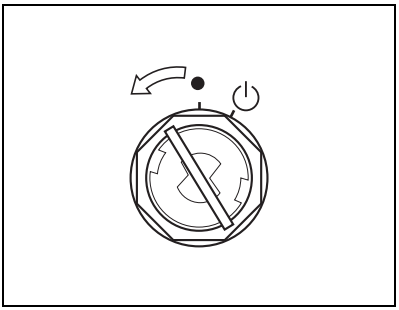
【暗証番号入力時のブザー音の鳴り方】
暗証番号の桁数に応じて、ブザーの短音が変わります。
１桁目の短音は１回づつ、２桁目の短音は連続２回づつ、３桁目の短音は連続３回づつ、４桁目の短音は連続４回づつ鳴ります。



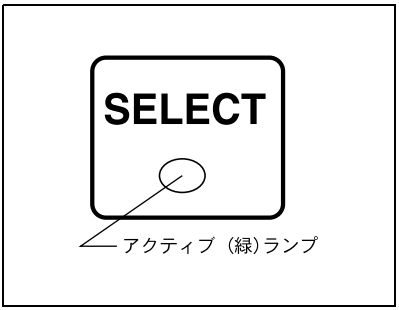
アドバイス

入力した番号が間違っていたり、入力を失敗した場合は、ブザーが短音で 3 回鳴ります。
その時は、最初の手順 3. に戻り、以降の手順を行います。

(8) 先頭から 4 桁目の暗証番号入力後、11 回目のブザーの長音が鳴った後、10 秒以内に緊急キーを左に回してください。
ブザーが短音で 2 回鳴り、キーレススタートシステムが ON 状態になったことを知らせます。



スイッチパネルの “SELECT” スイッチのアクティブ (緑) ランプが点灯していることを確認してください。

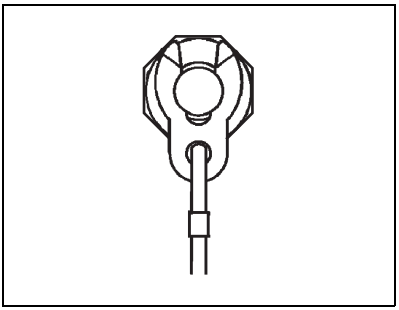


アドバイス

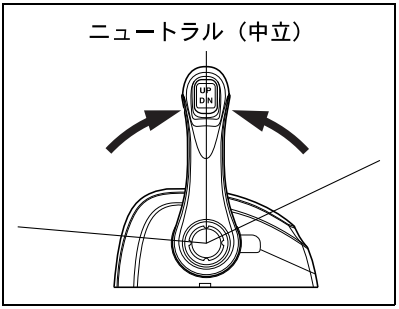
10 秒以内に緊急キーを左に回さなかった場合は、ブザーが短音で 5 回鳴り、その後、もう 1 回短音が鳴ります。
その時は、最初の手順 3. に戻り、以降の手順を行います。

■エンジン始動要領

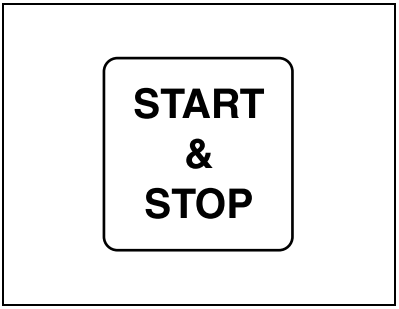
1. エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを差し込み、エマージェンシーストップコードの一端を操船者の身体の一部（手、足、衣服等）に付けます。



2. リモコンレバーをニュートラル（中立）位置にします。



3. スイッチパネルの“START & STOP”スイッチを押してください。スターターモーターが回り、エンジンが始動します。



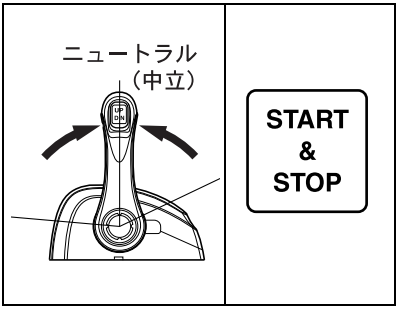
■エンジン停止要領

エンジンを停止させる場合は、次の要領で行ってください。

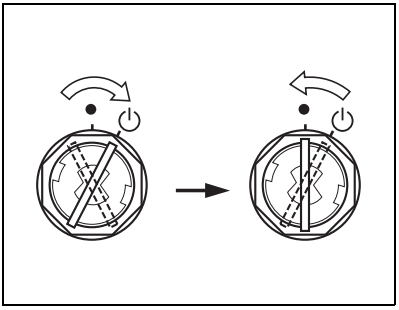
アドバイス

緊急にエンジンを停止しなければならない場合は、エンジンストップコードを引っ張り、エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを引き抜いてください。

1. リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置にします。
2. 2～3分間、アイドリング（無負荷最低速回転）でエンジンを運転します。
3. スイッチパネルの“START & STOP”スイッチを押してエンジンを停止します。



4. 緊急キーを“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻します。キーレススタートシステムは、OFF（LOCK）状態になります。次に、緊急キーをキーシリンダーから引き抜きます。



アドバイス

・緊急キーを“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻した後、15 秒間は暗証番号の認証状態が保持されます。その状態で緊急キーを左に回し、スイッチパネルの“START & STOP”スイッチを押すことで、エンジンを始動することができます。

・緊急キーを“⏻”位置まで回して、“●”位置に戻した後、15 秒以上経過後に再始動したい時は、暗証番号入力の操作を最初からやり直してください。

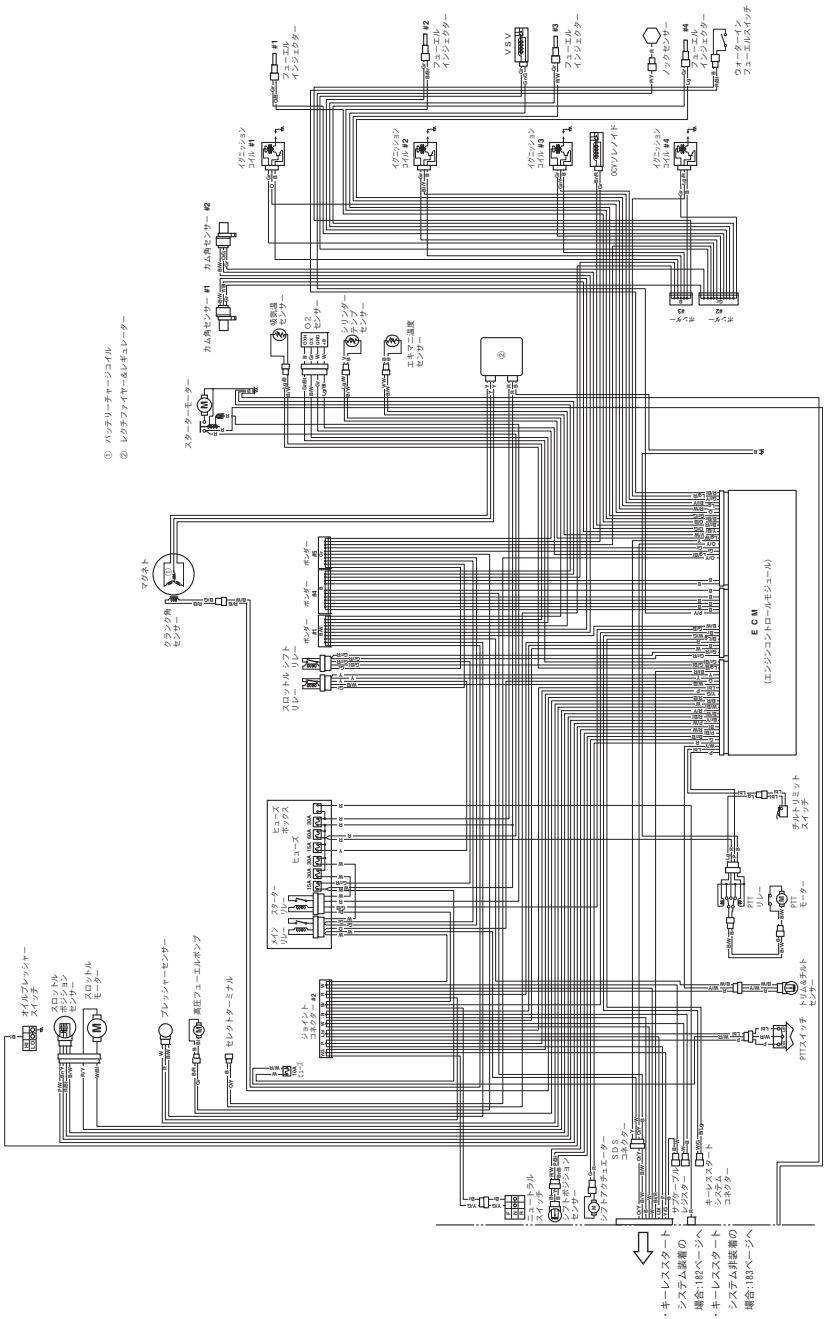
5. 燃料タンクに開閉コックがある場合は、コックを「閉」にします。

20 仕様諸元

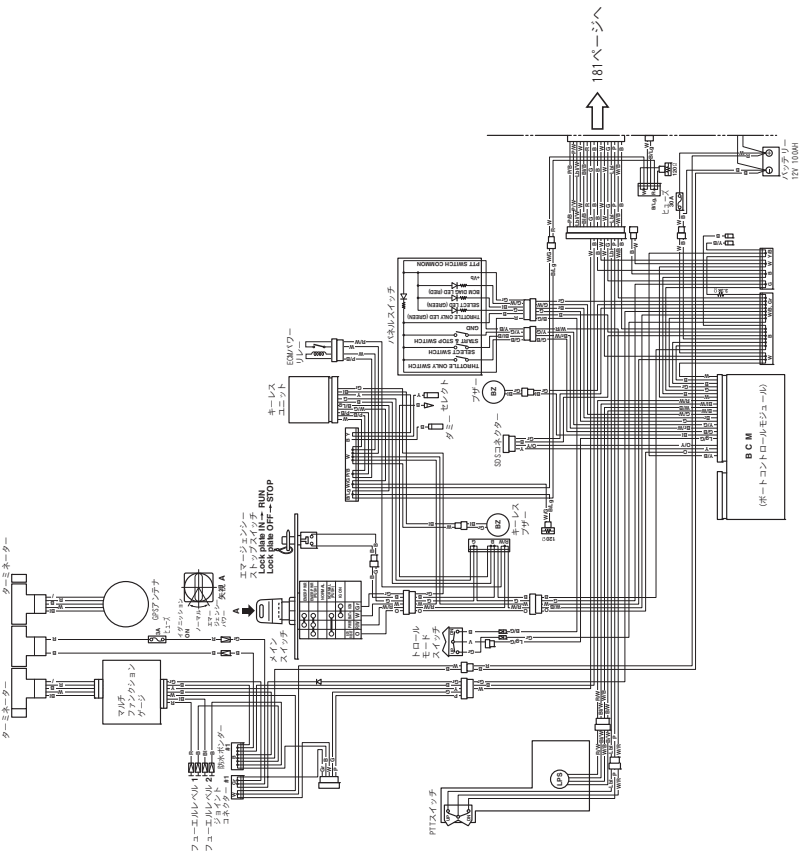
項目 ＼ 機種	DF200AP
全長×全幅×全高	899mm × 547mm × 1899mm（トランサム：X）
トランサム高さ	629mm（トランサム：X）
重量（トランサム：X）	245kg
船外機型式	20003P
最大出力	147.1kW（200ps)/5800r/min
全開使用回転範囲	5500 － 6100r/min
エンジン	4サイクル
シリンダー数×内径×行程	4 × 97mm × 97mm
総排気量	2867cm³（2867cc）
排気方式	水中排気（プロペラボス排気）
冷却方式	直接水冷式（ゴムインペラ）
燃料供給システム	エレクトロニック フューエルインジェクション
潤滑方式	トロコイド式強制圧送
始動方式	電動スターター
点火方式	フルトランジスターイグニッション
スパークプラグ	NGK LKR6E
プロペラ回転方向	（ローテーションセレクトコネクターにより選択）
エンジンオイル	・4サイクルモーターオイル ・API 分類：SG、SH、SJ、SL 級 ・SAE 規格：10W － 40、10W － 30
エンジンオイル規定量	8.0dm³(8.0L)
ギヤオイル規定量	1100cm³（1100cc）
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	(＊燃料タンクは、オプショナル部品です。)

21 配線図

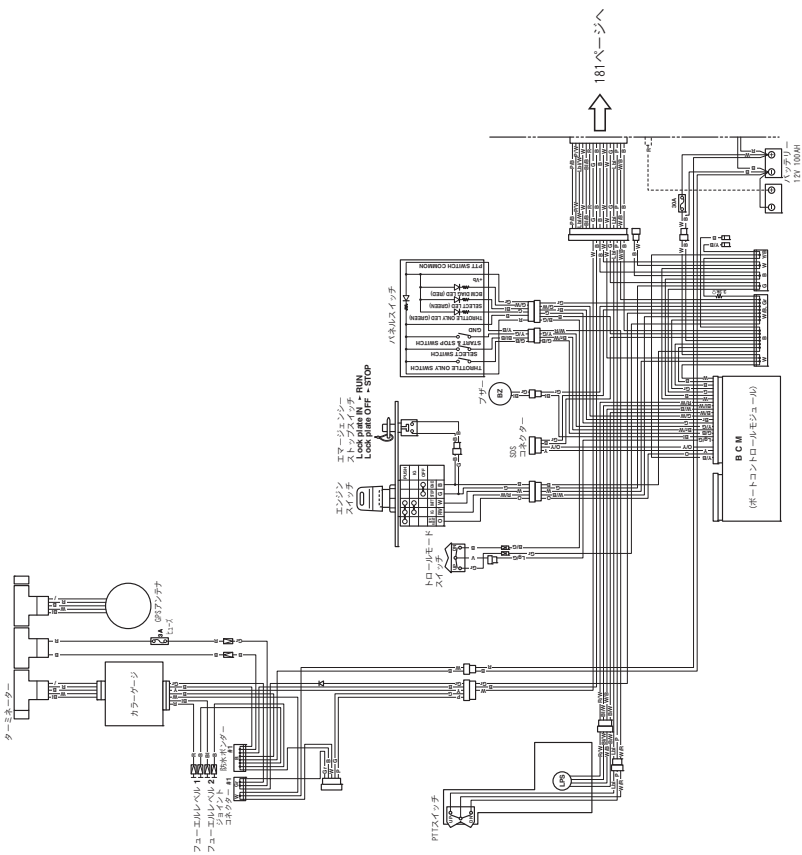
DF200AP



キーレススタートシステム装着の場合


181ページへ
バッテリー
12V 100AH
BCM
(ボディコントロールモジュール)
ECM/パワーリレー
キーレスユニット
イモビライザーアンテナ
Lock plate IN
Lock plate OFF→RUN
Lock plate OFF→STOP
メインスイッチ
トロールモードスイッチ
ターミネーター
マルチファンクションゲージ
フューエルレベル1センダーユニットコネクター
フューエルレベル2センダーユニットコネクター
PTTスイッチ
ホーン
ヒューズ
ヘッドライトリレー
ヘッドライトスイッチ
ヘッドライト
ターンシグナルランプ
ターンシグナルスイッチ
ハザードスイッチ
ハザードランプ
ターンシグナルリレー
ターンシグナルランプ
ターンシグナルスイッチ
ターンシグナルランプ
ターンシグナルランプ
ターンシグナルランプ

キーレススタートシステム非装着の場合



配線色

B	：黒	B/W	：青/白
Bl	：青	B/Y	：青/黄
Br	：茶	Br/B	：茶/黒
G	：緑	Br/R	：茶/赤
Gr	：灰	Br/W	：茶/白
Lg	：淡緑	Br/Y	：茶/黄
O	：橙	G/B	：緑/黒
P	：桃	G/Bl	：緑/青
R	：赤	G/W	：緑/白
V	：紫	Gr/Bl	：灰/青
W	：白	Gr/G	：灰/緑
Y	：黄	Gr/R	：灰/赤
BBr	：黒/茶	Gr/Y	：灰/黄
BG	：黒/緑	Lg/B	：若葉/黒
BLg	：黒/若葉	Lg/Bl	：若葉/青
BR	：黒/赤	Lg/G	：若葉/緑
BW	：黒/白	Lg/R	：若葉/赤
BWB	：青/黒	Lg/W	：若葉/白
BWR	：青/赤	O/B	：橙/黒
		O/G	：橙/緑
		O/Y	：橙/黄
		P/B	：桃/黒
		P/Bl	：桃/青
		P/W	：桃/白
		P/Y	：桃/黄
		R/B	：赤/黒
		R/Bl	：赤/茶
		R/W	：赤/白
		R/Y	：赤/黄
		V/W	：紫/白
		W/B	：白/黒
		W/Bl	：白/青
		W/G	：白/緑
		W/R	：白/赤
		W/Y	：白/黄
		Y/B	：黄/黒
		Y/Bl	：黄/青
		Y/G	：黄/緑

製品についてのご相談、ご要望は

製品のことやアフターサービスなどについてのご相談、ご要望がありましたら、お買い上げいただきましたスズキ販売店、または次ページに記載されている、お近くのスズキ特約店にご相談ください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名及び型式、製造番号
②ご購入年月日
③ご相談内容
④お客様のご住所、お名前、電話番号

スズキ株式会社の窓口は……

〒 432-8611　浜松市南区高塚町 300 番地
スズキ株式会社
お客様相談室
電話：フリーダイヤル
0120-402-253

受付時間
月曜から金曜（除く祝日）
9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00

※ 弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、スズキ株式会社ホームページにて掲載していますのでご覧ください。(http://www.suzuki.co.jp)

府県名	特約店名	電話番号	所 在 地
北海道	㈱スズキマリン　北海道営業所	011-712-6201	札幌市東区北 30 条東 1 丁目 1-44
青　森	㈱スズキ自販青森	017-781-5114	青森市石江字高間 47-1
岩　手	㈲スズキ船外機商会	0194-53-5181	久慈市長内町 37-21-11
宮　城	㈱スズキマリン　東北営業所	022-284-8310	仙台市宮城野区扇町 5 丁目 11-3
宮　城	気仙沼スズキ販売	0226-23-1437	気仙沼市田谷 20-11
神奈川	㈱スズキマリン　関東営業所	045-958-2101	横浜市旭区川井本町 105-2
静　岡	㈱スズキマリン　スズキマリーナ浜名湖	053-578-2452	湖西市新所 4494-90
愛　知	㈱スズキマリン　スズキマリーナ三河御津	0533-76-3521	豊川市御津町御幸浜 1 号地 1 番 25
愛　知	㈱スズキマリン　中部営業所	052-613-5656	名古屋市南区元塩町 6-24
三　重	㈱スズキマリン　白子マリーナ	059-387-3567	鈴鹿市江島本町 16-31
富　山	㈱スズキマリン　北陸営業所	0766-86-3750	射水市新堀 39
兵　庫	㈱スズキマリン　関西営業所	078-978-6010	神戸市西区伊川谷町有瀬 1567 番地 1
岡　山	東中国スズキ自動車 ㈱	086-424-8600	倉敷市沖 8-1
香　川	㈱スズキマリン　四国営業所	087-881-7830	高松市鬼無町山口 703-1
広　島	㈱スズキマリン　中国営業所	082-424-1144	東広島市西条中央 4 丁目 10-48
福　岡	九州スズキ販売 ㈱	092-411-5575	福岡市博多区榎田 1-1-4
熊　本	㈱スズキマリン　九州営業所	096-312-5166	熊本市平田 1 丁目 1-6
熊　本	㈱スズキマリン　スズキマリーナ熊本	0964-53-0714	宇城市三角町戸馳 11
大　分	岡田モーター販売 ㈾	0972-22-0789	佐伯市中の島 2-21-24
沖　縄	㈱スズキ自販沖縄	098-855-6111	那覇市字上間 531-1

点検・整備記録表

定期点検			
点検時期	**実施販売店**	**実施者氏名**	**実施日**
初回 20 時間目			・　・　・
6 ヶ月目			・　・　・
12 ヶ月（1年）目			・　・　・
18 ヶ月目			・　・　・
24 ヶ月（2年）目			・　・　・
30 ヶ月目			・　・　・
36 ヶ月（3年）目			・　・　・
42 ヶ月目			・　・　・
48 ヶ月（4年）目			・　・　・
54 ヶ月目			・　・　・
60 ヶ月（5年）目			・　・　・
66 ヶ月目			・　・　・
72 ヶ月（6年）目			・　・　・

＊ 点検の内容は、この取扱説明書の「定期点検」の章に記載してあります各項目に従ってください。
＊ その他の整備を行った場合は、整備の主内容を次ページにご記入してください。
＊ 点検整備は、お客様の費用と責任で行ってください。

その他の整備			
整備内容	実施販売店	実施者氏名	実施日
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・
			・　・　・

製　　作

静岡県浜松市南区高塚町300番地

スズキ株式会社

船外機技術部

2015年 2月

パーツ No. 99011-96L10-000

不　許　複　製

スズキ株式会社

2015.02

99011-96L10-000 TK